

2021年3月

大学ボランティアに関する

全 国 実 態 調 査

報 告 書



東京ボランティア・市民活動センター

発行にあたって

かつて、本センターが調査主体となって、大学（短大を含む）がボランティア活動を支援する仕組み、ボランティア活動に関する学習プログラム等に関する調査を実施したことがあったが、今回の調査は久方ぶりである。これまで、他団体による調査が実施されていた時期もあったので、大学ボランティアセンターの活動などの情報を入手できていたが、この10年あまり該当する調査が少なくなり、全国の動向をつかみにくくなってしまっていた。本センターとしては大学教育におけるボランティア実践の持つ意義に深い関心を寄せ続けてきたことから大学ボランティアセンターの集まりを何度か行い情報を共有する機会を重ねてきた。その集まりの中で、大学においてボランティア活動支援の実態を把握したいとの声が上がってきた。その声にこたえて今回、本調査を行うこととなった。

ライフステージにおける10代後半から20代前半は人の一生の中で、多感な時期である。この時期の若者はいろいろなことにとらわれずに自由に社会の動きに関心を寄せ、主体的、自主的に、時に創造的に興味、関心に基づいて、さまざまな課題に挑戦することができる年代ではないかと思う。その中での選択の一つにボランティア活動に参加するという選択があってもよいのではないかと考えてきた。

しかし、現実には学生たちの日常に接しているとあまり自由な時間が持てなくなっているようにみえる。例えば、多くの時間をアルバイトや、実習などに割くこととなり、多忙を極めていること、また、一方で自由な時間を社会的活動にあてることまで心が広がらず、インターネットやスマホなどデジタルの世界に熱中し、社会的なつながりを持ちにくく、とじこもりの傾向もみられるともいわれている。ちなみに東京都生活文化局が毎年行っている調査によれば、20代がボランティア体験の最も少ない年代層であることが報告されている。コロナ禍もあり、自由に出歩くことが制限され、学生の生活に変化が見えてきているという傾向もあり、自由でのびやかな体験に出合える機会が制限されている大学としてどのような対応が進められているのかも問われている。

本調査は文部科学省学校基本調査の対象となっている1,117大学に調査票を送付し、紙媒体とWEBによる回答様式により実施され、回収数は637（回答率57.0%）であった。調査の目的は調査概要2-1に示したとおりである。本調査の内容は特定非営利活動法人ユースビジョンの作成した調査票を参考にさせていただき、現職の大学ボランティアセンター職員の協力を得て作成された。第一にボランティア活動支援組織の有無、支援組織がない場合は今後支援組織設立の予定があるかを問うている。第二に設置していると回答した大学に支援内容についての調査、第三に調査に同意いただいた大学にはさらにボランティア支援の詳細な実態調査を実施している。

青年期初期に、学生の多様な興味、関心に対応して、ニーズにこたえるべく、工夫を重ね、学生の貴重な時間を生かしてボランティア活動に参加できる支援基盤を形成することを期待したい。その為に、本調査が示す実態を十分に吟味し、どのような工夫が求められるか、どのような条件が具備されなければならないのか検討する素材として活用して頂ければ幸いである。特に本調査にご協力いただいた各大学の担当者の皆様にはお忙しい中を丁寧に回答いただき、心からお礼を申し上げたい。

東京ボランティア・市民活動センター

山崎 美貴子

<目 次>

◆発行にあたって

I. 調査概要	5
II-1. 調査結果	
A. 調査票A票の回答結果	7
B. 調査票B票の回答結果	9
C. 調査票C票の回答結果	18
II-2. クロス集計	63
III. 考察	77
◆おわりに	82
◆資料	
・「大学ボランティアに関する全国実態調査」調査票A票・B票・C票	83
・大学ボランティア活動を担当する部署がある大学・短期大学リスト.....	98
◆ご協力いただいたみなさん.....	110

I 調査概要

1 はじめに

近年、青年期前期に在籍する大学・短期大学（以下、大学等）においては、ボランティア活動に関する情報収集提供やアドバイザー活動、マッチング活動に加え、ネットワーキング活動や東日本大震災をはじめ、毎年のように発生する自然災害災害支援活動、授業支援活動など多岐にわたって行われており、学生のボランティア活動への参加を支援する取り組みが一層広がりを見せている。

全国の大学生（2019年度：約290万人）や短期大学生（2019年度：約10万人）が、大学等においてどのようなボランティア活動の体験をするか、またはボランティア活動に対する肯定的・積極的意識を抱くかは、一市民が生涯にわたってボランティア活動や市民活動に取り組むライフスタイルを形成する上できわめて重要である。この重要課題を担う大学等におけるボランティアセンターなどのボランティア活動推進・支援組織が全国的にどのような実態にあるかを明らかにした研究は、2009年に特定非営利活動法人ユースビジョンによって実施された「全国における大学ボランティアセンター実態調査」以降包括的な実態把握は行われていない。

そこで、幅広い市民のボランティア参加を目的として推進事業を行っている東京ボランティア・市民活動センターでは、大学におけるボランティア活動支援組織の設置及び運営の実態を知ることを通じて、日本の大学等が学生のボランティア活動等の推進にあたってどのような体制で取り組み、そして課題を有しているか検討することとした。

調査では、ボランティアセンターに相当する部署の有無の他、具体的なセンターの業務内容（情報収集提供、アドバイザー活動、マッチング活動等）、各業務に関する具体的な実施状況などについても把握することを目指した。

2 調査概要

2-1 調査目的

全国の大学等における学生を中心としたボランティア活動の支援状況についてその全容を把握することを通して、大学におけるボランティア活動支援組織の設置及び運営の実態を知ることが目的とする。

2-2 調査主体

東京ボランティア・市民活動センター
(調査業務及び集計は株式会社トリムに業務委託した)

2-3 調査方法

文部科学省の学校基本調査の対象となっている全国の大学等1,117校を調査対象として、郵送によって、各校のボランティア活動支援組織の有無を聞く調査票（A票）を配布し、設置していると回答した大学等に支援内容について把握する調査票（B票）を配布した。さらに、より詳細な支援方法について、A票にて担当する部署があると回答した大学等に詳細なボランティア支援実態を聞く調査票（C票）を配布した。調査票の作成にあたっては貴重な先行研究である前出ユースビジョンによって実施された「全国における大学ボランティアセンター実態調査」の質問項目を参考として、現職の大学ボランティアセンター職員の協力を得て、現状に応じた追加項目を加えて作成した。

2-4 主な調査項目

調査票 A

- ・学外からのボランティア活動に関する協力依頼等に対応したり、学生に対し、ボランティア情報の提供・ボランティア活動の相談等を担当する部署の有無
- ・今後のボランティアセンター等の設立予定

調査票 B

- ・「調査票 A」にて回答された担当部署の業務内容について

調査票 C

- ・ボランティア担当部署の事業実施状況について
- ・ボランティア担当部署の運営体制について

2-5 調査期間

調査票 A・B：2019年10月1日（火）～2020年1月27日（月）

調査票 C：2020年2月14日（金）～2020年3月6日（金）

2-6 回答方法

回答方法は、調査対象が紙媒体による場合とWebによる場合を選択できるようにした。

2-7 回収数

種別	対象	回収数	回収率	備考
A票	1,117件	637件	57.0%	全国1,117校の大学・短期大学を対象
B票	1,117件	532件	47.6%	〃
C票	529件	346件	65.4%	A票に回答した大学・短大のうち、ボランティア活動を担当する部署を持つと回答した大学等を対象

回答様式内訳

様式	紙媒体による回収	Webによる回収
A票	321件（50.4%）	316件（49.6%）
B票	267件（50.2%）	265件（49.8%）
C票	151件（43.6%）	195件（56.4%）

3 倫理的配慮

調査において発生した情報の収集と利用に関しては、個人が特定できる情報内容に関しては匿名化することを対象者に周知した。また調査結果の公表にあたっては機関が特定できる情報は対象となる機関の同意の上で開示することとした。

Ⅱ－１．調査結果

本調査については、A票、B票、C票ともMicrosoft ExcelおよびIBM SPSS.Ver24を用いて集計した。カテゴリーデータについては、単純集計および一部の項目についてクロス集計を実施した。

自由記述については、極力質問紙回答者の表現を尊重しているが、一部内容に影響をあたえない範囲で記述を改変している。また記述内容がほぼ同傾向のものについては内容をその都度再現せず、回答数のみを表示している場合がある。

Ⅱ－１ 単純集計結果

A．調査票A票の回答結果

A－１．ボランティア活動支援組織の有無

調査対象大学に対して、学内におけるボランティア活動支援に関する組織の有無について質問したところ、「ボランティアセンター、ボランティア室、ボランティアビューロー、サービスラーニングセンターあるいは地域連携センター等、ボランティア活動を専門に担当する部署がある」と回答した大学等は127大学（19.9％）であり、「他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある（学生部、教務部、宗教部等）」と回答した大学は、379大学（59.5％）、「対応する部署がない」と回答した大学は、102大学（16.0％）であった。約2割にボランティア活動を支援する組織が置かれている一方で、約6割の大学では学生部等の他部署において兼務的にボランティア支援を行っている実態である。また、16％でボランティア活動を支援する組織がないことも今後の課題として明らかになった。

その他に属する回答は、選択肢2の「他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある」に含まれると思われるものがほとんどであったが、ここでは回答者の意向のまま「その他」として集計した。

表A－１．ボランティア活動支援組織の有無

		回答数	%
①	ボランティア活動を専門に担当する部署がある（ボランティアセンター、ボランティア室、ボランティアビューロー、サービスラーニングセンター、地域連携センター等）	127	19.9
②	他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある（学生部、教務部、宗教部等）	379	59.5
③	その他	23	3.6
④	上記に対応する部署はない	102	16.0
	全体	637	100.0

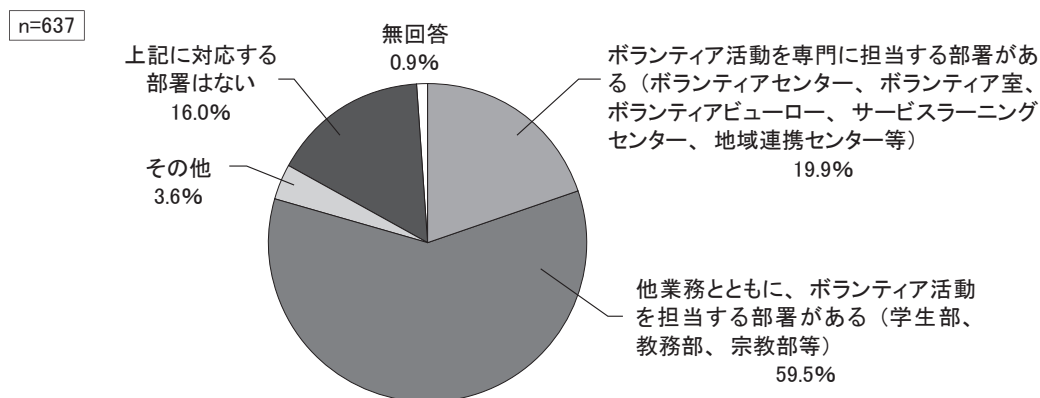


図 A - 1 ボランティア活動支援組織の有無

A-2. 今後のボランティア支援組織設立の予定

ボランティア支援に関する専門的部署を設置していないと回答した大学等に対して、今後専門的な支援組織を設立する予定であるか否かを問うたところ、「具体的に、設立に向けて検討している」と回答した大学は3大学（0.6%）にとどまり、「設立は検討していない、または、設立しない」と回答した大学が389大学（76.3%）と全体の約8割弱に達している。一方で「まだ具体的ではないが、将来的な設置を含めて検討している」大学が55大学（10.8%）、「大学側は検討していないが、学生側に自主的な動きがある」大学が31大学（6.1%）となっており、合わせて約17%の大学で今後ボランティアセンター等が設立される可能性が示されている。

表 A - 2 ボランティア支援組織設立の予定

		回答数	%
①	具体的に、設立に向けて検討している	3	0.6
②	まだ具体的ではないが、将来的な設置を含めて検討している	55	10.8
③	設立は検討していない、または、設立しない	389	76.3
④	大学側は検討していないが、学生側に自主的な動きがある	31	6.1
	無回答	32	6.3
	全体	510	100.0

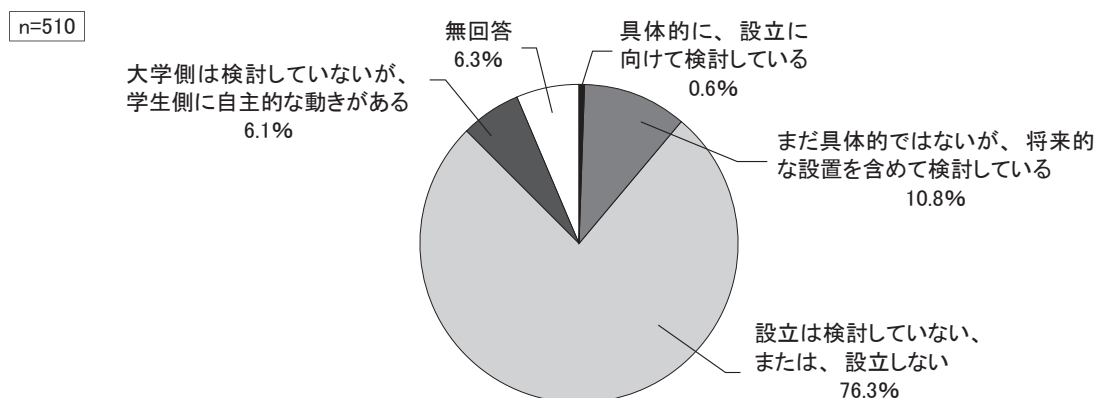


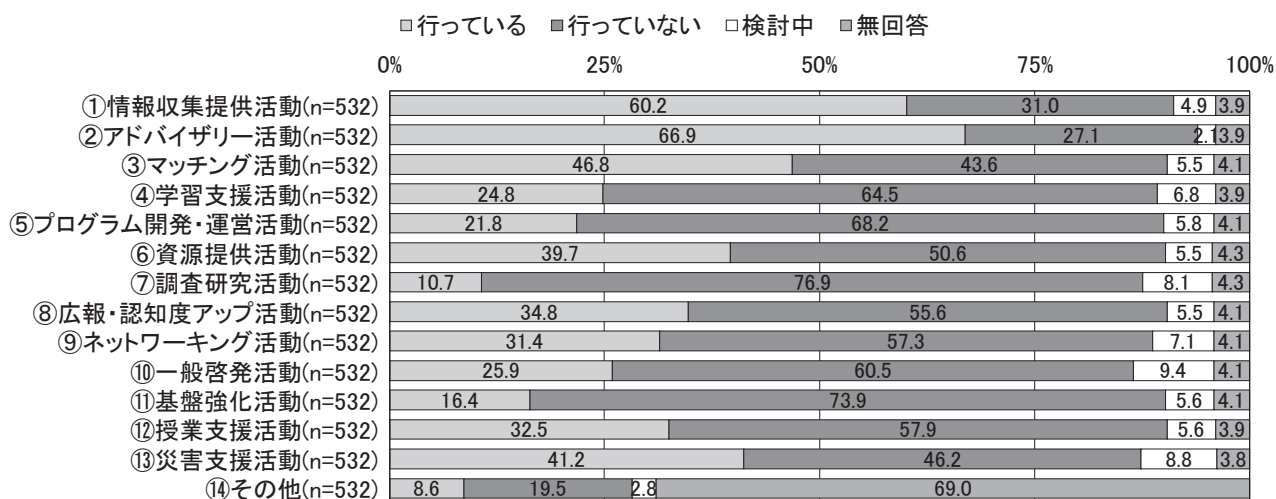
図 A - 2 ボランティア支援組織設立の予定

B. 調査票B票の回答結果

A票において、「ボランティア活動を専門に担当する部署がある」「他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある」「その他」と回答した大学に対して、どのような支援活動を行っているかを質問したものがB票である。

全体の傾向

B票においては、一部組織的支援を行ってはいない大学も回答しており、有効回答数は532大学（回収回答数に占める割合は約83.5%）である。図B-0は、全体の事業内容の実施状況を示している。13種の事業内容のうちで、最も多く実施されていた活動はアドバイザー活動であり、全体のうち356大学（66.9%）が実施していた。次いで、情報収集提供活動が320大学（60.2%）、マッチング活動が249大学（46.9%）、災害支援活動219大学（41.2%）となっている。反対に実施している大学機能が少ない活動は、調査研究活動が57大学（10.7%）、基盤強化活動87大学（16.4%）となっている。情報収集提供や相談援助（アドバイス）の活動が多く大学の行われている反面で、調査研究や基盤強化など、大学としての組織的なボランティア活動支援の基礎的な組織強化に関わる活動は取り組まれにくい傾向にあることがわかる。なお、「その他」の回答の多くは、13種の事業内容の中に含まれるものであるが、ここでは回答者の意向のまま「その他」として集計した。



図B-0. 事業内容：全体の傾向

各事業の実施状況

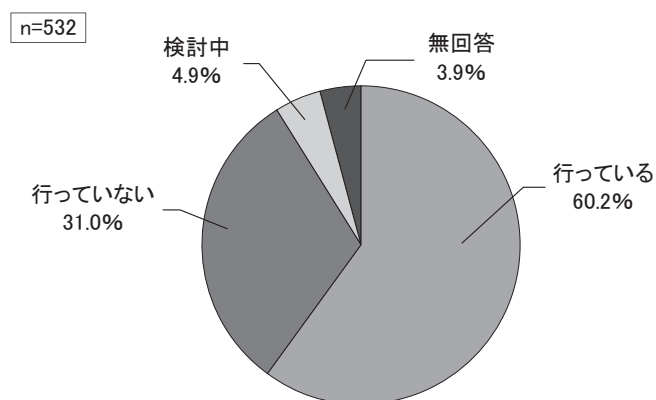
以下に、各事業内容の実施状況を示す。

B－1．情報収集提供活動

情報収集提供活動の実施状況は、表B－1・図B－1の通りである。「行っている」が約60%、「行っていない」が約30%と、実施が未実施の約2倍の比率となっている。

表B－1．情報収集提供活動の実施状況

	回答数	%
行っている	320	60.2
行っていない	165	31.0
検討中	26	4.9
無回答	21	3.9
全体	532	100.0



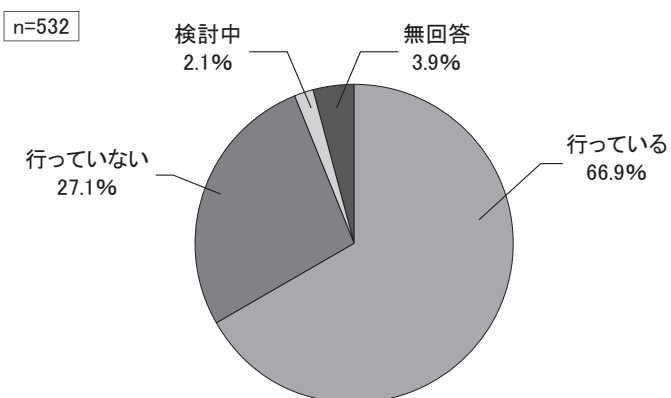
図B－1 情報提供収集活動の実施状況

B－2．アドバイザー活動

アドバイザー活動の実施状況は、表B－2・図B－2の通りである。「行っている」が約67%、「行っていない」が約27%となっており、13種の事業内容の中では最も実施率が高い。

表B－2 アドバイザー活動の実施状況

	回答数	%
行っている	356	66.9
行っていない	144	27.1
検討中	11	2.1
無回答	21	3.9
全体	532	100.0



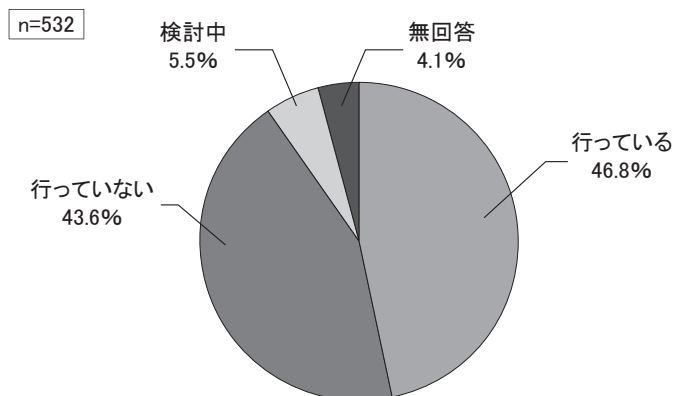
図B－2 アドバイザー活動の実施状況

B-3. マッチング活動

マッチング活動の実施状況は、表B-3・図B-3の通りである。「行っている」が約47%、「行っていない」が約44%となっており、実施・未実施がほぼ拮抗している。

表B-3 マッチング活動の実施状況

	回答数	%
行っている	249	46.8
行っていない	232	43.6
検討中	29	5.5
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



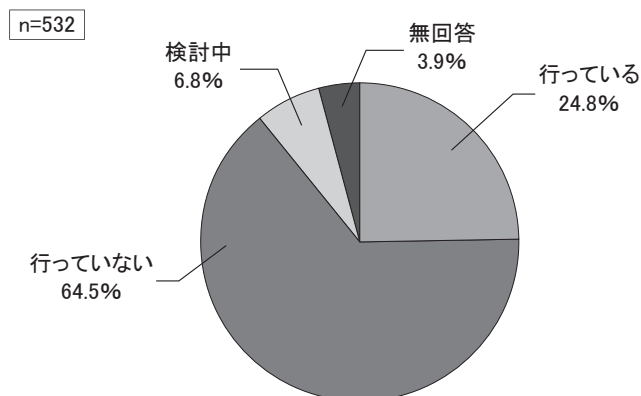
図B-3 マッチング活動の実施状況

B-4. 学習支援活動

学習支援活動の実施状況は、表B-4・図B-4の通りである。「行っている」が約25%、「行っていない」が約65%となっている。

表B-4 学習支援活動の実施状況

	回答数	%
行っている	132	24.8
行っていない	343	64.5
検討中	36	6.8
無回答	21	3.9
全体	532	100.0



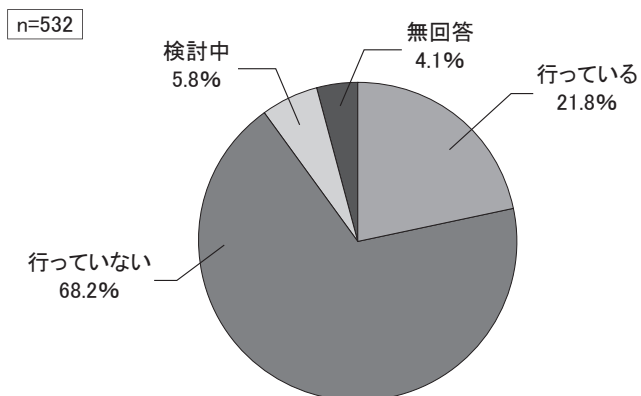
図B-4 学習支援活動の実施状況

B-5. プログラム開発・運営活動

プログラム開発・運営活動の実施状況は、表B-5・図B-5の通りである。「行っている」が約22%、「行っていない」が約68%となっており、実施率は約5分の1である。

表B-5 プログラム開発・運営活動の実施状況

	回答数	%
行っている	116	21.8
行っていない	363	68.2
検討中	31	5.8
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



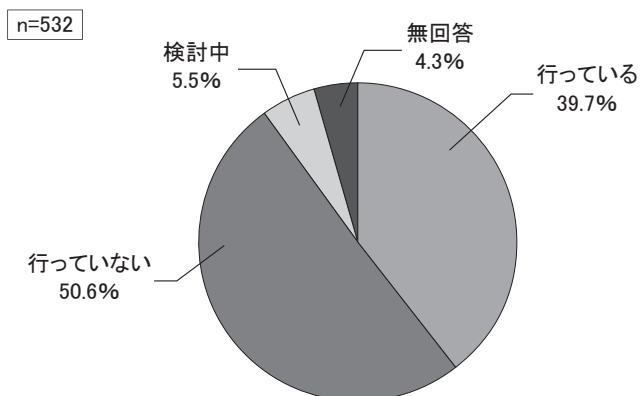
図B-5 プログラム開発・運営活動の実施状況

B-6. 資源提供活動

資源提供活動の実施状況は、表B-6・図B-6の通りである。「行っている」が約40%、「行っていない」が約50%となっており、実施率は約40%と13種の事業内容の中では比較的高い実施率である。

表B-6 資源提供活動の実施状況

	回答数	%
行っている	211	39.7
行っていない	269	50.6
検討中	29	5.5
無回答	23	4.3
全体	532	100.0



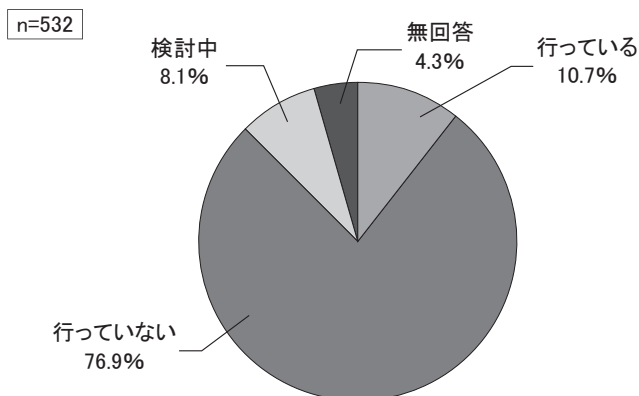
図B-6 資源提供活動の実施状況

B－7．調査研究活動

調査研究活動の実施状況は、表B－7・図B－7の通りである。「行っている」が約10%、「行っていない」が約77%となっており、13種の事業内容の中では最も低い実施率である。

表B－7 調査研究活動の実施状況

	回答数	%
行っている	57	10.7
行っていない	409	76.9
検討中	43	8.1
無回答	23	4.3
全体	532	100.0



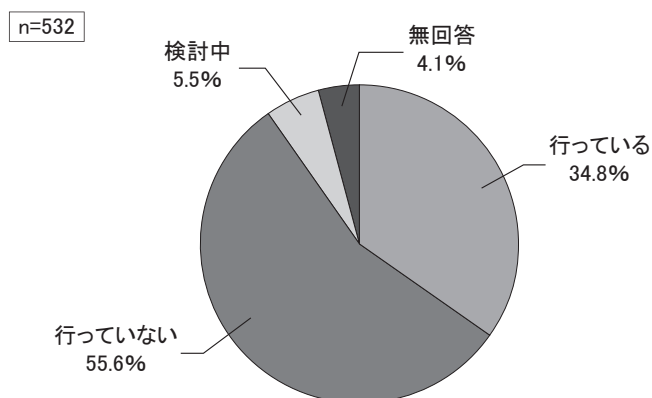
図B－7 調査研究活動の実施状況

B－8．広報・認知度アップ活動

広報・認知度アップ活動の実施状況は、表B－8・図B－8の通りである。「行っている」が約35%、「行っていない」が約56%となっている。

表B－8 広報・認知度アップ活動の実施状況

	回答数	%
行っている	185	34.8
行っていない	296	55.6
検討中	29	5.5
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



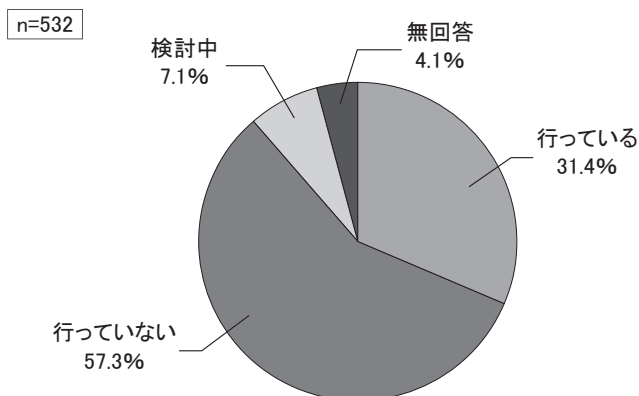
図B－8 広報・認知度アップ活動の実施状況

B-9. ネットワーキング活動

ネットワーキング活動の実施状況は、表B-9・図B-9の通りである。「行っている」が約30%、「行っていない」が約57%となっており、実施は未実施の約2分の1である。

表B-9 ネットワーキング活動の実施状況

	回答数	%
行っている	167	31.4
行っていない	305	57.3
検討中	38	7.1
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



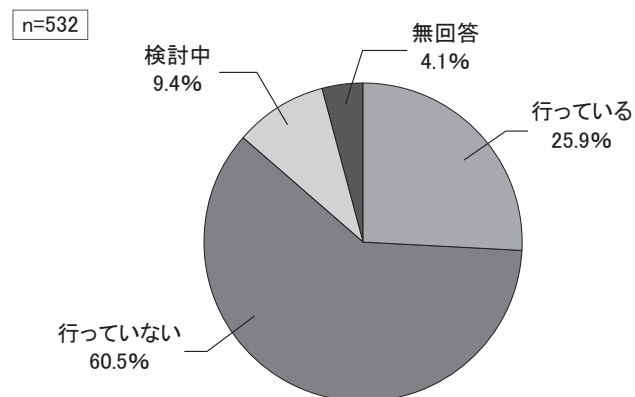
図B-9 ネットワーキング活動の実施状況

B-10. 一般啓発活動

一般啓発活動の実施状況は、表B-10・図B-10の通りである。「行っている」が約26%、「行っていない」が約60%となっており、実施は未実施の半数以下にとどまっている。

表B-10 一般啓発活動の実施状況

	回答数	%
行っている	138	25.9
行っていない	322	60.5
検討中	50	9.4
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



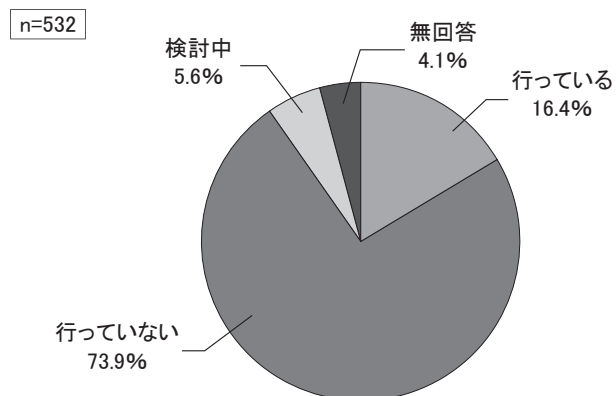
図B-10 一般啓発活動の実施状況

B-11. 基盤強化活動

基盤強化活動の実施状況は、表B-11・図B-11の通りである。「行っている」が約16%、「行っていない」が約74%となっており、実施は未実施の約5分の1である。

表B-11 基盤強化活動の実施状況

	回答数	%
行っている	87	16.4
行っていない	393	73.9
検討中	30	5.6
無回答	22	4.1
全体	532	100.0



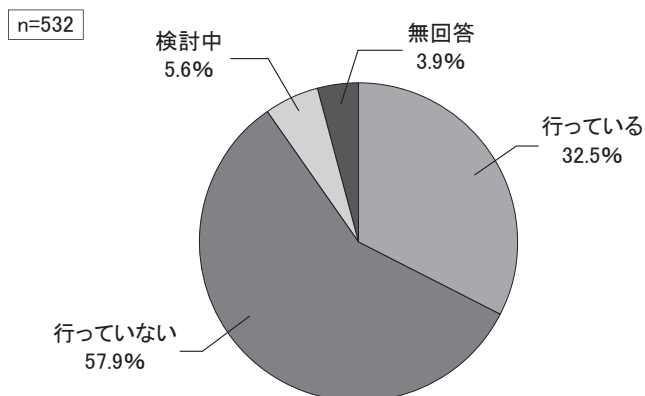
図B-11 基盤強化活動の実施状況

B-12. 授業支援活動

授業支援活動の実施状況は、表B-12・図B-12の通りである。「行っている」が約33%、「行っていない」が約58%となっており、実施は約3割強と比率としては高くないものの、13種の事業の中では比較的高い。

表B-12 授業支援活動の実施状況

	回答数	%
行っている	173	32.5
行っていない	308	57.9
検討中	30	5.6
無回答	21	3.9
全体	532	100.0



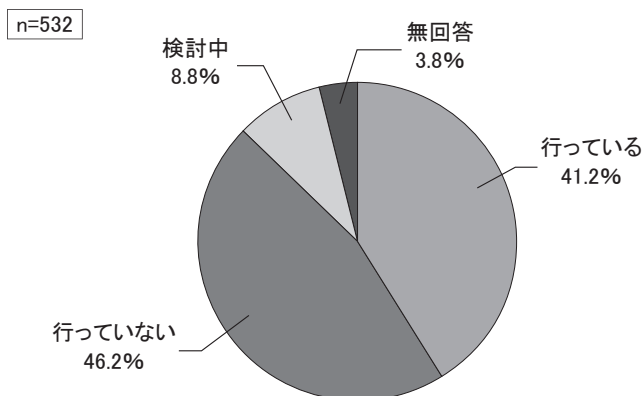
図B-12 授業支援活動の実施状況

B-13. 災害支援活動

災害支援活動の実施状況は、表B-13・図B-13の通りである。「行っている」が約40%、「行っていない」が約46%となっており、実施・未実施が拮抗しており、13種の事業の中では比較的实施率が高い。

表B-13 災害支援活動の実施状況

	回答数	%
行っている	219	41.2
行っていない	246	46.2
検討中	47	8.8
無回答	20	3.8
全体	532	100.0



図B-13 災害支援活動の実施状況

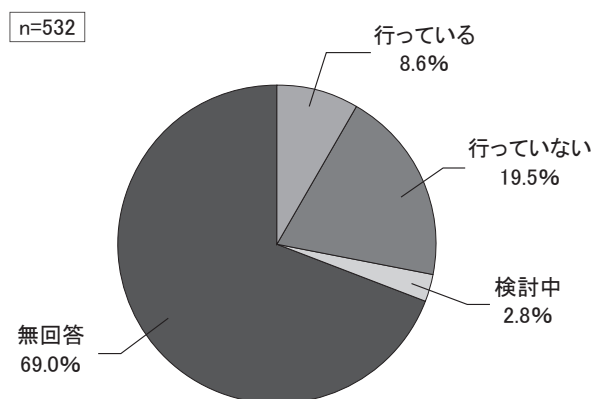
B-14. その他の活動

その他の活動の実施状況は、表B-14・図B-14の通りである。「行っている」が約9%、「行っていない」「無回答」の合計が約88%であり、しかも行われている活動のほとんどは13種の事業のいずれかに区分できる。

いくつか特徴のあるものを挙げる。

表B-14 その他の活動の実施状況

	回答数	%
行っている	46	8.6
行っていない	104	19.5
検討中	15	2.8
無回答	367	69.0
全体	532	100.0



図B-14 その他の活動の実施状況

◆「その他」のうち特徴ある活動（抜粋）

- ・ 高大連携活動
- ・ 教育旅行等受入プログラム
- ・ 外部委員として参画
- ・ 地域支援活動
- ・ キャンパスがある地域の活性化を各キャンパスで行う活動（イベントや祭りに参加）

- ・学内におけるサービslラーニングの推進・サービslラーニング科目の運営
- ・自主防犯ボランティア活動
- ・学生ボランティアコーディネーターの養成
- ・こども食堂の運営
- ・地域連携推進活動
- ・Webボランティア手帳（システム）、ボランティアパスポート
- ・海外の児童教育支援を調査し、ボランティアを実施した

C. 調査票C票の回答結果

C票は、A・B票回収時に「ボランティア活動を専門に担当する部署がある」または「他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある」「その他」と回答したボランティア担当部署をもつ大学に対して行われた実状調査である。

なお、C票では、「フェースシート」の他、「事業面」「運営面」について各設問を設けて尋ねており、本報告書では、各設問について以下の凡例の通り略称で表記する。

【凡例】

C票の設問分野の表記	報告書上の略称
フェースシート	Cフ（以下設問番号）
事業面	C事（以下設問番号）
運営面	C運（以下設問番号）

C－フ1. センター等の開所日

表C－フ1 ボランティア担当部署の開所日につき週日ごとに複数回答で質問した結果である。これによると、回答したボランティア担当部署の開所日は、月曜日から金曜日までは平均的に約8割以上の比率で開所されており、水曜日と金曜日の開所率がやや高いが、ほぼ均等である。他方、土曜日と日曜日の開所率は低く、特に日曜日の開所は低率である。

表C－フ1 センター等の開所日（週日）（複数回答）

	回答数	%		回答数	%
月	298	86.1	土	44	12.7
火	298	86.1	日	7	2.0
水	301	87.0	無回答	45	13.0
木	297	85.8	全体	346	100.0
金	301	87.0			

C－フ2. 大学ボランティアセンター等の設立年

表C－フ2は大学ボランティアセンター等の設立年の分布を1981年以降5年の階級別に示している。これについては、専門部署を設置している大学のためのデータを対象とした。対象となった80大学のうちで、最も開設数が多かった年代は2006年～2010年であり、次いで2011年～2015年、2016年～2020年となっている。

表C－フ2 ボランティアセンター等の設立年分布

専門部署の設立年分布			
1981年以前	3	2001年～2005年	11
1981年～1985年	2	2006年～2010年	23
1986年～1990年	1	2011年～2015年	18
1991年～1995年	0	2016年～2020年	15
1996年～2000年	7		

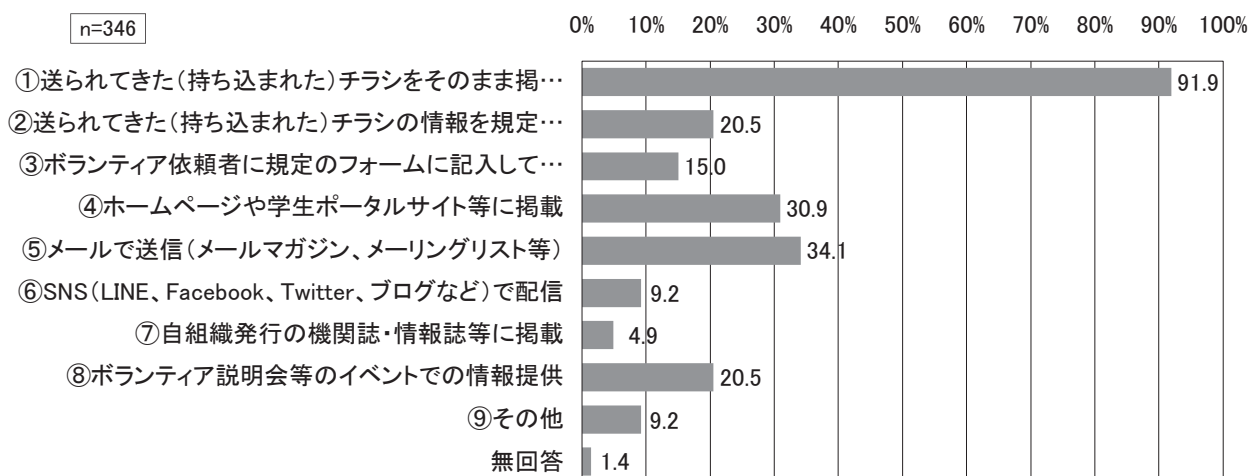
【事業面】

C－事1（1）担当部署からの情報提供手段

表C－事1（1）・図C－事1（1）は、ボランティア担当部署からの情報提供手段の種別を複数回答で質問した結果である。最も多く採られている方法は、「送られてきた（持ち込まれた）チラシをそのまま掲示板やラックに掲示したり、ファイリングして設置する」方法（318大学・91.9%）であり、次いで「メールで送信（メールマガジン、メーリングリスト等）」が118大学・34.1%、「ホームページや学生ポータルサイト等に掲載」が107大学・30.9%となっている。大学生の間で最もよく利用されているコミュニケーション手段であるSNSを通じた情報提供は9.2%と10%に満たない。チラシなどを掲示場やラックに配架するという基本的・伝統的方法が主流である点は、大学という機関の情報提供手段としては意外であった。

表C－事1（1）情報提供手段（複数回答）

		回答数	%
①	送られてきた（持ち込まれた）チラシをそのまま掲示板やラックに掲示したり、ファイリングして設置する	318	91.9
②	送られてきた（持ち込まれた）チラシの情報を規定のフォームに当てはめてフォームを掲示板に掲示	71	20.5
③	ボランティア依頼者に規定のフォームに記入してもらい、そのフォームを掲示板に掲示	52	15.0
④	ホームページや学生ポータルサイト等に掲載	107	30.9
⑤	メールで送信（メールマガジン、メーリングリスト等）	118	34.1
⑥	SNS（LINE、Facebook、Twitter、ブログなど）で配信	32	9.2
⑦	自組織発行の機関誌・情報誌等に掲載	17	4.9
⑧	ボランティア説明会等のイベントでの情報提供	71	20.5
⑨	その他	32	9.2
	無回答	5	1.4
	全体	346	100.0



図C－事1（1）情報提供手段（複数回答）

◆その他（抜粋）

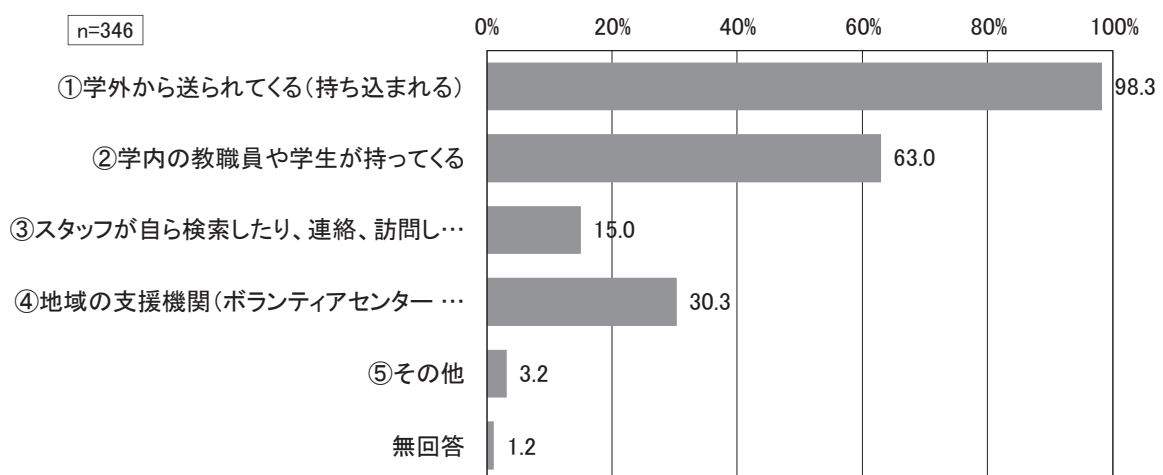
- ・学生団体、サークル等に直接依頼
- ・学生団体、クラブ・サークルのメールBOXに入れる
- ・Office365 One Driveを活用
- ・関係学科の教員に案内
- ・授業で募集

C－事1（2）担当部署の情報収集手段

表C－事1（2）・図C－事1（2）は、ボランティア担当部署が情報収集のために用いている手段を複数回答で質問した結果である。最も多い手段は、「学外から送られてくる（持ち込まれる）」であり、340大学（98.3%）がこの方法をとっている。次いで「学内の教職員や学生が持ってくる」（218大学・63.0%）、「地域の支援機関（ボランティアセンター等）と情報を共有している」（105大学・30.3%）となっている。「スタッフが自ら検索したり、連絡、訪問したりするなど開拓して集めている」は52大学（15.0%）にとどまり、情報収集は「持ち込まれ型」が多いことが示されている。

表C－事1（2）情報収集手段（複数回答）

		回答数	%
①	学外から送られてくる（持ち込まれる）	340	98.3
②	学内の教職員や学生が持ってくる	218	63.0
③	スタッフが自ら検索したり、連絡、訪問したりするなど開拓して集めている	52	15.0
④	地域の支援機関（ボランティアセンター等）と情報を共有している	105	30.3
⑤	その他	11	3.2
	無回答	4	1.2
	全体	346	100.0



図C－事1（2）情報収集手段（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・年間の定期的ボランティアがいくつかある
- ・連携している企業、行政から依頼があるもの

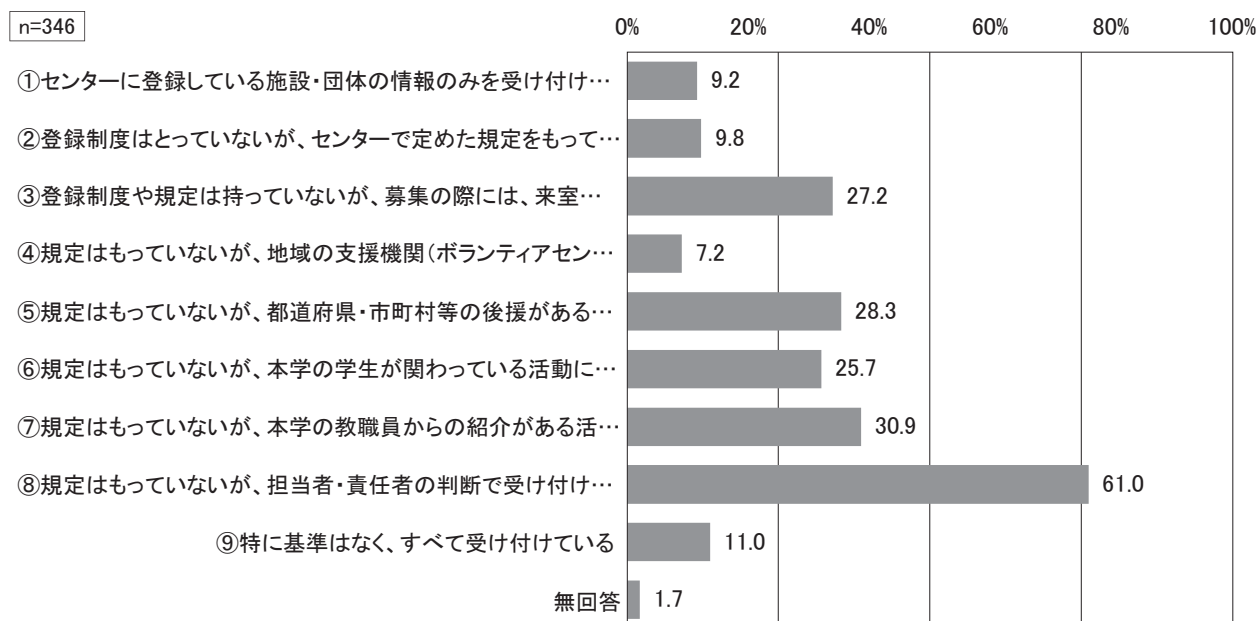
- ・ボランティアサークルが自主的活動として探してくる
- ・学生から持ち込まれる

C－事1（3）ボランティア募集情報の受付基準、掲載基準

表C－事1（3）・図C－事1（3）は、ボランティアの募集に関する情報を受け付ける基準、情報紙等に掲載する基準について質問した結果である。最も多い回答は、「規定はもっていないが、担当者・責任者の判断で受け付けている」の211大学（61.0%）であり、次いで「規定はもっていないが、本学の教職員からの紹介がある活動については受け付けている」（107大学・30.9%）、「規定はもっていないが、都道府県・市町村等の後援がある活動については受け付けている」（98大学・28.3%）となっている。ボランティア募集を学内に公開することについての登録制や基準は設けていない大学が多数に上る。

表C－事1（3）ボランティア募集情報の受付基準、掲載基準（複数回答）

		回答数	%
①	センターに登録している施設・団体の情報のみを受け付けている	32	9.2
②	登録制度はとっていないが、センターで定めた規定をもっている	34	9.8
③	登録制度や規定は持っていないが、募集の際には、来室や電話等で必ずやりとりした上で、受け付けている	94	27.2
④	規定はもっていないが、地域の支援機関（ボランティアセンター等）に問い合わせ判断している	25	7.2
⑤	規定はもっていないが、都道府県・市町村等の後援がある活動については受け付けている	98	28.3
⑥	規定はもっていないが、本学の学生が関わっている活動については受け付けている	89	25.7
⑦	規定はもっていないが、本学の教職員からの紹介がある活動については受け付けている	107	30.9
⑧	規定はもっていないが、担当者・責任者の判断で受け付けている	211	61.0
⑨	特に基準はなく、すべて受け付けている	38	11.0
	無回答	6	1.7
	全体	346	100.0



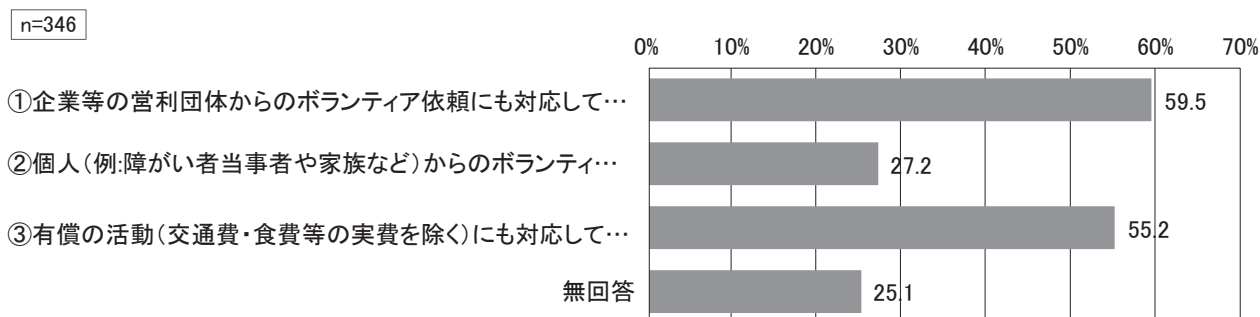
図C－事1（3）ボランティア募集情報の受付基準、掲載基準（複数回答）

C－事1（4）ボランティア募集情報の内容

表C－事1（4）・図C－事1（4）は、ボランティア情報の内容について、特色ある情報を受け入れているか否かについて質問した結果を示している。ここでの「有償の活動」については、依頼先からの条件等で種々の場合が考えられるので、ボランティア活動としてとらえられるか否かについては議論のあるところである。

表C－事1（4）ボランティア募集情報の内容（複数回答）

		回答数	%
①	企業等の営利団体からのボランティア依頼にも対応している	206	59.5
②	個人（例：障がい者当事者や家族など）からのボランティア依頼にも対応している	94	27.2
③	有償の活動（交通費・食費等の実費を除く）にも対応している	191	55.2
	無回答	87	25.1
	全体	346	100.0



図C－事1（4）ボランティア募集情報の内容（複数回答）

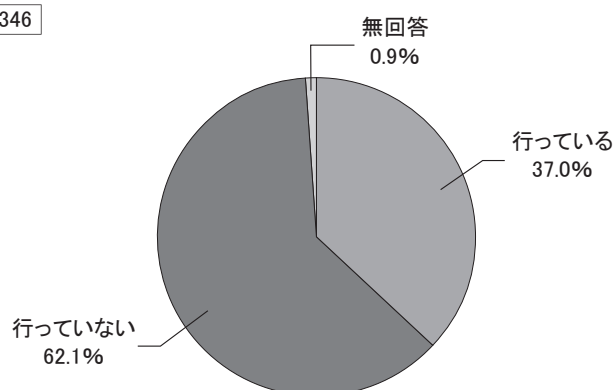
C-事2（1）アドバイザー活動の実施

表C-事2（1）・図C-事2（1）は、ボランティア担当部署による大学生のボランティア活動に対するアドバイザー活動（相談支援活動）の実施の有無を示した結果である。アドバイザー活動を実施している大学は128大学（37.0%）であり全体の約3分の1であり、約3分の2はそうしたアドバイザー活動を少なくとも恒常的活動として行っていないことがわかる。

表C-事2（1）アドバイザー活動の有無

		回答数	%
①	行っている	128	37.0
②	行っていない	215	62.1
	無回答	3	0.9
	全体	346	100.0

n=346



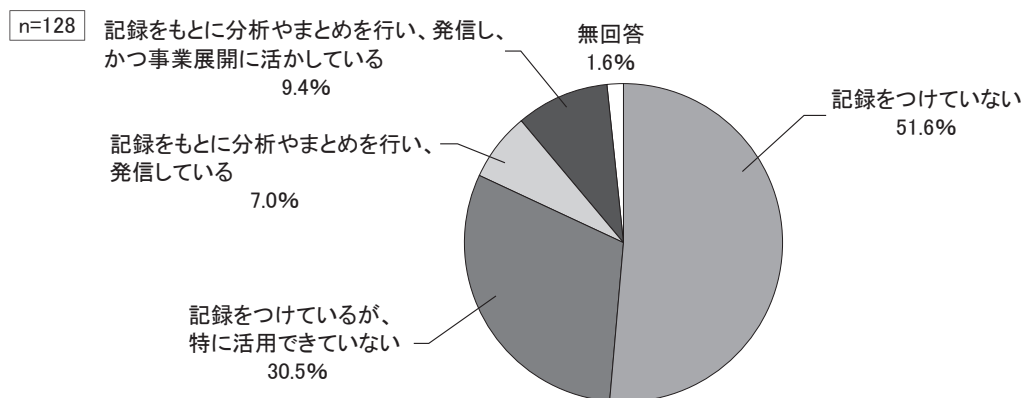
図C-事2（1）アドバイザー活動の有無

C-事2（2）相談・対応の記録の有無

表C-事2（2）・図C-事2（2）は、C-事2（1）においてアドバイザー活動を行っていると回答した大学に対して、ボランティアコーディネートにおいて重要とされている相談・対応の記録を保持することの有無を質問した結果である。「記録をつけていない」と回答した大学は回答数の約半数の66大学（51.6%）である。また、「記録をつけているが、特に活用できていない」と回答した大学は39大学（30.5%）であり、回答数の約8割が相談記録の活用がなされていない。記録の分析を行ったり、それを事業展開に活かしたりしている大学は、合わせて21大学（16.4%）となっている。

表C-事2（2）相談・対応の記録の有無

		回答数	%
①	記録をつけていない	66	51.6
②	記録をつけているが、特に活用できていない	39	30.5
③	記録をもとに分析やまとめを行い、発信している	9	7.0
④	記録をもとに分析やまとめを行い、発信し、かつ事業展開に活かしている	12	9.4
	無回答	2	1.6
	全体	128	100.0



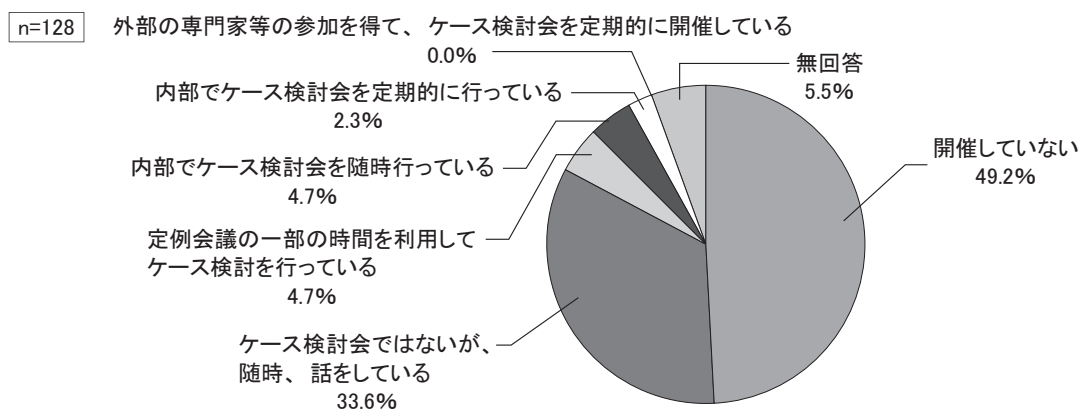
図C－事2（2）相談・対応の記録の有無

C－事2（3）ケース検討会の有無

同じくC－事2（1）においてにアドバイザー活動「行っている」と回答した大学に対して、相談・対応の記録と並んでボランティアコーディネートにおいて重要とされているケース検討会の実施の有無についての質問の結果が表C－事2（3）・図C－事2（3）である。回答数のうち全体の49.2%にあたる63校は「開催していない」と回答している。「ケース検討会ではないが、随時、話をしている」という機会をとらえての検討は約3分の1（33.6%）で行われているものの、ケース検討会として行われている例は少数にとどまる。

表C－事2（3）ケース検討会の有無

		回答数	%
①	開催していない	63	49.2
②	ケース検討会ではないが、随時、話をしている	43	33.6
③	定例会議の一部の時間を利用してケース検討を行っている	6	4.7
④	内部でケース検討会を随時行っている	6	4.7
⑤	内部でケース検討会を定期的に行っている	3	2.3
⑥	外部の専門家等の参加を得て、ケース検討会を定期的を開催している	0	0.0
	無回答	7	5.5
	全体	128	100.0



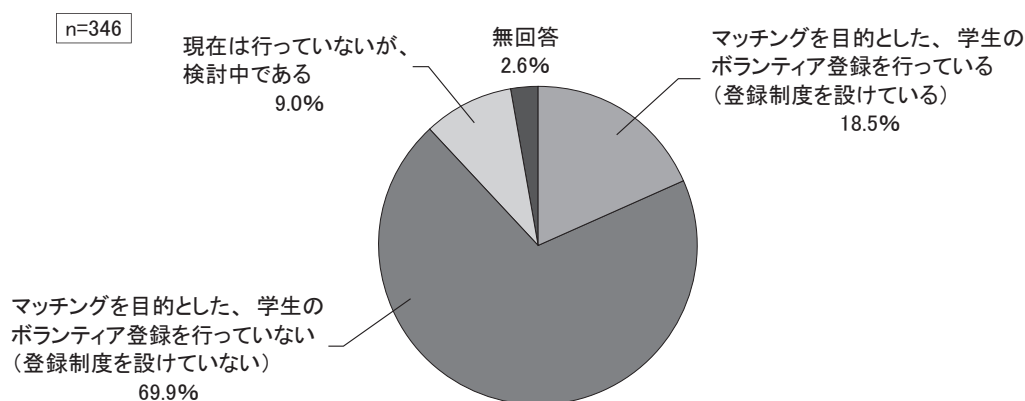
図C－事2（3）ケース検討会の有無

C－事3（1）マッチングを目的とした学生のボランティア登録

表C－事3（1）・図C－事3（1）は、大学生に具体的なボランティア活動の紹介等を行うマッチングを目的とした学生のボランティア登録制度の有無を質問した結果である。約7割（242大学・69.9％）の大学が「マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っていない（登録制度を設けていない）」と回答している。一方で18.5％（64大学）が「マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っている（登録制度を設けている）」と回答している。ボランティア活動の紹介を目的としたマッチングとそのための登録（個人・団体）を行うか否かについては、議論の分かれるところであり、この実態の評価は難しい。

表C－事3（1） マッチングを目的とした学生のボランティア登録

		回答数	%
①	マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っている（登録制度を設けている）	64	18.5
②	マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っていない（登録制度を設けていない）	242	69.9
③	現在は行っていないが、検討中である	31	9.0
	無回答	9	2.6
	全体	346	100.0



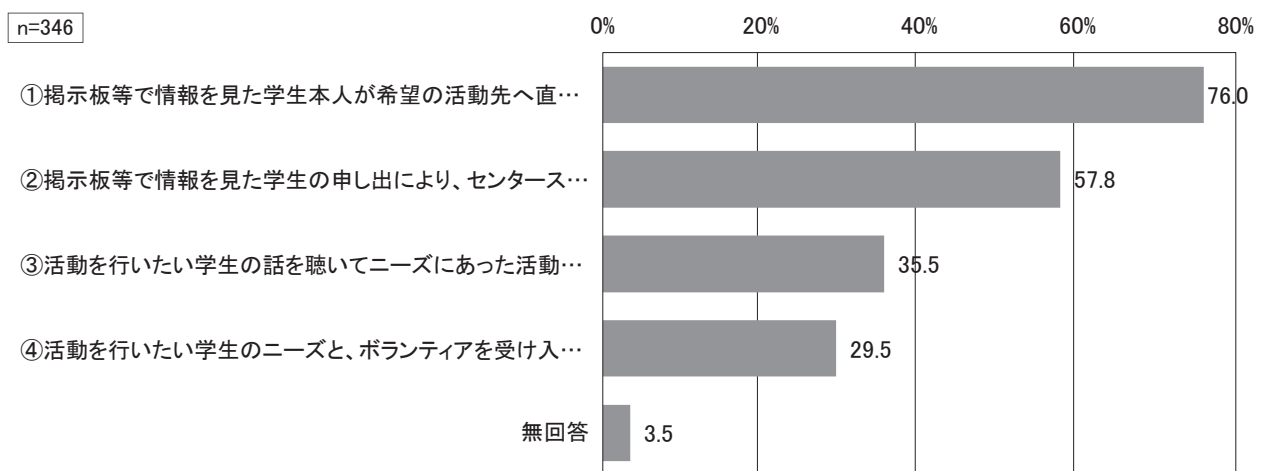
図C－事3（1） マッチングを目的とした学生のボランティア登録

C－事3（2）ボランティア活動のマッチング方法について

表C－事3（2）・図C－事3（2）は、学生のボランティアデマンドに対して、ボランティア担当部署に集約されているボランティアニーズをマッチングさせる方法について質問した結果を示している。最も多い方法は、「学生による直接連絡」であり、263大学（76.0％）がこの方法をとっている。次いで、「学生の申し出によりセンタースタッフが受入先に連絡する」という仲介方法をとる大学が200大学（57.8％）となっている。「活動を行いたい学生のニーズと、ボランティアを受け入れたい人や団体・施設のニーズを把握し、センタースタッフが両者をつなぐコーディネートを行う」というコーディネートをともなったマッチングを行っている大学は102大学（29.5％）となっている。

表C－事3（2）ボランティア活動のマッチング方法（複数回答）

		回答数	%
①	掲示板等で情報を見た学生本人が希望の活動先へ直接連絡する	263	76.0
②	掲示板等で情報を見た学生の申し出により、センタースタッフが受入先に連絡する	200	57.8
③	活動を行いたい学生の話聴いてニーズにあった活動先の紹介はするが、その後の連絡等は学生に任せる	123	35.5
④	活動を行いたい学生のニーズと、ボランティアを受け入れたい人や団体・施設のニーズを把握し、センタースタッフが両者をつなぐコーディネートを行う	102	29.5
	無回答	12	3.5
	全体	346	100.0



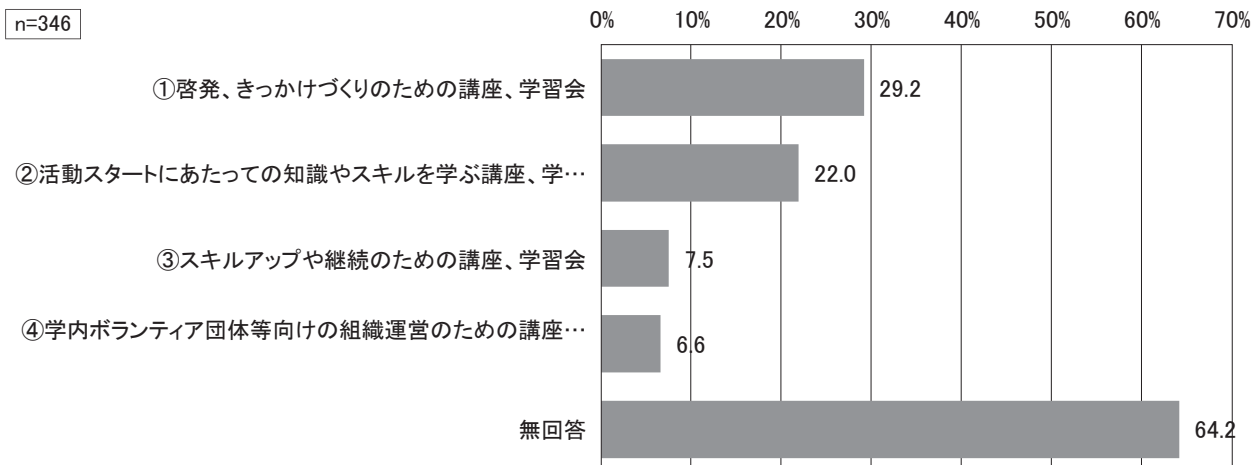
図C－事3（2）ボランティア活動のマッチング方法（複数回答）

C－事4（1）ボランティアに関する学習支援活動の状況

表C－事4（1）・図C－事4（1）は、ボランティア担当部署が学生に対してボランティアに関する学習活動への支援活動の状況を示している。最も多い活動としては、「啓発、きっかけづくりのための講座、学習会」（101大学・29.2％）で3割程度、次ぐ「活動スタートにあたっての知識やスキルを学ぶ講座、学習会」においても76大学（22.0％）と、4分の1弱である。

表C－事4（1）ボランティアに関する学習支援活動（複数回答）

		回答数	%
①	啓発、きっかけづくりのための講座、学習会	101	29.2
②	活動スタートにあたっての知識やスキルを学ぶ講座、学習会	76	22.0
③	スキルアップや継続のための講座、学習会	26	7.5
④	学内ボランティア団体等向けの組織運営のための講座、学習会	23	6.6
	無回答	222	64.2
	全体	346	100.0



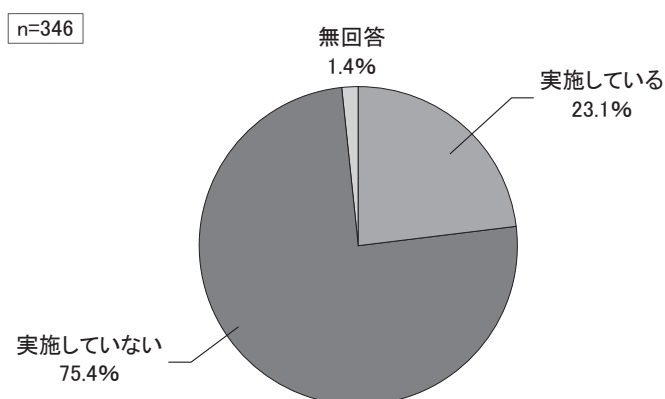
図C－事4（1）ボランティアに関する学習支援活動（複数回答）

C－事5（1）ボランティア活動を含むプログラムの有無

表C－事5（1）・図C－事5（1）は、ボランティア担当部署において大学生が行うボランティア活動を含むプログラムを実施しているか否かを質問した結果である。「実施している」と回答した大学は80大学（23.1%）であり、回答数全体の約4分の1弱である。「実施していない」と回答した大学は261大学（75.4%）であり、全体の約4分の3を占める。ボランティア担当部署の事業として、大学生に対するボランティア活動を行うプログラムの提供は、未だ主要な活動となっていないことが示されている。

表C－事5（1）ボランティア活動を含むプログラムの有無

		回答数	%
①	実施している	80	23.1
②	実施していない	261	75.4
	無回答	5	1.4
	全体	346	100.0



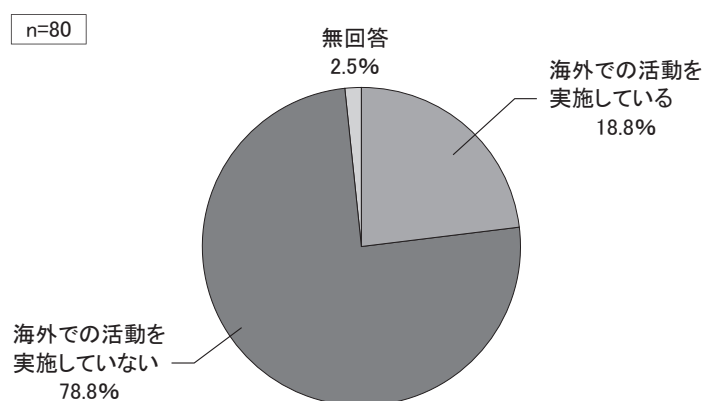
図C－事5（1）ボランティア活動を含むプログラムの有無

C－事5（2）海外活動プログラムの有無

表C－事5（2）・図C－事5（2）は、C－事5（1）において「ボランティア活動を含むプログラムの有無」で「行っている」と回答した80大学に対して、ボランティア担当部署において展開している海外活動プログラムの有無について質問した結果である。「海外での活動を実施している」と回答した大学は15大学（18.8%）であり、「海外での活動を実施していない」大学は63大学（78.8%）である。

表C－事5（2）海外活動プログラムの有無

		回答数	%
①	海外での活動を実施している	15	18.8
②	海外での活動を実施していない	63	78.8
	無回答	2	2.5
	全体	80	100.0



図C－事5（2）海外活動プログラムの有無

C－事5（3）特徴的なプログラムと活動期間

次に示す表は、C－事5（1）において開発している特徴的なプログラムと活動期間について一覧とした結果である。多様な活動が取り組まれているが、大別すると災害支援系活動、地域活性化活動、海外交流・支援活動、子ども支援活動、シティズンシップ教育、スポーツ活動、ボランティア活動体験が多い傾向がみられる。実施期間は1日～10ヶ月まで多様であるが、ボランティア体験活動は、3日～7日程度の期間が比較的多い傾向にある。

表C－事5（3）開発されている特徴あるプログラム名と活動期間

プログラム名	活動期間
熊本地震現地ボランティア	4日間
東日本大震災ボランティアツアー	6か月間
宮城ボランティア	
東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアー	3～4日間
熊本応援したかつ隊（災害ボランティア）	大体15～20時間程度
東北被災地ボランティアツアー	6日間
HUG（避難所運営ゲーム体験）	半日間

プログラム名	活動期間
(東日本大震災被災地での) ボランティアツアー・スタディツアー	1～3日間
災害支援ボランティアプログラム(東北、熊本 他)	1日から1週間
防災・減災教育事業	1～4ヶ月
大学間連携災害ボランティアシンポジウム	1日間
東日本大震災復興ボランティアプロジェクト 第11回はまらいんや!大島	年2回、8年間
東日本大震災復興支援ボランティア	4～5日程度
宮城県女川町ボランティアワークキャンプ	5日間
被災地支援活動To+Uプロジェクト	4日間
ひとづくり・まちづくりボランティアin南相馬	2～3日間
ABJ (Action By Juen) ※災害支援ボランティア活動	1～2日間 年複数回
災害復興支援活動	
東日本大震災ボランティアツアー	行う時と行わない時がある。
災害ボランティア活動	5日程度
災害復興支援ボランティアわたりば	学生が運営側になって説明会を行う(1日)
災害医療ボランティア講習会、いわき合同ボランティア体験	
大学間連携災害ボランティアネットワーク夏季集中ボランティア活動	おおよそ2泊3日の合宿形式
宮城県塩竈市夏期ボランティア	4日間
災害ボランティアプログラム	3日間程度
被災地支援活動	活動による
課外 大船渡盛町七夕まつりサポートプロジェクト	6日間
ブータンスタディツアー	
イングリッシュフレンド	3ヶ月
海外(タイ)ボランティアプログラム	9日間
カンボジアスタディツアー	
海外ボランティア・ワークキャンプ	11日間
タイチェンライボランティアワークキャンプ	7日間
学園東町なかよしのお楽しみ会	
学校行事の親子広場(年6回)へ 1年生は全員参加(グループにより)	年6回(土) 準備3日間
障がい児と大学生の交流広場「わくわく」	
子供たちへのお菓子	10～20日間
広島朗読フェスティバル	年間
教えて 子どもボランティア ～子ども食堂・学習支援の現場から～	約2か月
広島経済大学興動館 子ども達を守ろうプロジェクト	年間で活動を行い、10年以上継続している
赤ちゃん広場	1日間
弘済学園(神奈川県秦野市)と連携事業 「おはなしの部屋」	年9回ぐらい
子どもの貧困問題解決に向けた取組みに学ぶボランティア体験プログラム	1日以上
学習支援教室「あっぷる～む」	4月～次年度3月 毎週木曜日
小学校との食育連携事業	取り組みにより1～5か月
夏休み子ども向けイベント企画運営プロジェクト	1日
ふくおかカイゴつながるプロジェクト	2年間
傾聴講習会	

プログラム名	活動期間
桜の森白子ホーム（特別養護老人ホーム）における各学科特色を活かしたボランティア活動	適宜
佛教大学・洛和会合同企画～高齢者に「キャンパスライフ」を～	2か月
ノルディックウォーキング	1日間
スポーツボランティアプログラム	6月～3月の10か月間
地域連携キャリア啓発プロジェクト	3ヶ月
一貫連携教育 清里環境ボランティアキャンプ	5～10月（約6ヶ月）
地域づくり	
うきはベース	
城里町プロジェクト	通年
神奈川県 未病応援団 「丸ごと食べよう」	年3回
益田市連携サービス・ラーニング	4日間
仙北市冬季交流プログラム	4日間
アナタのキャリアにつなげる！地域×ボランティアプログラム	6か月
くまタリアン in しばた	おおよそ3か月
野田村支援交流活動	全5回 各回1日～2日
大覚寺プログラム	活動前2, 3回
とこは人材育成プロジェクト	通年
森のサロン「学生がつくるサロンプログラム」	2～3か月
農業体験 in 山形県高島町	6～11月（約6ヶ月）
工女育成プロジェクト	1日
地域行事への参加（サロン活動）	不定期
常陸太田市活性化プロジェクト	通年
広島経済大学興動館 太田川キレイキレイプロジェクト	年間で活動を行い、10年以上継続している
ふるさとワークステイ in ふくい	5日間
地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」	6月～3月の10か月間
学内外の清掃活動	年間3回
クリーンアップ大作戦	月1回、15年間
大和川大掃除～人がつながる、未来へつなげる-Make a link-～	1日間
地域連携とボランティア科目との連携事業「にいがたごみゼロ大作戦！」	1日間
富士山トレイル整備ボランティアツアー	1日間
琵琶湖ツーリズム～関大生で考える環境ボランティアの未来～	1日間
学外清掃活動	毎月第2木曜日
サービス・ラーニング	
ボランティアをしてみた…	前回のミーティング
学生ボランティア活動報告会	10日間
Support each other day	1日活動に対し事前事後学習3～4日間
千葉市内の大学間でプラットフォームを形成している。プラットフォーム形成大学間で、ボランティアの活動報告会を行っている。	ボランティア実施後約2週間
ボランティア養成講座	1日間
ボランティアⅠ（1年次通年・集中・選択1単位科目）	実習40時間以上

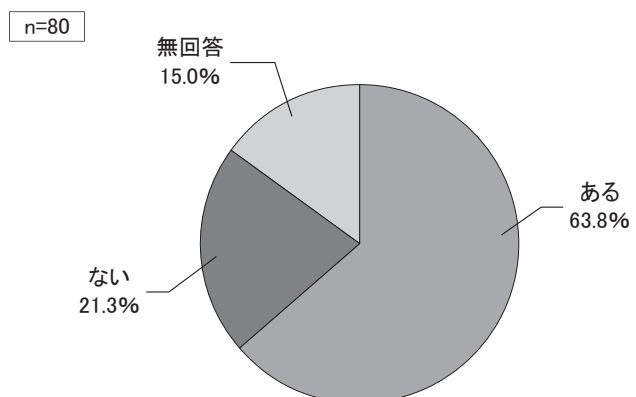
プログラム名	活動期間
学生スタッフ企画ボランティア（事業によって名称が異なる）	学生が運営側になって説明会を行う（1日）
体験ボランティアプログラム	2日間
正課 シチズンシップスタディーズⅠ	通年科目（5月～12月）
Seikei Volunteer Program	10か月
ボランティア1日体験プログラム「わん☆ボラ」	計10日間（1日×10プログラム）
ボランティアフェスティバル（ボランティア団体説明会）	2か月
ボランティア実践講座（座学→実践→振り返りの3Stepプログラム）	約1ヶ月
がくえん陽だまりサロン	
ボラッター	1日間
ボランティア実践入門講座	3日間
ボラフェス	2日間
カレッジフレンド	3ヶ月
ボランティアⅡ（2年次通年・集中・選択1単位科目）	実習40時間以上
折づるひろば	年間
サマーボランティア・スプリングボランティア	1か月
社協×1step ボラカフェ ～学生と地域を繋げる～	約2か月
1日体験ボランティアプログラム	1日
体験学習プログラム（国内・海外）	4～10日間程度
MLAP（あらゆる人に生涯音楽プロジェクト）	2年間
ボラッター（事前交流会→実践→事後交流会）	約1ヶ月

C－事5（4）活動プログラムの事前事後学習の状況

表C－事5（4）・図C－事5（4）は、C－事5（1）において活動プログラムを実施している80大学に対して、プログラムの事前事後学習を実施しているか否かを質問した結果である。6割以上の大学が事前事後学習のプログラムがあると回答している。

表C－事5（4）活動プログラムの事前事後学習の状況

	回答数	%
ある	51	63.8
ない	17	21.3
無回答	12	15.0
全体	80	100.0



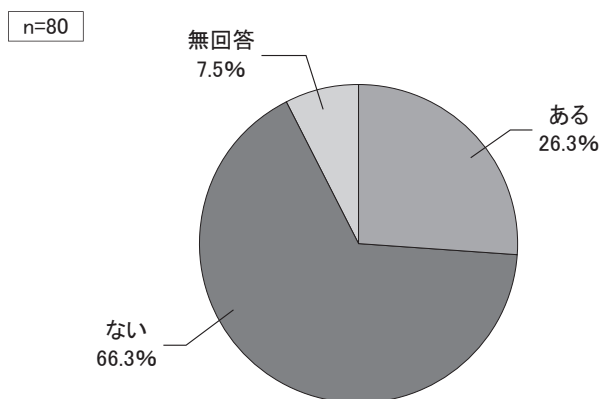
図C－事5（4）活動プログラムの事前事後学習の状況

C－事5（5）受け入れ先との協定書の有無

表C－事5（5）・図C－事5（5）は、C－事5（1）において活動プログラムを実施している80大学に対して、学生の受け入れに際して活動先との協定書等を作成しているか否かについて質問した結果である。53大学（66.3%）が「ない」と回答しており、全体の3分の2で協定書が作成されていない。

表C－事5（5）受け入れ先との協定書の有無

		回答数	%
①	ある	21	26.3
②	ない	53	66.3
	無回答	6	7.5
	全体	80	100.0



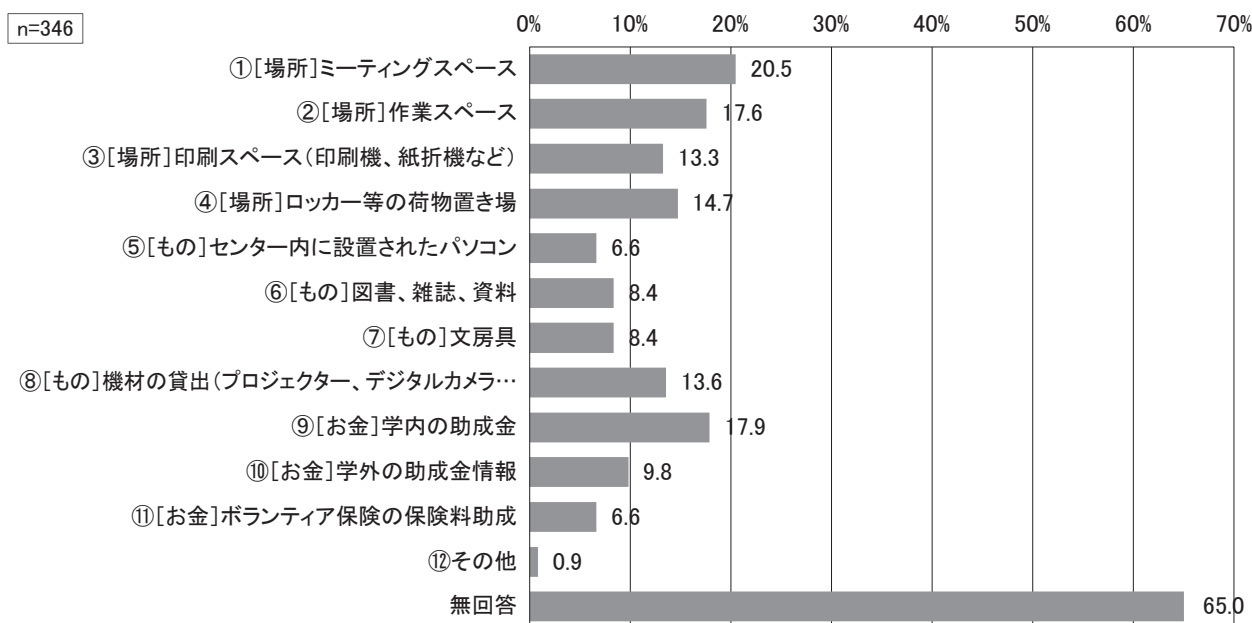
図C－事5（5）受け入れ先との協定書の有無

C－事6（1）資源提供活動の現状（A学内の登録団体対象）

表C－事6（1）・図C－事6（1）は、学内の登録団体に対する大学のボランティア活動に関する資源の提供状況を示している。提供されている率が最も高い資源は「ミーティングスペース」（71大学・20.5%）であり、次いで「学内助成金」（62大学・17.9%）、「作業スペース」（61大学・17.6%）となっている。

表C－事6（1）資源提供活動の現状（登録団体対象）（複数回答）

		回答数	%
①	[場所] ミーティングスペース	71	20.5
②	[場所] 作業スペース	61	17.6
③	[場所] 印刷スペース（印刷機、紙折機など）	46	13.3
④	[場所] ロッカー等の荷物置き場	51	14.7
⑤	[もの] センター内に設置されたパソコン	23	6.6
⑥	[もの] 図書、雑誌、資料	29	8.4
⑦	[もの] 文房具	29	8.4
⑧	[もの] 機材の貸出（プロジェクター、デジタルカメラ、パソコンなど）	47	13.6
⑨	[お金] 学内の助成金	62	17.9
⑩	[お金] 学外の助成金情報	34	9.8
⑪	[お金] ボランティア保険の保険料助成	23	6.6
⑫	その他	3	0.9
	無回答	225	65.0
	全体	346	100.0



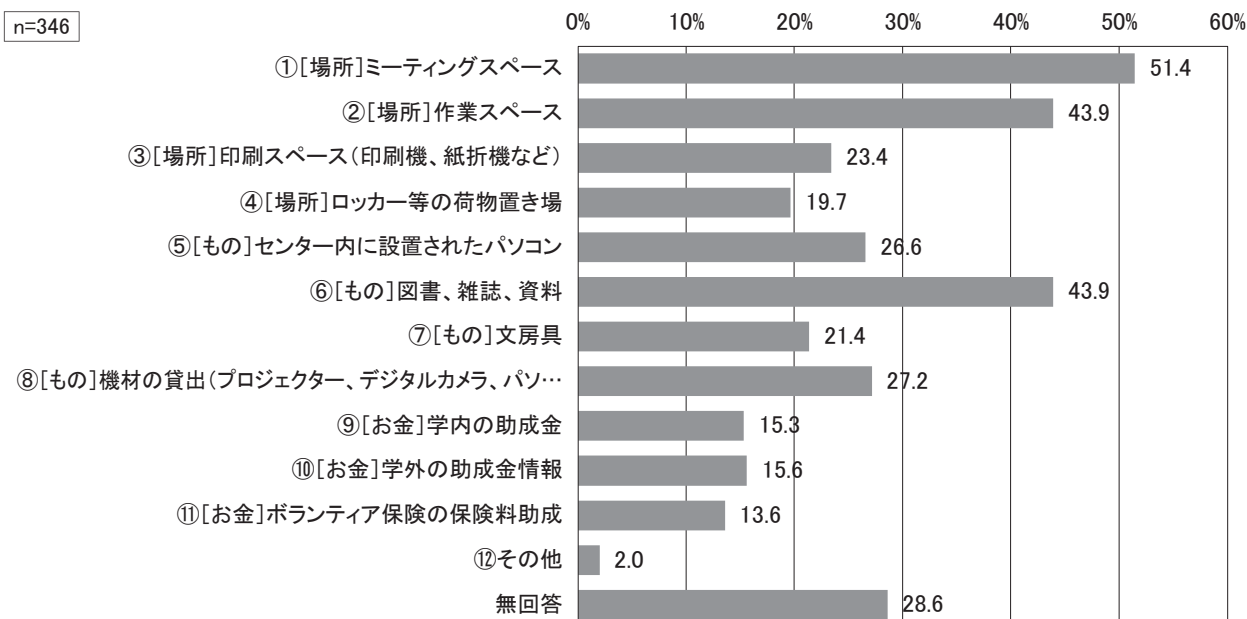
図C－事6（1）資源提供活動の現状（登録団体対象）（複数回答）

C－事6（1）資源提供活動の現状（B一般学生対象）

表C－事6（1）は、一般学生に対する大学のボランティア活動に関する資源の提供状況を示している。

表C－事6（1）資源提供活動の現状（一般学生対象）（複数回答）

		回答数	%
①	[場所] ミーティングスペース	178	51.4
②	[場所] 作業スペース	152	43.9
③	[場所] 印刷スペース（印刷機、紙折機など）	81	23.4
④	[場所] ロッカー等の荷物置き場	68	19.7
⑤	[もの] センター内に設置されたパソコン	92	26.6
⑥	[もの] 図書、雑誌、資料	152	43.9
⑦	[もの] 文房具	74	21.4
⑧	[もの] 機材の貸出（プロジェクター、デジタルカメラ、パソコンなど）	94	27.2
⑨	[お金] 学内の助成金	53	15.3
⑩	[お金] 学外の助成金情報	54	15.6
⑪	[お金] ボランティア保険の保険料助成	47	13.6
⑫	その他	7	2.0
	無回答	99	28.6
	全体	346	100.0



図C－事6（1）資源提供活動の現状（一般学生対象）（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・大学ロゴマーク入りTシャツ
- ・マイクロバスや公用車の使用
- ・センター主催事業参加時の交通費負担
- ・避難所運営ゲーム「HUG」、防災ゲーム「クロスロード」
- ・公欠制度

◆場所－ミーティングスペース－その他（抜粋）

- ・図書館ラーニング・コモンズ等

◆もの－図書、雑誌、資料－その他（抜粋）

- ・顧問（教員）貸出

◆お金－学内の助成金－その他（抜粋）

- ・大学祭模擬店売上

◆お金－ボランティア保険の保険料助成－その他（抜粋）

- ・学生教育研究災害傷害保険に加入
- ・ボラセン提供プログラム参加者と災害時のみ

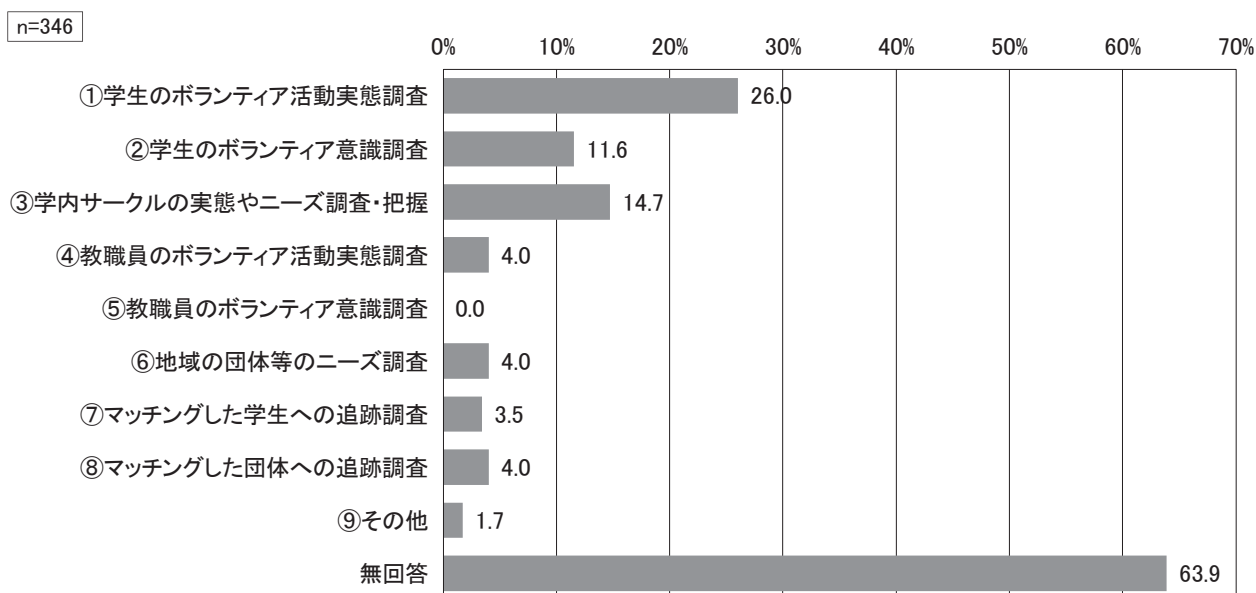
C－事6（1）資源提供活動の現状（登録団体対象）と比較すると、いずれも高い率を示している。この理由は、一つには対象となった大学がボランティアセンターに特定されておらず、教務部や学生部などの教学部門を含んでいるために、特定の学生に限定しない学生サービスを含んで回答されていると考えられる点である。

C－事7（1）調査研究活動の実施状況

表C－事7（1）・図C－事7（1）は、ボランティア担当部署が行っている定期的な調査研究活動の状況を質問した結果である。最も多く実施されているのは「学生のボランティア活動実態調査」であり、90大学（26.0%）とほぼ4分の1の大学で実施されている。次いで「学内サークルの実態やニーズ調査・把握」「学生のボランティア意識調査」が10%を越える実施率となっている。その他の調査研究活動については、いずれも5%に満たず、調査研究活動は概して盛んではないといえる。教職員のボランティア意識調査に関して定期的に実施されている回答はなく、依然として課題であるといえる。

表C－事7（1）調査研究活動の実施状況（複数回答）

		回答数	%
①	学生のボランティア活動実態調査	90	26.0
②	学生のボランティア意識調査	40	11.6
③	学内サークルの実態やニーズ調査・把握	51	14.7
④	教職員のボランティア活動実態調査	14	4.0
⑤	教職員のボランティア意識調査	0	0.0
⑥	地域の団体等のニーズ調査	14	4.0
⑦	マッチングした学生への追跡調査	12	3.5
⑧	マッチングした団体への追跡調査	14	4.0
⑨	その他	6	1.7
	無回答	221	63.9
	全体	346	100.0



図C－事7（1）調査研究活動の実施状況（複数回答）

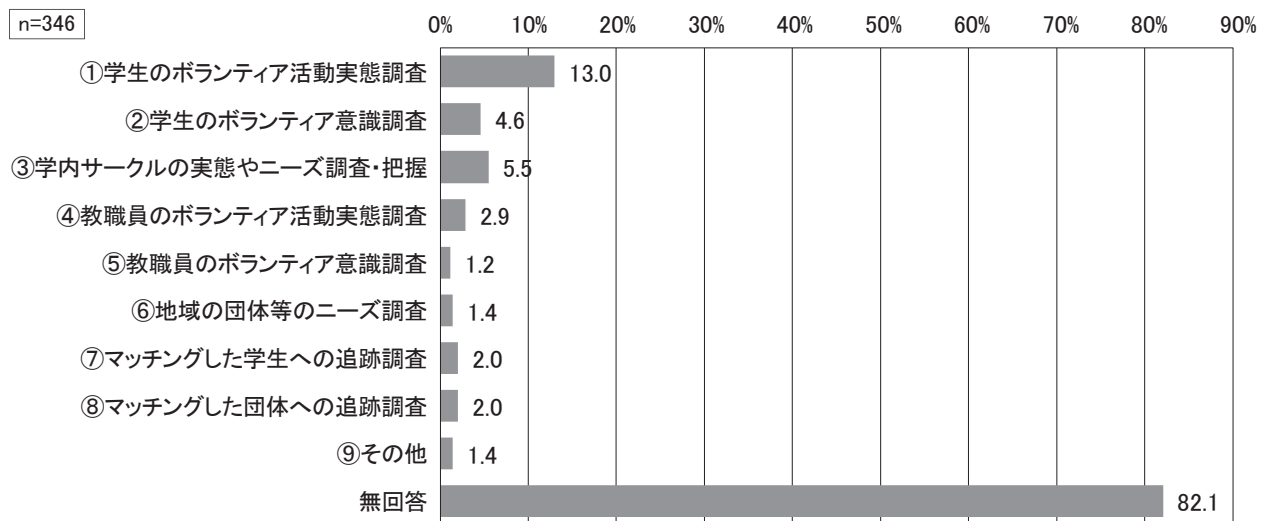
C－事7（2）調査結果の公表

C－事7（1）において回答された調査研究の結果が公表されているか否かを質問した結果が表C－事7（2）・図C－事7（2）である。

結果の公表率は半数以下の調査もあり、調査研究の積極的な結果公表については、課題を有している。

表C－事7（2）調査研究活動の公表状況（複数回答）

		回答数	%
①	学生のボランティア活動実態調査	45	13.0
②	学生のボランティア意識調査	16	4.6
③	学内サークルの実態やニーズ調査・把握	19	5.5
④	教職員のボランティア活動実態調査	10	2.9
⑤	教職員のボランティア意識調査	4	1.2
⑥	地域の団体等のニーズ調査	5	1.4
⑦	マッチングした学生への追跡調査	7	2.0
⑧	マッチングした団体への追跡調査	7	2.0
⑨	その他	5	1.4
	無回答	284	82.1
	全体	346	100.0



図C－事7（2）調査研究活動の公表状況（複数回答）

◆その他（抜粋）

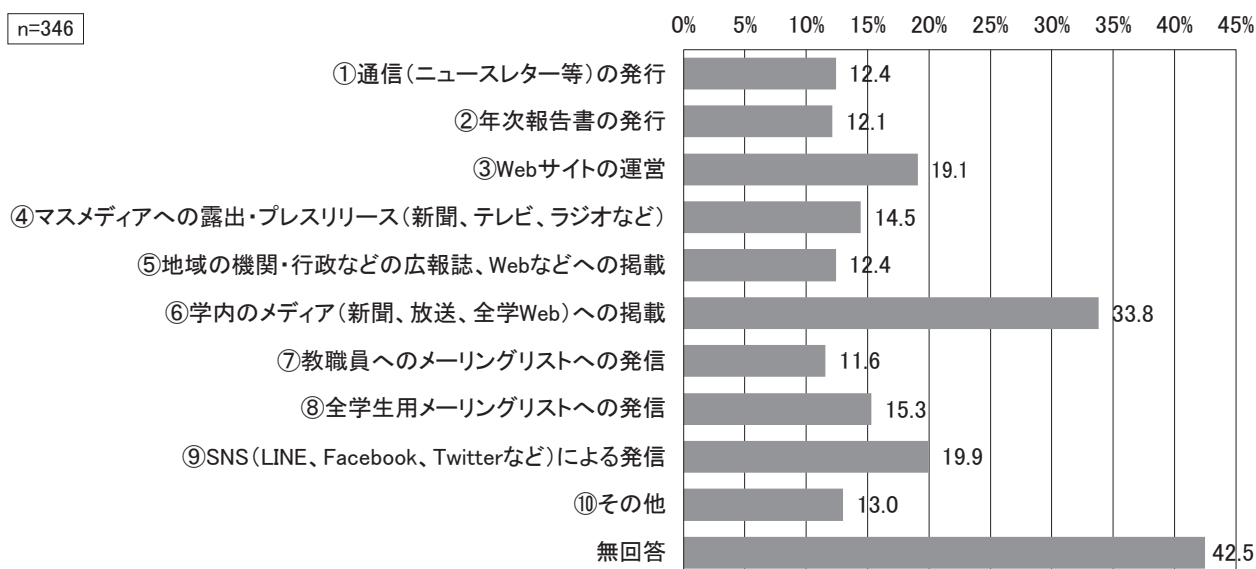
- ・学生から報告のあった自主的に実施したボランティア活動の把握
- ・外部からの調査依頼の内容に応じて実施する場合がある。
- ・5年に1度実施、学生生活実態調査にてボランティア実施の有無

C－事8（1）ボランティア担当部署の認知度アップ活動の実施状況

表C－事8（1）・図C－事8（1）は、ボランティア担当部署が行っている認知度をアップするための活動の実施状況を示している。最も多くとられている方法は、「学内のメディア（新聞、放送、全学Web）への掲載」であり、117大学（33.8％）と全体の約3分の1が実施している。次いで「SNS（LINE、Facebook、Twitterなど）による発信」（19.9％）、「Webサイトの運営」（66大学・19.1％）、となっている。大学生の主要なコミュニケーション手段であるSNSを活用した情報発信や独自のWebサイトの運営が5分の1に満たない状況であり、多角的な情報発信において課題を有している。

表C－事8（1）認知度アップ活動の実施状況（複数回答）

		回答数	%
①	通信（ニュースレター等）の発行	43	12.4
②	年次報告書の発行	42	12.1
③	Webサイトの運営	66	19.1
④	マスメディアへの露出・プレスリリース（新聞、テレビ、ラジオなど）	50	14.5
⑤	地域の機関・行政などの広報誌、Webなどへの掲載	43	12.4
⑥	学内のメディア（新聞、放送、全学Web）への掲載	117	33.8
⑦	教職員へのメーリングリストへの発信	40	11.6
⑧	全学生用メーリングリストへの発信	53	15.3
⑨	SNS（LINE、Facebook、Twitterなど）による発信	69	19.9
⑩	その他	45	13.0
	無回答	147	42.5
	全体	346	100.0



図C－事8（1）認知度アップ活動の実施状況（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・オリエンテーションや学内のガイダンス、説明会で呼びかけ
- ・看板設置、生協食堂で卓上ポップ設置（月1回入れ替え）

- ・2年間で46時間以上参加した学生に地域貢献奨励賞として学位記授与式に表彰している。
- ・委員会・会議にて報告
- ・デジタルサイネージでボラセン紹介動画を配信

C－事8（2）ニュースレターの発行回数、発行部数

表C－事8（2）ニュースレターの発行回数及び表C－事8（2）ニュースレターの発行部数は、C－事8（1）においてニュースレターを発行していると回答した43大学の年間発行回数及び発行部数の算術値を示したものである。回数に対して無回答であった2大学を除く41大学の年間平均発行回数は7.46回であり、標準偏差（SD）は16.11であった。発行部数については、有効回答29大学の平均部数は1338.28部であり、標準偏差（SD）は1287.53であった。

C－事8（2）ニュースレターの発行回数

	回答数	回
平均値		7.46
標準偏差		16.10
最小値		1.00
最大値		100.00
全体	41	100.00

C－事8（2）ニュースレターの発行部数

	回答数	部
平均値		1338.28
標準偏差		1287.53
最小値		50.00
最大値		6000.00
全体	29	100.00

C－事8（3）年次報告書の発行部数

表C－事8（3）は、年次報告書の発行分数の算術値を示している。有効回答32大学の平均部数は700.16部、標準偏差は893.85部であった。

C－事8（3）年次報告書の発行部数

	回答数	部
平均値		700.16
標準偏差		893.85
最小値		1.00
最大値		3500.00
全体	32	100.00

C－事9（1）学内のボランティアサークルや関係部署、団体との関わり

表C－事9（1）は、ボランティア担当部署と学内のボランティアサークル、団体および関係団体との関わりについて質問した結果をまとめたものである。ボランティア担当部署と学内ボランティア団体、学内組織、地域のボランティア支援機関、地縁団体や企業等との関係については、日常的な問い合わせなどができる緊密な関係をつくることができている大学がおおむね半数程度であり、特に学内のボランティア団体とまったく関わりがない担当部署が約28%あり、他大学のボランティアセンター等とまったく関わりがないと回答した大学が約56%に上っている。

表C－事9（1）学内のボランティアサークルや関係部署、団体との関わり（複数回答）

		学内のボランティアサークル、団体	学内の他部署（社会連携センター等）	学内の他団体・組織（大学生協・同窓会等）	他大学のボランティアセンター
①	情報交換や課題などを話し合える関係がある	182（52.6%）	202（58.4%）	156（45.1%）	111（32.1%）
②	学内外での講座、セミナー、プログラム等の共同企画・運営を行っている	36（10.4%）	30（8.7%）	18（5.2%）	25（7.2%）
③	まったく関わりがない	95（27.5%）	102（29.5%）	144（41.6%）	194（56.1%）
④	その他	52（15.0%）	19（5.5%）	20（5.8%）	26（7.5%）
	無回答	21（6.1%）	21（6.1%）	26（7.5%）	18（5.2%）

◆その他（抜粋）

（1）学内のボランティアサークル、団体との関わり

- ・団体に所属している学生から情報を得ている。
- ・必要に応じて、地域団体に本学のボランティアサークルを紹介している。

（2）学内の他部署（社会連携センター等）との関わり

- ・看護学科の教員で、災害ボランティア等への派遣を推奨している者がいる。
- ・話し合いではなく、地域連携センターから一方的な依頼がある。
- ・併設校からの依頼。

（3）学内の他団体・組織（大学生協・同窓会等）との関わり

- ・関わりは少ないものの、学園祭の際に協力いただいている。
- ・同窓会とは、災害時において、取り組む予定で話を進めている。
- ・社会連携センターを通じ、必要に応じて関わることもある。
- ・後援会による助成あり。
- ・同窓会より学生活動助成金の提供。
- ・教育後援会から助成がある。

（4）他大学のボランティアセンターとの関わり

- ・近隣の大学と連絡協議会という組織があり、議題として取り上げることができる。
- ・コンソーシアム内で情報・意見交換できる。
- ・学生レベルでの交流がある。
- ・他大学のボランティアセンターへの視察。
- ・社会福祉協議会の連絡協議会など。
- ・県社協の県内大学意見交換会に出席し、意見交換など行う。

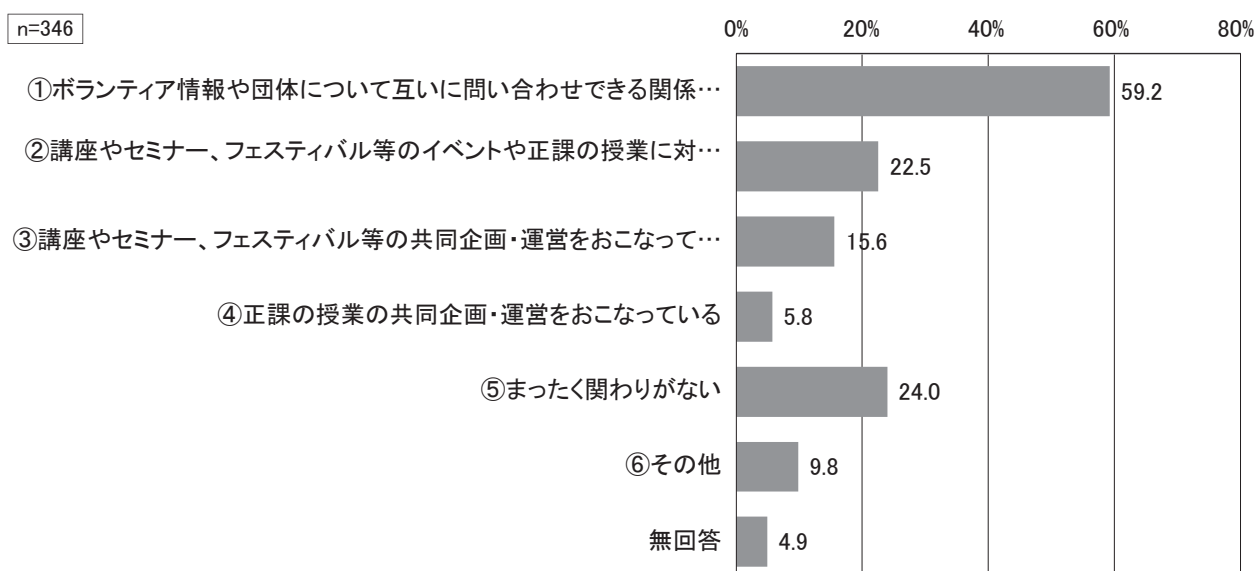
C－事9（5）地域の支援機関（社会福祉協議会、ボランティアセンター等）との関わり

表C－事9（5）・図C－事9（5）は、ボランティア担当部署と地域の支援機関との関係について質問した結果である。「ボランティア情報や団体について互いに問い合わせできる関係がある」と回答した大学は205大学（59.2%）であり、次いで講座やセミナー等のゲストや講師として協力を得ている」と回答した大学が78大学（22.5%）となっている。他方で「まったく関わりがない」と回答した大学はおよそ4分の1

近くを占めている。

表C－事9（5）地域の支援機関（社会福祉協議会、ボランティアセンター等）との関わり（複数回答）

		回答数	%
①	ボランティア情報や団体について互いに問い合わせできる関係がある	205	59.2
②	講座やセミナー、フェスティバル等のイベントや正課の授業に対して、ゲストや講師として協力を得ている	78	22.5
③	講座やセミナー、フェスティバル等の共同企画・運営をおこなっている	54	15.6
④	正課の授業の共同企画・運営をおこなっている	20	5.8
⑤	まったく関わりがない	83	24.0
⑥	その他	34	9.8
	無回答	17	4.9
	全体	346	100.0



図C－事9（5）地域の支援機関（社会福祉協議会、ボランティアセンター等）との関わり（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・県社会福祉協議会で災害ボランティア活動に関する相互連携を締結している。
- ・大学コンソーシアム主催のボランティア研修会等に教室を提供。
- ・近隣の市町と大学で協定を結んでいる。
- ・地域や市（社会福祉協議会）に、委員として出向いている。
- ・これから関係を構築していく予定がある。
- ・まったく関わりがない訳ではないが、選択肢の中から選択できる程度までにはまだ至っていない。

C－事9（6）地域の諸組織・団体との関わり

表C－事9（6）は、ボランティア担当部署と地域の諸組織・諸団体（ボランティアセンター等の支援機関を除く）との関係をまとめた結果である。地縁団体や小中高校、施設やNPO・NGO、行政において約半数～半数弱のボランティアの受け入れ先として協力を得ている一方で、地元商店や企業での受け入れは2割前後と少ない。

表C－事9（6）地域の諸組織・団体との関わり（複数回答）

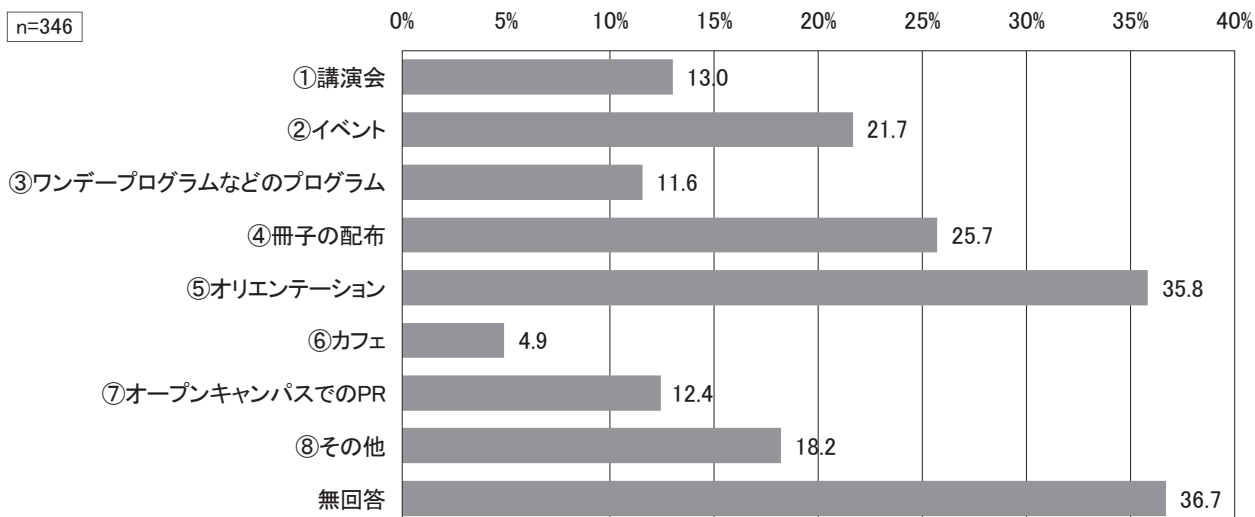
		地縁団体	地元の 商店	企業	小中高校	施設・ NPO・ NGO	行政
①	学生ボランティアを受け入れて もらっている、送り出している	158 (45.7%)	63 (18.2%)	70 (20.2%)	155 (44.8%)	188 (54.3%)	184 (53.2%)
②	会合や委員会等への教職員派遣	67 (19.4%)	21 (6.1%)	19 (5.5%)	47 (13.6%)	54 (15.6%)	117 (33.8%)
③	イベント等の協力や共同開催	106 (30.6%)	62 (17.9%)	49 (14.2%)	72 (20.8%)	114 (32.9%)	142 (41.0%)
④	授業やプログラム実施において、 講師、ゲストスピーカーとして 協力を得ている	43 (12.4%)	14 (4.0%)	39 (11.3%)	27 (7.8%)	77 (22.3%)	89 (25.7%)
⑤	お金や物品の提供	12 (3.5%)	5 (1.4%)	9 (2.6%)	5 (1.4%)	10 (2.9%)	15 (4.3%)
	無回答	168 (48.6%)	250 (72.3%)	242 (69.9%)	171 (49.4%)	137 (39.6%)	120 (34.7%)

C－事10（1）学生への関心喚起方法

表C－事10（1）・図C－事10（1）は、ボランティア担当部署が一般学生に対してボランティアに対して関心をもってもらうための方法について質問した結果である。

表C－事10（1）学生への関心喚起方法（複数回答）

		回答数	%
①	講演会	45	13.0
②	イベント	75	21.7
③	ワンデープログラムなどのプログラム	40	11.6
④	冊子の配布	89	25.7
⑤	オリエンテーション	124	35.8
⑥	カフェ	17	4.9
⑦	オープンキャンパスでのPR	43	12.4
⑧	その他	63	18.2
	無回答	127	36.7
	全体	346	100.0



図C－事10（1）学生への関心喚起方法（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・紹介動画の上映。
- ・大学グッズの売上の一部をボランティアファンドとしてストックし、学生団体、個人の活動への支援活動を行っている。
- ・東日本大震災復興支援ボランティア。
- ・自由閲覧コーナーの充実化（ラック設置）。
- ・国際ボランティア、国内ボランティアの奨励賞を設けている。

C－事11（1）基盤強化活動

以下は、C－事11（1）において、基盤整備活動として、特に行っている活動を自由記述で回答を得た結果である。なお、この場合の基盤強化活動とは、担当部署の活動を活発化させるために必要な寄付金や、学内・外の助成金などに応募したり、経営主体に働きかけたりする活動を指している。多くは学内助成金や校友会・同窓会・後援会など支援を得るものであり、大学関連商品売り上げの一部を活用したり、社会福祉協議会の補助金を活用したりしている例もみられた。

【学内】

- ・学内の助成金への応募。
- ・校友会、同窓会、後援会への活動支援金寄付の依頼。
- ・大学経営主体への活動実績の報告。
- ・大学グッズの売上の一部をボランティアファンドとしてストック。
- ・地域の大学と行政で構成する「大学間ネットワーク会議」に参加。

【学外】

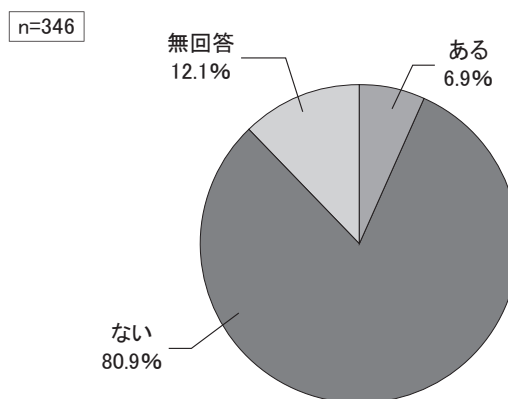
- ・学外の助成金への応募。
- ・社会福祉協議会による補助金を活用している。
- ・自治体、支援団体等からの寄付金募集、地元企業への協賛願い。

C-事12(1) センターとして開講している授業

表C-事12(1)・図C-事12(1)は、ボランティア担当部署が学内の授業を開講しているか否かを質問した結果である。「ある」と回答した大学は、24大学・6.9%であり、「ない」と回答した280大学(80.9%)に対して著しく少ない。大学の教育課程編成は、学則等にもとづいて大学教員を中心として行われるために、正規の授業としての開講には、なお種々の課題があると考えられる。

表C-事12(1) センターとして開講している授業の有無

		回答数	%
①	ある	24	6.9
②	ない	280	80.9
	無回答	42	12.1
	全体	346	100.0



図C-事12(1) センターとして開講している授業

◆センターとして開講している具体的な授業名(全回答数62件：以下は一部抜粋)

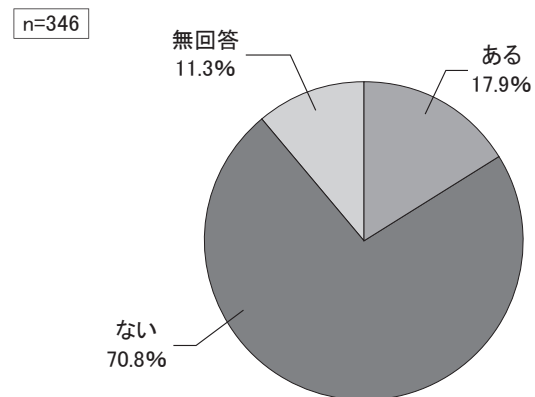
- ・ボランティアとリーダーシップ
- ・ボランティア体験学習
- ・地域連携とボランティア
- ・ボランティアコーディネーション
- ・対人援助基礎演習
- ・シティズンシップスタディーズ
- ・地域再生実践論、地域協同演習、地域インターンシップ
- ・国際ボランティア体験
- ・コミュニティサービスラーニング科目や関連科目
- ・社会福祉援助技術、社会福祉援助論
- ・キャリア形成実習
- ・芸術資料フィールドワーク

C-事12(2) センターとして正課の授業の補助や分担をしている授業

表C-事12(2)・図C-事12(2)は、ボランティア担当部署が大学の正課として開講されている授業の補助や分担をしているか否かについて質問した結果である。「ある」と回答した大学は、62大学・17.9%で、前問3-19に比して、約3倍弱と大幅に多い。とはいうものの、245大学(70.8%)が「ない」と回答しており、授業への関与には、やはり課題があることが示されている。

表C－事12（2）センターとして正課の授業の補助や分担をしている授業の有無

		回答数	%
①	ある	62	17.9
②	ない	245	70.8
	無回答	39	11.3
	全体	346	100.0



図C－事12（2）センターとして正課の授業の補助や分担をしている授業

◆センターとして正課の授業の補助や分担をしている授業（関わり方）

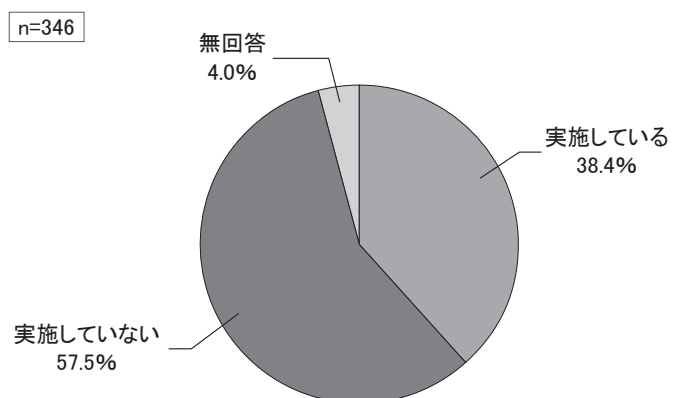
- ・大学と地域との係わりについてのレクチャー。
- ・ゲストスピーカーとして、センターの取組を紹介したり、ボランティアについてレクチャーしたりしている。
- ・ワークショップ形式で目標設定、振り返りの際にお手伝い。
- ・ボランティアに行く上でのノウハウ説明、連携事業の展開（清掃活動）。
- ・ボランティア体験活動のコーディネート、情報提供、ボランティアセンターの役割についての講義。
- ・授業は教員が担当し、先方との調整、引率等で補助。

C－事13（1）自然災害におけるボランティアの送り出し

表C－事13（1）・図C－事13（1）は、ボランティア担当部署が自然災害において学生等をボランティアとして送り出しているか否かを質問した結果である。133大学・38.4%と約4割の大学が被災地等に対して何らかのボランティア支援を行っていることが窺われる結果となった。一方、種々の理由があると考えられるが、199大学（57.5%）は、現状で支援をしていないと回答しており、この点については結果が分かれることになっている。

表C－事13（1）自然災害におけるボランティアの送り出し

		回答数	%
①	実施している	133	38.4
②	実施していない	199	57.5
	無回答	14	4.0
	全体	346	100.0



図C－事13（1）自然災害におけるボランティアの送り出し

C－事13（2）自然災害支援活動

ボランティア担当部署が実施している自然災害支援活動の具体例については、担当部署と被災地の連携による直接支援が61件、支援機関（地域のボランティアセンター等）を通した間接支援が82件挙げられた。

災害時の支援に関しては、災害ボランティアセンター、社会福祉協議会、学生ボランティア支援NPOなどの中間支援団体を通したものや、ボランティアバスを利用するなどして、現地で行う被災地支援活動などの回答があった。

また、現地に赴かずに、義援金・支援金の募金活動や救援物資を送る活動も行われている。

C－事14（1）事業面の課題

ボランティア担当部署の事業面での課題としては、以下の課題が具体的に挙げられた。

【資金面】

- ・学生団体が活動のための外部資金を獲得することへの指導が不十分である。
- ・予算、災害ボランティアセンターなど、参加費や交通費。

【授業との関係】

- ・授業や実習などで密なカリキュラムとなっており、時間的余裕のある学生が少ない。また、それを理由とし、ボランティアを推進する上で依頼の選択や学内調整が整備されていない。
- ・ボランティア全般を学習する授業がまだ整備されていない。
- ・ボランティア活動による公欠は認められていないため、授業を欠席してまでの参加が難しい状況。

【学生の意識】

- ・ボランティアに興味のない学生に周知する手段。
- ・ボランティア活動を行う学生の減少。

【組織の強化】

- ・依頼の取捨選択及び差別化ができていない。
- ・プログラム開発で教員と職員の協働ができていない。
- ・学生の意識の変化等、調査研究が必要な部分があると感じている。
- ・学内他組織の理解が得られていない。
- ・情報収集の一元管理体制となっていない。
- ・主催プログラムの企画立案、実施におけるリスクマネジメント。
- ・事故発生時における保障(学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険とボランティア保険との関係)。
- ・専門コーディネーターの不在。

【運営面】

C－運1（1）職員の職種と雇用・勤務形態

表C－運1（1）、表C－運1（1）、表C－運1（1）は、職員について10人目までの職種、雇用形態、勤務形態の内訳を合計した結果である。職種別では、事務職員が625名（68.5％）を占め、教員が222名（24.3％）となっている。ボランティアコーディネートを専門的に担う専門職員は66名（7.2％）に過ぎない。雇用形態では無期正規雇用である率が71.5％（645名）であり、有期正規雇用である率は12.3％（111名）であり、嘱託契約、派遣、アルバイトを合わせて約16％である。専任。兼任の別では専任者は35％、兼任者が65％と3分の2が兼任となっている。

表C－運1（1）職種別職員の内訳

	数値	%
教員	222	24.3
事務職員	625	68.5
専門職員	66	7.2
合計	913	100.0

表C－運1（1）雇用形態別職員の内訳

	数値	%
無期正規	645	71.5
有期正規	111	12.3
嘱託契約	79	8.8
派遣	21	2.3
アルバイト	46	5.1
合計	902	100.0

表C－運1（1）雇用形態別職員の内訳

	数値	%
専任	313	35.0
兼任	582	65.0
合計	895	100.0

以下の表は、ボランティア担当部署の職員の職種と雇用形態、勤務形態を1人目から10人目まで示したものである。

表C－運1（1）職員の職種

	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目	7人目	8人目	9人目	10人目	合計
教員	97 33.1%	54 25.4%	31 22.3%	17 18.1%	10 15.9%	8 18.2%	4 15.4%	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	222 24.3%
事務職員	183 62.5%	151 70.9%	100 71.9%	69 73.4%	44 69.8%	27 61.4%	18 69.2%	16 84.2%	12 80.0%	5 71.4%	625 68.5%
専門職員 (コーディネーター)	13 4.4%	8 3.8%	8 5.8%	8 8.5%	9 14.3%	9 20.5%	4 15.4%	2 10.5%	3 20.0%	2 28.6%	66 7.2%
全体	293 100.0%	213 100.0%	139 100.0%	94 100.0%	63 100.0%	44 100.0%	26 100.0%	19 100.0%	15 100.0%	7 100.0%	913 100.0%

表C－運1（1）職員の雇用形態

	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目	7人目	8人目	9人目	10人目	合計
無期正規雇用	237 82.0%	155 73.5%	93 67.4%	58 62.4%	44 69.8%	22 53.7%	16 61.5%	10 52.6%	8 53.3%	2 28.6%	645 63.5%
有期正規雇用	34 11.8%	151 70.9%	21 15.2%	13 14.0%	7 11.1%	5 12.2%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	232 22.8%
嘱託契約	13 4.5%	8 3.8%	15 10.9%	13 14.0%	6 9.5%	9 22.0%	2 7.7%	2 10.5%	2 13.3%	2 28.6%	72 7.1%
派遣	1 0.3%	4 1.9%	5 3.6%	3 3.2%	2 3.2%	2 4.9%	1 3.8%	2 10.5%	1 6.7%	0 0.0%	21 2.1%
アルバイト	4 1.4%	7 3.3%	4 2.9%	6 6.5%	4 6.3%	3 7.3%	6 23.1%	5 26.3%	4 26.7%	3 42.9%	46 4.5%
全体	289 100.0%	325 100.0%	138 100.0%	93 100.0%	63 100.0%	41 100.0%	26 100.0%	19 100.0%	15 100.0%	7 100.0%	1016 100.0%

表C－運1（1）職員の勤務形態

	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目	7人目	8人目	9人目	10人目	合計
専任	73 25.3%	66 31.7%	56 41.2%	42 44.7%	32 50.8%	20 50.0%	11 42.3%	9 47.4%	3 21.4%	1 14.3%	313 35.0%
兼任	215 74.7%	142 68.3%	80 58.8%	52 55.3%	31 49.2%	20 50.0%	15 57.7%	10 52.6%	11 78.6%	6 85.7%	582 65.0%
全体	288 100.0%	208 100.0%	136 100.0%	94 100.0%	63 100.0%	40 100.0%	26 100.0%	19 100.0%	14 100.0%	7 100.0%	895 100.0%

以下のクロス表は、職員について、職種（教員・事務職員・専門職員）と雇用形態（無期正規、有期正規、嘱託、派遣、アルバイト）、職種と勤務形態（専任・兼任）とでクロス集計を行った結果を示している。この結果をみると、カイ2乗検定の結果をみても、専門職員は、教員および事務職員に比べて明らかに無期正規雇用の率が低く、反対に嘱託契約の率が教員および事務職員に比べて著しく高い。また他の職種ではきわめて低率なアルバイトによる雇用が専門職員の場合には約5分の1を占めている。このことからみて、専門職員の雇用条件が、きわめて不安定であることが明らかである。また、職種と勤務形態のクロス集計においては、教員や事務職員ではボランティア支援業務が兼任である比率が高いのに対して、専門職員では専任の率が8割を越えており、ボランティア支援業務における専門職員は、ボランティア業務専任として勤務していることがわかる。他方で専門職員においても約18%の兼任があることが示されているが、どのような業務を兼任しているのかについては付加質問を行わなかったため、不明である。

表C－運1（1）職種と雇用形態のクロス集計

職種 と 雇用形態 のクロス表								
			雇用形態					合計
			無期正規	有期正規	嘱託契約	派遣	アルバイト	
職種	教員	度数	171	43	6	0	0	220
		職種 の %	77.7%	19.5%	2.7%	0.0%	0.0%	100.0%
		調整済み残差	2.3	3.7	-3.6	-2.6	-3.9	
	事務職員	度数	456	54	54	21	31	616
		職種 の %	74.0%	8.8%	8.8%	3.4%	5.0%	100.0%
		調整済み残差	2.2	-4.9	0.3	3.1	0.3	
	専門職員	度数	16	14	17	0	13	60
		職種 の %	26.7%	23.3%	28.3%	0.0%	21.7%	100.0%
		調整済み残差	-8.0	2.7	5.6	-1.2	6.2	
合計		度数	643	111	77	21	44	896
		職種 の %	71.8%	12.4%	8.6%	2.3%	4.9%	100.0%

【カイ2乗検定】

ある変数に対する2つの異なる観察事象が互いに関連しないかどうかを統計的に検定する方法である。

例えば、生物学的な男性・女性の性別が喫煙習慣に関連するかどうかを検定する際に用いるもので、一般には χ^2 （カイ2乗）値が大きいと、何らかの有意差が生じる関係性にある（男性だから喫煙習慣が多くみられるなど）と判定されることになる。

カイ2乗検定				
	値	自由度	漸近有意確率（両側）	
Pearson のカイ2乗	130.664	8	.000	
尤度比	128.308	8	0	
線型と線型による連関	63.077	1	0	
有効なケースの数	896			

表C－運1（1）職種と勤務形態のクロス集計

職種 と 勤務形態 のクロス表					
			勤務形態		合計
			専任	兼任	
職種	教員	度数	76	141	217
		職種 の %	35.0%	65.0%	100.0%
		調整済み残差	0.1	-0.1	
	事務職員	度数	179	425	604
		職種 の %	29.6%	70.4%	100.0%
		調整済み残差	-4.7	4.7	
	専門職員	度数	54	12	66
		職種 の %	81.8%	18.2%	100.0%
		調整済み残差	8.3	-8.3	
合計		度数	309	578	887
		職種 の %	34.8%	65.2%	100.0%

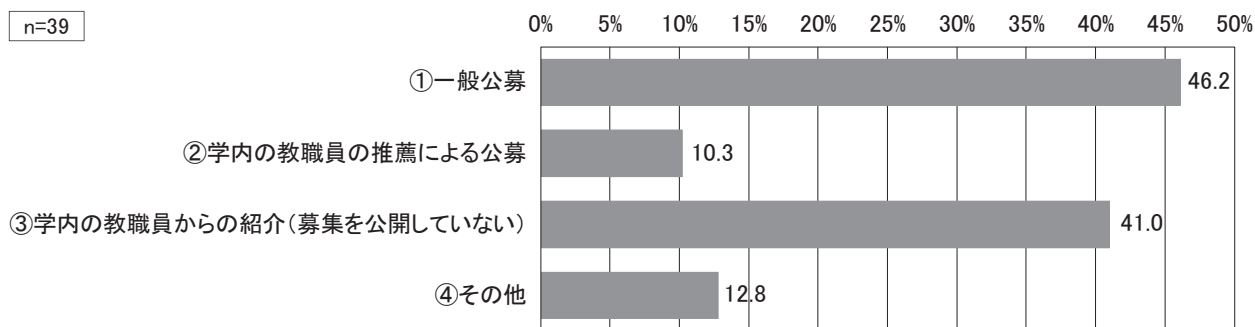
カイ 2 乗検定				
	値	自由度	漸近有意確率（両側）	
Pearson のカイ 2 乗	71.374	2	.000	
尤度比	68.967	2	0	
線型と線型による連関	16.017	1	0	
有効なケースの数	887			

C－運1（2）専門職員の採用経緯

表C－運1（2）・図C－運1（2）は、専門職員（コーディネーター）を採用していると回答した大学について、その職員の採用経緯について質問した結果である。有効回答数39のうち、「一般公募」が18大学（46.2%）、「学内の教職員からの照会（募集を公開していない）」が16大学（41.0%）とほぼ拮抗している。一般公募方式をとっている大学は半数に満たないことが示されている。

表C－運1（2）専門職員の採用経緯

		回答数	%
①	一般公募	18	46.2
②	学内の教職員の推薦による公募	4	10.3
③	学内の教職員からの紹介（募集を公開していない）	16	41.0
④	その他	5	12.8
	全体	39	100.0



図C－運1（2）専門職員の採用経緯

◆その他（抜粋）

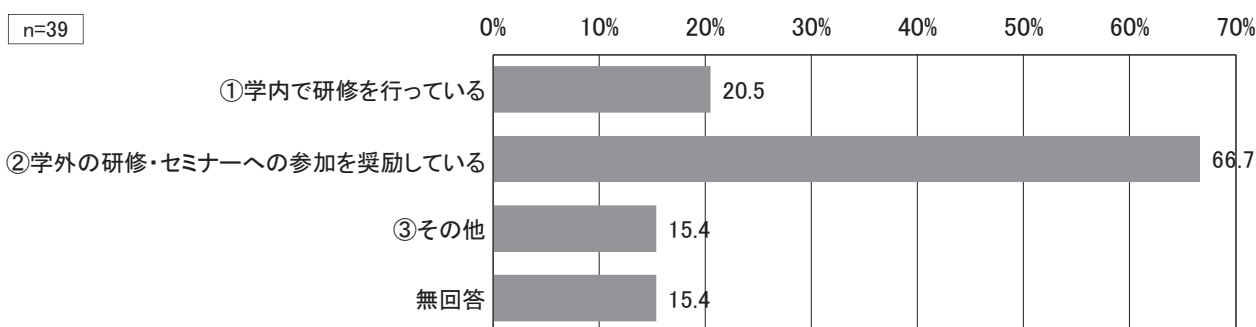
- ・ボランティアの専門機関からの推薦
- ・一部の雇用形態は「業務委託先の社員」になる
- ・元教員

C－運1（3）専門職員の研修・サポート体制

表C－運1（3）・図C－運1（3）は、専門職員（コーディネーター）を採用していると回答した大学について、その職員の研修・サポート体制のあり方について質問した結果である。有効回答数39のうち、「学内で研修を行っている」が8大学（20.5%）、「学外の研修・セミナーへの参加を奨励している」が26大学（66.7%）となっている。学内研修は約5分の1であり、全体の約3分の2が学外での研修に委ねている状況である。

表C－運1（3）担当者への研修・サポート体制（複数回答）

		回答数	%
①	学内で研修を行っている	8	20.5
②	学外の研修・セミナーへの参加を奨励している	26	66.7
③	その他	6	15.4
	無回答	6	15.4
	全体	39	100.0



図C－運1（3）担当者への研修・サポート体制（複数回答）

◆その他（抜粋）

- ・担当教員や、事務職員（管理職）によるオリエンテーションを実施
- ・総括課長が指示命令を出していることと、必要にあわせて、レクチャーを実施している
- ・先輩コーディネーターからの研修

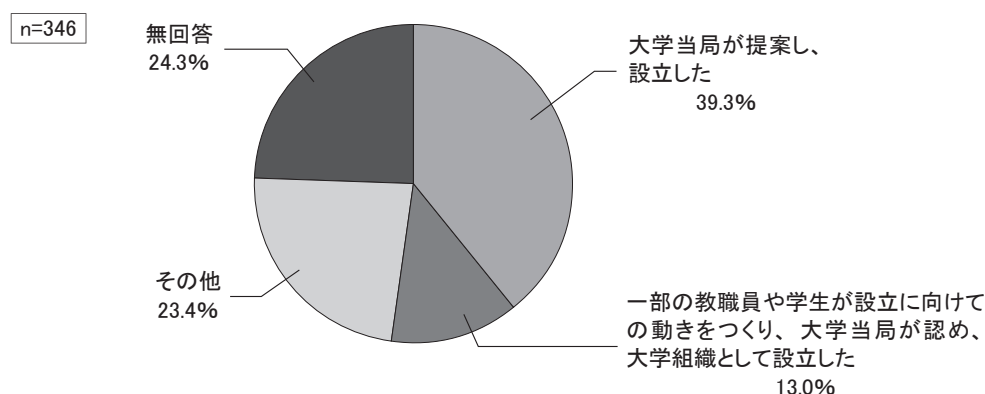
- ・あくまで自発的な自己啓発
- ・専任職員がボランティアコーディネーション力検定3級を取得
- ・専任無期正規雇用者には自己啓発研修助成制度がある

C－運2（1）設立経緯

表C－運2（1）・図C－運2（1）は、ボランティア担当部署の設立経緯について質問した結果である。「大学当局が提案し、設立した」と回答した大学が136大学（39.3％）と約4割となっており、「一部の教職員や学生が設立に向けての動きをつくり、大学当局が認め、大学組織として設立した」と回答した大学は45大学（13.0％）である。なお、この項目についてはその他と無回答が165大学と全体の約半数を占めるため、その他の項目を分析対象とする必要がある。

表C－運2（1）設立経緯

		回答数	%
①	大学当局が提案し、設立した	136	39.3
②	一部の教職員や学生が設立に向けての動きをつくり、大学当局が認め、大学組織として設立した	45	13.0
③	その他	81	23.4
	無回答	84	24.3
	全体	346	100.0



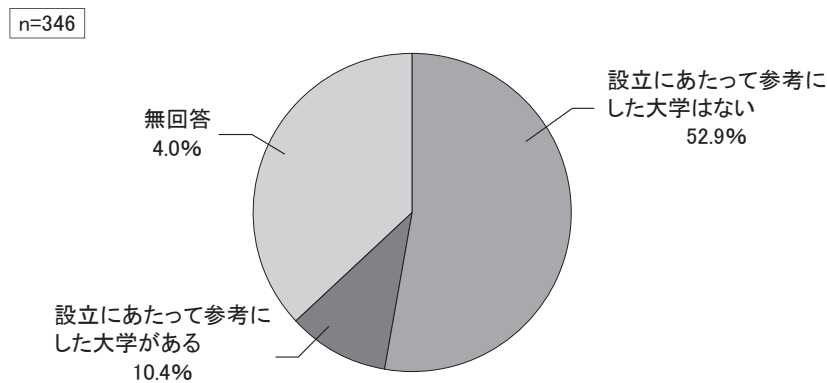
図C－運2（1）設立経緯

C－運2（2）設立に際して参考にした大学の有無

表C－運2（2）・図C－運2（2）は、ボランティア担当部署の設立に際して訪問したり資料参照したりした大学はあったか否かを質問した結果である。「設立にあたって参考にした大学はない」と回答した大学が183大学（52.9％）と半数を越えており、「設立にあたって参考にした大学がある」と回答した大学は36大学（10.4％）である。大学ボランティアセンター等専門部署だけでなく兼務部署も含む質問としたため、本項目も無回答が127大学（36.7％）に上っており、詳細な実態の把握にはおよんでいない。

表C－運2（2）設立の際に訪問や資料収集など参考にした大学の有無

		回答数	%
①	設立にあたって参考にした大学はない	183	52.9
②	設立にあたって参考にした大学がある	36	10.4
	無回答	127	36.7
	全体	346	100.0



図C－運2（2）設立の際に訪問や資料収集など参考にした大学の有無

C－運2（2）設立にあたって参考にした大学

ここではおもな大学2つの回答を得た。具体的な大学名延べ59件のうち、複数回答があった大学を列挙した。

表C－運2（2）設立にあたって参考にした大学

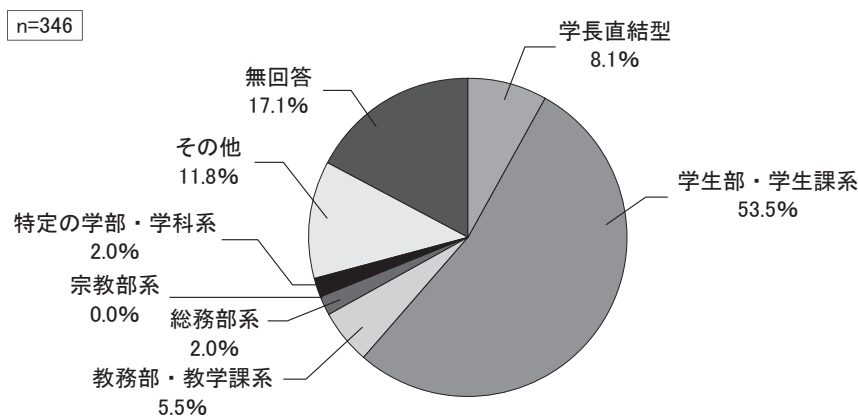
国際基督教大学	法政大学
淑徳大学	明治学院大学
松本大学	明治大学
神戸学院大学	立命館大学
聖学院大学	龍谷大学
早稲田大学	獨協大学
東洋大学	

C－運2（3）学内の組織・機構における担当部署の位置づけ

表C－運2（3）・図C－運2（3）は、ボランティア担当部署の学内での組織・機構における位置づけを質問した結果を示している。「学生部・学生課系」に所属している例が185大学（53.5%）と最も多く、それ以外の比率は低い。

表C－運2（3）学内の組織・機構における担当部署の位置づけ

		回答数	%
①	学長直結型	28	8.1
②	学生部・学生課系	185	53.5
③	教務部・教学課系	19	5.5
④	総務部系	7	2.0
⑤	宗教部系	0	0.0
⑥	特定の学部・学科系	7	2.0
⑦	その他	41	11.8
	無回答	59	17.1
	全体	346	100.0



図C－運2（3）学内の組織・機構における担当部署の位置づけ

◆その他（抜粋）

- ・研究支援、地域連携
- ・研究推進部
- ・キャリアサポートセンター
- ・大学公認サークル

C－運2（4）運営委員会の職種別人数

表C－運2（4）は、ボランティア担当部署に設置された運営委員会の構成員の種別と平均数を示している。設置状況がセンターの形態によって、種々考えられるので、一概に傾向を分析できないが大半の委員が教員と事務職員によって構成されていることは明らかである。

表C－運2（4）運営委員会の職種別人数

	教員	事務職員	専門職員 (コーディネーター)	学生	学外ボランティア受け入れ団体	学外中間支援組織	地域の町内会・自治会	企業	行政	学外の専門家
平均値	4.78	2.42	0.37	1.22	0	0.01	0.05	0	0.06	0.06
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	52	20	4	66	0	1	5	0	5	3

C－運2（5）運営委員会の開催回数

表C－運2（5）は、ボランティア担当部署に設置された運営委員会の開催回数を示している。運営委員会を実施している否かについて回答した大学数200大学（全体の57.8%）についての平均開催数は4.81回であり、最大値は30回であったが、その実態については、この質問のみでは明確にはならない。

表C－運2（5）運営委員会の開催回数

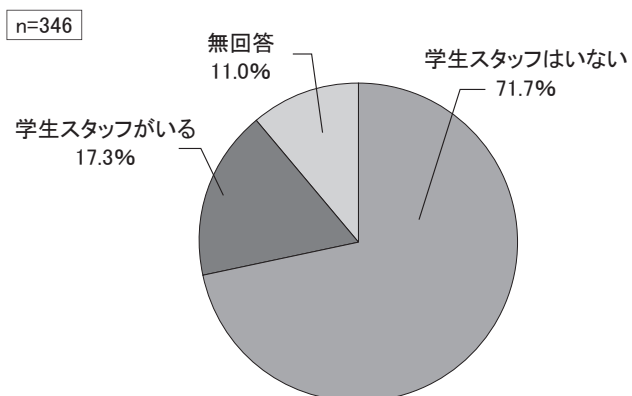
	回答数	回	%
実施の有無に回答した大学数	200		57.8
平均値		4.8	
標準偏差		5.1	
最小値		0.0	
最大値		30.0	
無回答	146		42.2
全体	346		100.0

C－運3（1）運営における学生スタッフの有無

表C－運3（1）・図C－運3（1）は、ボランティア担当部署の運営にあたって、運営に関わる学生スタッフの有無について質問した結果である。「学生スタッフがいる」と回答した大学は、60大学（17.3%）であり、248大学（71.7%）の大学が、「学生スタッフはいない」と回答している。ボランティア担当部署の運営にあたっては、教職員が運営の中心となっていることがわかる。

表C－運3（1）運営における学生スタッフの有無

		回答数	%
①	学生スタッフがいる	60	17.3
②	学生スタッフはいない	248	71.7
	無回答	38	11.0
	全体	346	100.0



図C－運3（1）運営における学生スタッフの有無

C-運3 (1) 運営における学生スタッフの人数

表C-運3 (1) は、ボランティア担当部署でその運営に学生スタッフが関与している担当部署における学生スタッフの人数の算術値である。回答のあった47大学での平均学生スタッフ数は、29.9人である。最小値は1人、最大値は100人であった。

表C-運3 (1) 運営における学生スタッフの人数

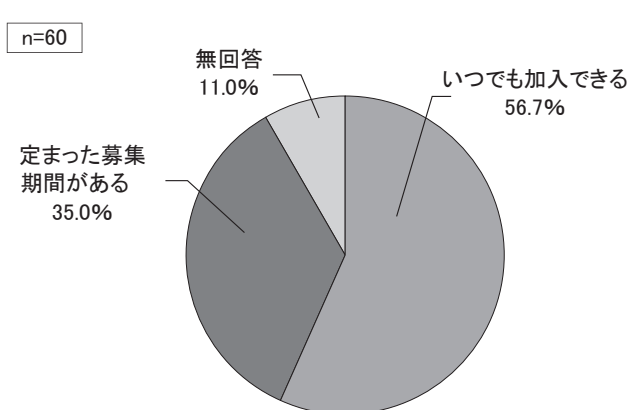
	回答数	人	%
	47		78.3
平均値		29.9	
標準偏差		29.4	
最小値		1.0	
最大値		100.0	
無回答	13		21.7
全体	60	60.0	100.0

C-運3 (2) 学生スタッフの加入時期

表C-運3 (2)・図C-運3 (2) は、ボランティア担当部署でその運営に学生スタッフが関与している担当部署における学生スタッフの加入時期について質問した結果を示している。「いつでも加入できる」と回答した大学は34大学 (56.7%)、「定まった募集期間がある」とした大学は21大学 (35.0%) であった。半数以上で、加入は随時という体制であることがわかる。

表C-運3 (2) 学生スタッフの加入時期

		回答数	%
①	いつでも加入できる	34	56.7
②	定まった募集期間がある	21	35.0
	無回答	5	8.3
	全体	60	100.0



図C-運3 (2) 学生スタッフの加入時期

C-運3 (3) 学生スタッフの加入条件・加入方法

表C-運3 (3) は、ボランティア担当部署で学生スタッフが加入する際にもとめる加入条件・加入方法について質問した結果である。志願理由書やオリエンテーション、面接等が比較的多くの大学が条件としている事がわかるが、オリエンテーションと面接を除く条件・方法はいずれも半数以上の大学でもとめていない。特に学年指定や「ボランティア経験の有無を条件に入れている」については70%以上の大学で条件としておらず、ボランティア経験の有無はスタッフとしては条件とされていないことが特徴的である。

表C－運3（3）学生スタッフの加入条件・加入方法

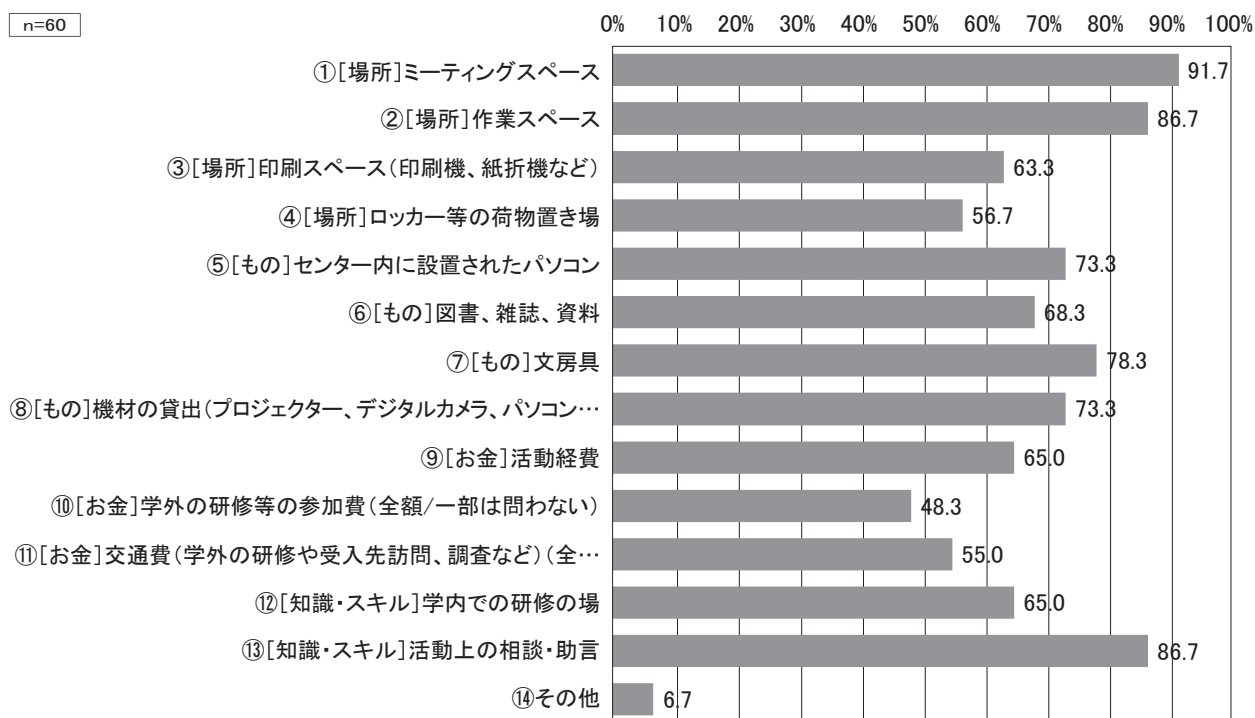
		必須	できれば	問わない	無回答	全体
①	志望理由書を提出する	21 (35.0%)	1 (1.7%)	31 (51.7%)	7 (11.7%)	60 (100.0%)
②	オリエンテーション（事前説明）を受ける	25 (41.7%)	9 (15.0%)	20 (33.3%)	6 (10.0%)	60 (100.0%)
③	面接を受ける	24 (40.0%)	3 (5.0%)	26 (43.3%)	7 (11.7%)	60 (100.0%)
④	研修を受ける	13 (21.7%)	9 (15.0%)	30 (50.0%)	8 (13.3%)	60 (100.0%)
⑤	学年を限定している	2 (3.3%)	6 (10.0%)	43 (71.7%)	9 (15.0%)	60 (100.0%)
⑥	ボランティア経験の有無を条件に入れている	3 (5.0%)	5 (8.3%)	44 (73.3%)	8 (13.3%)	60 (100.0%)

C－運3（4）学生スタッフへの活動環境整備やサポート内容

表C－運3（4）・図C－運3（4）は、学生スタッフ制をとっているボランティア担当部署が当該学生スタッフに対して行っている活動環境整備やサポート内容について複数回答で質問した結果である。「学外の研修等の参加費」を除いていずれの項目も50%以上の支援率であり、「ミーティングスペース」「作業スペース」「センター内に設置されたパソコン」「文房具」「機材貸し出し」「活動上の相談・助言」は、7割を超える支援率となっている。また、「印刷スペース」「図書・雑誌・資料」「活動経費」「学内での研修の場」なども6割を超える支援率となっており、ボランティア担当部署の学生スタッフに対しては、スタッフとしての活動環境整備に一定程度の支援がなされている現状が示されている。他方、「学外の研修等の参加費」については支援率が5割に達してはいないものの、4割以上の大学で何らかの支援がなされており、今後の増加が期待できる。

表C－運3（4）学生スタッフへの活動環境整備やサポート内容（複数回答）

		回答数	%
①	[場所] ミーティングスペース	55	91.7
②	[場所] 作業スペース	52	86.7
③	[場所] 印刷スペース（印刷機、紙折機など）	38	63.3
④	[場所] ロッカー等の荷物置き場	34	56.7
⑤	[もの] センター内に設置されたパソコン	44	73.3
⑥	[もの] 図書、雑誌、資料	41	68.3
⑦	[もの] 文房具	47	78.3
⑧	[もの] 機材の貸出（プロジェクター、デジタルカメラ、パソコンなど）	44	73.3
⑨	[お金] 活動経費	39	65.0
⑩	[お金] 学外の研修等の参加費（全額/一部は問わない）	29	48.3
⑪	[お金] 交通費（学外の研修や受入先訪問、調査など）（全額/一部は問わない）	33	55.0
⑫	[知識・スキル] 学内での研修の場	39	65.0
⑬	[知識・スキル] 活動上の相談・助言	52	86.7
⑭	その他	4	6.7
	全体	60	100.0



図C－運3（4）学生スタッフへの活動環境整備やサポート内容（複数回答）

◆その他（抜粋）

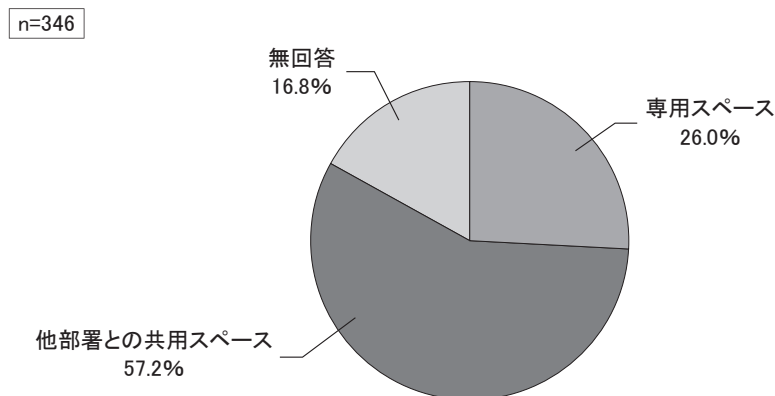
- ・活動報告の機会提供、広報ツールの提供
- ・委嘱状、名刺の交付

C－運4（1）ボランティア担当部署の場所の専用・共用について

表C－運4（1）・図C－運4（1）は、ボランティア担当部署が置かれている場所が学内において専用か共用かについて質問した結果である。「専用スペース」と回答した大学は90大学（26.0%）、他部署との共用スペースであると回答した大学は198大学（57.2%）である。専用・共用を明確にした大学内での比率は専用31.3%、共用68.8%であり、全体の3分の1弱は専用スペースを有しているが、ほぼ7割が共用スペースとなっていることがわかる。この点は、ボランティアに関わる学生活動の自立性を考慮する場合には専用スペースの方が有益なことが多いと考えられるが、一方で他の機会でも共用スペースの部署を訪れた学生がボランティア活動に関心をもつきっかけとなることを考えると、一概に共用スペースの不利を指摘することにも注意を要するといえる。

表C－運4（1）場所の専用・共用

		回答数	%
①	専用スペース	90	26.0
②	他部署との共用スペース	198	57.2
	無回答	58	16.8
	全体	346	100.0



図C－運4（1）場所の専用・共用

C－運4（1）他部署との共有スペースの傾向

活動スペースを他部署と共有していると回答した大学にどのような部署とスペースを共有しているかを聞いたところ、大きく学生課・就職・学生生活支援課・キャリアサポート課（約60%）、教務課系（約10%）、国際交流課系（約10%）、地域連携課系（10%）、その他（総務系、教員研究部門系：約10%）に分けられた。

C－運5（1）運営面での課題

この項目では、回答の傾向から大まかに7つのカテゴリーに分類し、特徴的な回答を抜粋した。ただし、それぞれの回答には他のカテゴリーに属すると思われる内容も含みながら回答されている場合も少なくないので、分類は相対的なものであることを付言する。

【職員体制に関する課題】29件

職員体制については、最も多くの課題が出された。学生課などと兼任の担当者においては、他の業務に追われることもあり、ボランティア推進に時間がとれないことに課題を感じている。学生のボランティア参加の重要性を感じ、独立したセンターが必要との意見も複数見られた。

また、専任の職員配置がある場合も、学生数に対しての職員体制がとれていない、専門職としての知識のあるコーディネーターの育成、非正規雇用のため定着してきたところで任期が終了してしまうなど、学生をサポートする体制を整えたいとする意見がみられた。

- ・ 本学にはボランティア支援センターが独立してはなく、学生課が兼務している状態なので独立したセクションにしたい。
- ・ 学生課がボランティア担当部署ではあるが、人手の問題もあり、ボランティア活動に係る業務に深く着手できていないことが課題である。
- ・ 他業務もある中で、ボランティア先や学生との調整が困難である。
- ・ ボランティア募集の情報の受付は事務員一人に対応している。将来はセンター化できたらと思う。
- ・ 実務が一人体制なので、細かな支援ができていない（一度、来室し活動につながらなかった学生への声かけや活動後の振り返り等が十分にできていない）。
- ・ コーディネーターがいない点、意思決定機関にいないのはほとんどが学内の教員であり、関係機関や学外からの視点などを全く組み入れられていない点が課題と感じました。

- ・専任の職員が、兼務ではなくしっかりとサポートできる体制が必要。
- ・専門職の育成が課題となっている。
- ・ボランティアコーディネーターがアルバイトであることからくる任期切れの問題。
- ・ボランティアに関する専門的な知識を持つコーディネーターがいない。

【参加の促進・マッチングに関する課題】 15件

実習やカリキュラムの都合で、ボランティアに参加したいが、なかなかタイミングが合わないことが課題になっている。

また、活動先とのマッチングについては、学生のニーズとボランティア内容がマッチしないなど、活動先の新規開拓や、既存のボランティア先の紹介方法を工夫するなどコーディネーションが求められると思われる課題もみられる。

- ・ボランティアの希望者が非常に少ないため、何かボランティアの意識付け動機付けの向上ができればと思っています。
- ・学生のニーズとボランティア内容がマッチせず、活動学生数が減少傾向の一因となっている。
- ・ボランティア依頼日と学生の授業（実習日）が同じ時期が多い。

【場所】 12件

一番多かったのは、担当部署の場所自体が認知されにくい場所にあることであった。また、専用スペースが少ないと、情報提供が思うようにできなかったり、学生の活動スペースがとれないなどの課題がみられる。回答の多さからも、専任職員とともに、スペースを確保することも、ボランティア推進には重要な要素であると考えられる。

- ・学生の往来が少なく、認知されにくい。
- ・専用スペースがないため、学生への情報提供や紹介、ボランティア活動の推進が行いにくい。
- ・窓口カウンターのみで学生の活動スペースがないため、学生同士の交流やミーティングを気軽に行うことができず、活動の幅が制限されてしまう。
- ・資材保管場所がなく、センタースペースを圧迫している。

【学内での理解・連携に関する課題】 10件

学内でも、教職員からの理解が得られていないことを課題に感じている意見が多数見られた。

- ・大学全体として、ボランティアセンターの活動への認識が高いとはいえない。「人ごと」と思っている教職員も多いと感じる。
- ・学内において教職員、学生へのボランティア活動の広がりがほしい。
- ・ボランティア活動の成果は学生がどのくらい参加したか、どのくらいの依頼数があったかなどの数字だけでは効果を生まない分野でもある。数字的成果も伸ばしつつ、地道に信頼関係を構築したり、学生の活動の質や課外活動の意味づけを伝えていく事は容易ではない。

【学生スタッフ】 7件

学生スタッフを置いている場合、卒業によって代替わりしていくことは避けられないが、学生スタッフの育成は、学生スタッフ本人の成長のためにも、センターの継続的な運営のためにも重要と感じている意見が

みられた。

- ・学生コーディネーターの代替わり
- ・学生コーディネーターを面接等により委嘱しているが、コーディネーターとしての研修プログラムがないため、必要な知識・スキルを身に付けているとは思えない。育成プログラム、最終的な学生コーディネーター像がないため、学生自身も困惑している現状もある。また、人（大人）によっては時間的拘束を業務として好む傾向もあるため、学生の負担になっている。
- ・学生スタッフの支援力を高めること。

【資金面に関する課題】 6件

ボランティア推進業務は限られた予算内での運営が求められている場合がほとんどである。財源の確保については、前述のC－事11基盤強化活動にも掲載があるが、助成金や補助金、協賛金、学内での働きかけなど、様々な方法で体制強化を図っていることもあり、資金面の課題も見られた。

- ・センターへの学内予算が厳しくなる中で、限られた資源で最大限の成果を引き出すための体制を整備すること。
- ・現在は活動経費のうち1／3を外部資金に頼っているため、安定した財源確保が課題。
- ・学生スタッフの活動経費の確保。

【広報に関する課題】 4件

- ・学生への広報について（なかなか情報が行き届かない）。
- ・広報の工夫。

C－運6（1）今後、センターの事業・運営をより良くするために、他大学のセンターに聞いてみたいこと・相談したいこと

【設置について】

- ・独立したセンターを持たずボランティア支援をしている大学の運営状況。
- ・学生課など、一つの部署がボランティア業務と他の業務を兼務している大学では、具体的にどのようなボランティア業務を行っているのか、機会があれば知りたい。

【運営について】

- ・センターの規模やボランティアに対してどのようなことを目的・目標に大学として取り組んでいるか。
- ・記録の付け方。
- ・相談件数のカウントの仕方。
- ・学生へのボランティア活動参加の指導方法、情報提供方法。
- ・これまで他大学センターとは職員との交流がほとんどないため、機会があればボランティア情報の受付方法・判断・組織的なこと等、基本的なことからご相談したいです。
- ・他大学の企画・運営のありかた。
- ・引率について。
- ・学生のボランティア参加実績、活動報告を汲み取るために特に行っている取組があればご教示いただきたい。
- ・ボランティア活動を定着させるような取り組みについて依頼団体の範囲。

- ・SDG s の取り組みについて。
- ・ボランティアの周知方法。

【職員体制について】

- ・ボランティアコーディネーター（専門職員）がいないので、専任教員がボランティアコーディネーターを担当しています。専門的な研修などを受けたいと思っていますが、どのように運営しておられるか相談したいです。
- ・専任スタッフの人件費。
- ・スタッフの主体性をはぐくむ方法について知りたい。

【学生スタッフについて】

- ・SNSを活用した情報発信（主に学生スタッフが発信している場合）。
- ・どのように学生スタッフを育成されているか。（研修内容、運営方法など）。

【講座・プログラムについて】

- ・プログラム開発、運営について。
- ・講座の内容や情報提供の仕方について工夫されている点があれば、ご教示いただきたいです。
- ・ボランティア活動を通して学びが得られる、事前事後学習を含んだ、複数のプログラム作りと運営のノウハウ。

【正課との関係について】

- ・サービスマーケティングの活動実施状況、正課単位との関わり方について。
- ・学生スタッフやボランティアセンターとしての授業の開講、調査・研究、災害ボランティアの実施を今後検討したいので、既にされている他大学のセンターへご相談及び参考にさせていただければ幸いです。

【学生サポートについて】

- ・一般学生とボランティア学生の成長の違い等を客観的に把握したい。多分、アンケートによる手法だと思うが、事例があれば知りたい。
- ・フィードバックの方法について。
- ・学生がボランティアをしたという証明書、または感謝状などは出しているか。
- ・個別相談への対応範囲（事前学習・事後振り返りなどどこまで関わっているのか）。
- ・学生が「主体的」にボランティアをしていくために、ボランティア活動を支援するノウハウ（お願いにならないようにするために）。
- ・現時点では主体的に動く学生のサポートという立場で運営していますが、動ける学生はサポートを必要とせず、その一方で、ボランティアをしてみたいと考えている学生はマッチングしないと動きません。潜在的なニーズに応えるためには、教職員が旗を振って学生を動かすべきなのか、それは果たしてボランティアと言えるのか、悩んでいるところです。
- ・学生とのコミュニケーションの取り方、工夫・実践している取り組みなど。

- ・ 学生ボランティア数の安定確保のための取組，学生スタッフの自主活動の促進，リフレクションの手法。
- ・ 学生にボランティアへ興味を持ってもらうために、どんなツールで、どのように工夫（仕掛け作り）をしているのか。

【他部署との連携について】

- ・ 学内での他の部署との連携。
- ・ ボランティア担当部署とその他の社会連携関連部署等との連携をどのように行っているか。社会連携・社会貢献活動との好事例を聞いてみたい。

【危機管理について】

- ・ 緊急時の連絡体制、対応マニュアル。
- ・ 女子学生に対するボランティア活動奨励における「安全・安心」対策について、具体的な取り組みを聞いてみたい。
- ・ ボランティア学生の安全の保障を優先するにはどのような方法があるのか。

Ⅱ－２．クロス集計

以下では、調査票Bによって質問された項目と調査票C票のうち主要な項目につき、対象となったボランティア担当部署のうち、ボランティア活動を専門に担当する部署がある（ボランティアセンター、ボランティア室、ボランティアビューロー、サービスラーニングセンター、地域連携センター等）と回答した群127大学と他業務とともにボランティア活動を担当する部署がある大学との2群に分けてクロス集計を行った結果である。有意差の検定はカイ2乗検定を行い、有意水準は5%とした。

1. 専門部署の有無と13種の事業の実施状況との関連

まず、B票で質問した他業務とともにボランティア活動を担当する部署がある大学で実施している活動内容の実施状況とボランティア活動支援を行う専門部署の有無とのクロス集計を行い、カイ2乗検定を行い、有意差を検定した結果を示す。

1) 専門部署の有無と情報収集提供活動

			情報収集提供				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	114	9	4	127
		%	0.0%	89.8%	7.1%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	7.8	-6.7	-1.1	
	なし	度数	21	205	155	22	403
		%	5.2%	50.9%	38.5%	5.5%	100.0%
		調整済み残差	2.6	-7.8	6.7	1.1	
合計	度数	21	319	164	26	530	
	%	4.0%	60.2%	30.9%	4.9%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	62.661	3	.000
尤度比	75.709	3	.000
線型と線型による連関	22.281	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき、「専門部署あり」が89.8%に対して、「専門部署なし」が50.9%であり、0.1%水準で、ボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に情報収集活動を実施している。

2) 専門部署の有無とアドバイザリー活動

			アドバイザリー活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	119	6	2	127
		%	0.0%	93.7%	4.7%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	7.3	-6.5	-.5	
	なし	度数	21	236	137	9	403
		%	5.2%	58.6%	34.0%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	2.6	-7.3	6.5	.5	
合計	度数	21	355	143	11	530	
	%	4.0%	67.0%	27.0%	2.1%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	55.287	3	.000
尤度比	70.611	3	.000
線型と線型による連関	19.480	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が93.7%に対して、「専門部署なし」が58.6%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意にアドバイザリー活動を実施している。

3) 専門部署の有無とマッチング活動

			マッチング活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	106	13	8	127
		%	0.0%	83.5%	10.2%	6.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	9.5	-8.7	.6	
	なし	度数	22	142	219	20	403
		%	5.5%	35.2%	54.3%	5.0%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-9.5	8.7	-6	
合計		度数	22	248	232	28	530
		%	4.2%	46.8%	43.8%	5.3%	100.0%

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	98.179	3	.000
尤度比	111.439	3	.000
線型と線型による連関	28.435	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が83.5%に対して、「専門部署なし」が35.2%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意にマッチング活動を実施している。

4) 専門部署の有無と学習支援活動

			学習支援活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	79	35	13	127
		%	0.0%	62.2%	27.6%	10.2%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	11.2	-10.0	1.8	
	なし	度数	21	52	307	23	403
		%	5.2%	12.9%	76.2%	5.7%	100.0%
		調整済み残差	2.6	-11.2	10.0	-1.8	
合計	度数	21	131	342	36	530	
	%	4.0%	24.7%	64.5%	6.8%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	139.874	3	.000
尤度比	134.740	3	.000
線型と線型による連関	27.960	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が62.2%に対して、「専門部署なし」が12.9%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に学習支援活動を実施している。

5) 専門部署の有無とプログラム開発・運営活動

			プログラム開発・運営活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	71	46	10	127
		%	0.0%	55.9%	36.2%	7.9%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	10.7	-8.9	1.1	
	なし	度数	22	44	316	21	403
		%	5.5%	10.9%	78.4%	5.2%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-10.7	8.9	-1.1	
合計	度数	22	115	362	31	530	
	%	4.2%	21.7%	68.3%	5.8%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	123.345	3	.000
尤度比	115.986	3	.000
線型と線型による連関	24.811	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が55.9%に対して、「専門部署なし」が10.9%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意にプログラム開発・運営活動を実施している。

6) 専門部署の有無と資源提供活動

			資源提供活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	89	30	8	127
		%	0.0%	70.1%	23.6%	6.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.8	8.0	-7.0	.5	
	なし	度数	23	121	238	21	403
		%	5.7%	30.0%	59.1%	5.2%	100.0%
		調整済み残差	2.8	-8.0	7.0	-5	
合計	度数	23	210	268	29	530	
	%	4.3%	39.6%	50.6%	5.5%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ2乗	70.537	3	.000
尤度比	75.398	3	.000
線型と線型による連関	16.587	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が70.1%に対して、「専門部署なし」が30.0%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に資源提供活動を実施している。

7) 専門部署の有無と調査研究活動

		調査研究活動					
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	40	73	14	127
		%	0.0%	31.5%	57.5%	11.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.8	8.8	-6.0	1.4	
	なし	度数	23	16	335	29	403
		%	5.7%	4.0%	83.1%	7.2%	100.0%
		調整済み残差	2.8	-8.8	6.0	-1.4	
合計	度数	23	56	408	43	530	
	%	4.3%	10.6%	77.0%	8.1%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ2乗	86.490	3	.000
尤度比	79.091	3	.000
線型と線型による連関	4.179	1	.041
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が31.5%に対して、「専門部署なし」が4.0%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に調査研究活動を実施している。

8) 専門部署の有無と広報・認知度アップ活動

			広報・認知度アップ活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	1	104	14	8	127
		%	0.8%	81.9%	11.0%	6.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	12.8	-11.6	.5	
	なし	度数	21	80	281	21	403
		%	5.2%	19.9%	69.7%	5.2%	100.0%
		調整済み残差	2.2	-12.8	11.6	-5	
合計	度数	22	184	295	29	530	
	%	4.2%	34.7%	55.7%	5.5%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	171.606	3	.000
尤度比	176.780	3	.000
線型と線型による連関	61.287	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が81.9%に対して、「専門部署なし」が19.9%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に広報・認知度アップ活動を実施している。

9) 専門部署の有無とネットワーキング活動

			ネットワーキング活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	89	26	12	127
		%	0.0%	70.1%	20.5%	9.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	10.8	-9.6	1.1	
	なし	度数	22	77	278	26	403
		%	5.5%	19.1%	69.0%	6.5%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-10.8	9.6	-1.1	
合計	度数	22	166	304	38	530	
	%	4.2%	31.3%	57.4%	7.2%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	127.868	3	.000
尤度比	129.454	3	.000
線型と線型による連関	29.701	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が70.1%に対して、「専門部署なし」が19.1%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意にネットワーキング活動を実施している。

10) 専門部署の有無と一般啓発活動

			一般啓発活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	1	79	32	15	127
		%	0.8%	62.2%	25.2%	11.8%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	10.7	-9.4	1.1	
	なし	度数	21	58	289	35	403
		%	5.2%	14.4%	71.7%	8.7%	100.0%
		調整済み残差	2.2	-10.7	9.4	-1.1	
合計	度数	22	137	321	50	530	
	%	4.2%	25.8%	60.6%	9.4%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	125.454	3	.000
尤度比	119.507	3	.000
線型と線型による連関	27.045	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が62.2%に対して、「専門部署なし」が14.4%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に一般啓発活動を実施している。

11) 専門部署の有無と基盤強化活動

		基盤強化活動					
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	55	61	11	127
		%	0.0%	43.3%	48.0%	8.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	9.5	-7.6	1.7	
	なし	度数	22	31	331	19	403
		%	5.5%	7.7%	82.1%	4.7%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-9.5	7.6	-1.7	
合計	度数	22	86	392	30	530	
	%	4.2%	16.2%	74.0%	5.7%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	100.262	3	.000
尤度比	92.880	3	.000
線型と線型による連関	11.881	1	.001
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が43.3%に対して、「専門部署なし」が7.7%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に一般啓発活動を実施している。

12) 専門部署の有無と授業支援活動

			授業支援活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	72	47	8	127
		%	0.0%	56.7%	37.0%	6.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	6.7	-5.5	.4	
	なし	度数	21	100	260	22	403
		%	5.2%	24.8%	64.5%	5.5%	100.0%
		調整済み残差	2.6	-6.7	5.5	-.4	
合計	度数	21	172	307	30	530	
	%	4.0%	32.5%	57.9%	5.7%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	49.594	3	.000
尤度比	52.208	3	.000
線型と線型による連関	9.776	1	.002
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が56.7%に対して、「専門部署なし」が24.8%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に一般啓発活動を実施している。

13) 専門部署の有無と災害支援活動のクロス表

			災害支援活動				
			無回答	行っている	行っていない	検討中	合計
専門部署	あり	度数	0	84	34	9	127
		%	0.0%	66.1%	26.8%	7.1%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	6.6	-5.1	-.8	
	なし	度数	20	133	212	38	403
		%	5.0%	33.0%	52.6%	9.4%	100.0%
		調整済み残差	2.6	-6.6	5.1	.8	
合計	度数	20	217	246	47	530	
	%	3.8%	40.9%	46.4%	8.9%	100.0%	

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ2乗	46.688	3	.000
尤度比	50.473	3	.000
線型と線型による連関	12.794	1	.000
有効なケースの数	530		

「行っている」につき「専門部署あり」が66.1%に対して、「専門部署なし」が33.0%であり、0.1%水準でボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比べて、有意に一般啓発活動を実施している。

2. 専門部署の有無とC票主要項目とのクロス集計

次にC票における主要項目と専門部署の有無についてのクロス集計を行った結果を示す。

1) アドバイザリー活動の現状と専門部署の有無

アドバイザリー活動と専門部署の有無についてのクロス集計では、「専門部署あり」の群が「専門部署なし」の群に対して、有意にアドバイザリー活動を実施しており、「専門部署なし」の群は「専門部署あり」の群に比して明らかにアドバイザリー活動を実施していないことが明らかに示されている ($p<.001$)。

アドバイザリー活動実施状況

			行っている	行っていない	検討中	合計
担当部署	専門部署あり	度数	64	26	2	92
		担当部署の %	69.6%	28.3%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	7.7	-7.9	1.6	
	専門部署なし	度数	62	189	1	252
		担当部署の %	24.6%	75.0%	0.4%	100.0%
		調整済み残差	-7.7	7.9	-1.6	
合計		度数	126	215	3	344
		担当部署の %	36.6%	62.5%	0.9%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	63.194	2	.000
尤度比	62.487	2	.000
線型と線型による連関	50.707	1	.000
有効なケースの数	344		

2) マッチング活動の現状と専門部署の有無

アドバイザリー活動と専門部署の有無についてのクロス集計においても、「専門部署あり」の群が「専門部署なし」の群に対して、有意にマッチング活動を実施しており、「専門部署なし」の群は「専門部署あり」の群に比して明らかにマッチング活動を実施していないことが明らかに示されている ($p<.001$)。

マッチング活動の実施状況

			行っている	行っていない	検討中	合計
担当部署	専門部署あり	度数	34	41	14	89
		担当部署の %	38.2%	46.1%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	5.6	-6.4	2.5	
	専門部署なし	度数	28	201	17	246
		担当部署の %	11.4%	81.7%	6.9%	100.0%
		調整済み残差	-5.6	6.4	-2.5	
合計		度数	62	242	31	335
		担当部署の %	18.5%	72.2%	9.3%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	42.387	2	.000
尤度比	39.610	2	.000
線型と線型による連関	7.847	1	.005
有効なケースの数	335		

3) ボランティア活動プログラムの実施状況と専門部署の有無

ボランティア活動プログラムの実施状況と専門部署の有無についてのクロス集計においても、「専門部署あり」の群が「専門部署なし」の群に対して、有意にボランティア活動プログラムを実施しており、「専門部署なし」の群は「専門部署あり」の群に比して明らかにボランティア活動プログラムを実施していないことが明らかに示されている ($p<.001$)。

ボランティア活動プログラムの実施状況

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	34	41	89
		担当部署の %	38.2%	46.1%	100.0%
		調整済み残差	5.6	-6.4	
	専門部署なし	度数	28	201	246
		担当部署の %	11.4%	81.7%	100.0%
		調整済み残差	-5.6	6.4	
合計			度数	242	335
			担当部署の %	72.2%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）	正確な有意確率（両側）	正確有意確率（片側）
Pearson のカイ 2 乗	89.046	1	.000		
連続修正	86.310	1	.000		
尤度比	81.465	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	88.783	1	.000		
有効なケースの数	339				

4) 学習支援活動の実施状況と専門部署の有無

次いで、学生のボランティアに関する学習支援の状況と専門部署の有無について4つの項目においてクロス集計を実施した。4つの項目すべてでボランティアセンター等の専門部署ありと答えた大学がそうでない大学に対して有意に実施されていることが明らかに示された ($p<.001$)。

啓発、きっかけづくりのための講座、学習会

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	35	52	87
		担当部署の %	40.2%	59.8%	100.0%
		調整済み残差	-8.1	8.1	
	専門部署なし	度数	252	50	302
		担当部署の %	83.4%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	8.1	-8.1	
合計			287	102	389
			73.8%	26.2%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確な有意確率(片側)
Pearson のカイ2乗	65.199	1	.000		
連続修正	62.984	1	.000		
尤度比	59.300	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
有効なケースの数	389				

知識やスキルを学ぶ講座、学習会

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	35	44	79
		担当部署の %	44.3%	55.7%	100.0%
		調整済み残差	-8.5	8.5	
	専門部署なし	度数	252	33	285
		担当部署の %	88.4%	11.6%	100.0%
		調整済み残差	8.5	-8.5	
合計			287	77	364
			78.8%	21.2%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確な有意確率(片側)
Pearson のカイ2乗	72.180	1	.000		
連続修正	69.559	1	.000		
尤度比	62.832	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
有効なケースの数	364				

スキルアップや継続のための講座、学習会

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	35	18	53
		担当部署の %	66.0%	34.0%	100.0%
		調整済み残差	-7.4	7.4	
	専門部署なし	度数	252	8	260
		担当部署の %	96.9%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	7.4	-7.4	
合計	度数		287	26	313
	担当部署の %		91.7%	8.3%	100.0%

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確な有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearson のカイ2乗	55.137	1	.000		
連続修正	51.157	1	.000		
尤度比	39.785	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
有効なケースの数	313				

組織運営のための講座、学習会

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	35	20	55
		担当部署の %	63.6%	36.4%	100.0%
		調整済み残差	-9.0	9.0	
	専門部署なし	度数	252	3	255
		担当部署の %	98.8%	1.2%	100.0%
		調整済み残差	9.0	-9.0	
合計	度数		287	23	310
	担当部署の %		92.6%	7.4%	100.0%

($p < .001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確な有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearson のカイ2乗	81.550	1	.000		
連続修正	76.508	1	.000		
尤度比	59.176	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
有効なケースの数	310				

5) 授業支援活動と専門部署の有無

(1) 正規の授業の開講

次の表は、担当部署が正規の授業としてボランティア論などの授業を実施しているか否かを専門部署の有無との間でクロス集計を行った結果である。いずれも授業開講率は低いものの、専門部署がある大学の方が担当部署として授業を開講している率が高い ($p<.005$)。

担当部署として開講している授業の有無

			ある	ない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	13	67	80
		担当部署の %	16.3%	83.8%	100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2	
	専門部署なし	度数	11	208	219
		担当部署の %	5.0%	95.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	3.2	
合計	度数		24	275	299
	担当部署の %		92.6%	7.4%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ2乗	10.005	1	.002		
連続修正	8.542	1	.003		
尤度比	8.844	1	.003		
Fisher の直接法				.003	.003
線型と線型による連関	9.971	1	.002		
有効なケースの数	299				

($p<.005$)

(2) 授業分担

次の表は、担当部署が分担してボランティア論などの授業を実施しているか否かを専門部署の有無との間でクロス集計を行った結果である。これについても、専門部署がある大学の方が授業を開講している率が高い。

担当部署として分担している授業の有無

			ある	ない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	37	43	80
		担当部署の %	46.3%	53.8%	100.0%
		調整済み残差	7.0	-7.0	
	専門部署なし	度数	22	200	222
		担当部署の %	9.9%	90.1%	100.0%
		調整済み残差	-7.0	7.0	
合計	度数		59	243	302
	担当部署の %		19.5%	80.5%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ 2 乗	49.404	1	.000		
連続修正	47.119	1	.000		
尤度比	44.412	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	49.241	1	.000		
有効なケースの数	302				

6) 自然災害へのボランティアの送り出しと専門部署の有無

この項目についても、ボランティアセンター等の専門部署のある大学の方が有意にボランティアの送り出しについて積極的であるといえる ($p<.001$)。

自然災害ボランティア

			実施している	実施していない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	57	32	89
		担当部署の %	64.0%	36.0%	100.0%
		調整済み残差	5.6	-5.6	
	専門部署なし	度数	71	166	237
		担当部署の %	30.0%	70.0%	100.0%
		調整済み残差	-5.6	5.6	
合計	度数		128	198	326
	担当部署の %		39.3%	60.7%	100.0%

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ 2 乗	31.525	1	.000		
連続修正	30.112	1	.000		
尤度比	31.141	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	31.429	1	.000		
有効なケースの数	326				

7) 学生スタッフの有無と専門部署の有無

次いで、担当部署運営に関わる学生スタッフの有無と専門部署の有無について、クロス集計を行った結果も、ボランティアセンター等の専門部署がある方がない方に比して有意に学生スタッフを置いている結果が示された ($p<.001$)。

学生スタッフの有無					
			ある	ない	合計
担当部署	専門部署あり	度数	35	39	74
		担当部署の %	47.3%	52.7%	100.0%
		調整済み残差	8.0	-8.0	
	専門部署なし	度数	14	198	212
		担当部署の %	6.6%	93.4%	100.0%
		調整済み残差	-8.0	8.0	
合計	度数	49	237	286	
	担当部署の %	17.1%	82.9%	100.0%	

($p<.001$)

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確な有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のカイ 2 乗	63.979	1	.000		
連続修正	61.145	1	.000		
尤度比	56.454	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	63.756	1	.000		
有効なケースの数	286				

以上のクロス集計については、検定したすべての項目について、独立性の検定（カイ2乗検定）において0.1%水準で有意な差がみられた。すなわち、ボランティアセンター等の専門部署があるかないかが、すべての検討項目について有意に活動が高い比率で行われているといえる。特にアドバイザー活動やマッチング活動などはきわめて高率で専門部署をもつ大学の方が実施しているケースが多かった。一方で、調査研究活動や基盤強化活動については、高い有意水準を示してはいるものの、実施率自体は、他の項目に比べて低い水準にあり、今後の活動のあり方を検討する上で重要な示唆がなされる結果であった。

このように、大学におけるボランティア活動の積極的な展開にあたっては、ボランティアセンターなどのボランティアに関する専門部署を置く方が、他の部署の兼務で行ったり担当部署がなかったりする場合に比べて、より活発に活動を推進することが可能であることが示されている。

Ⅲ．考察

1. ボランティア担当部署が取り組む大学のボランティア活動支援活動の全体傾向

本調査においては、調査票B票において大学のボランティア活動支援活動の全体的傾向を把握した。結果の概要を再掲すると、13種の事業内容のうちで、最も多く実施されていた活動は「アドバイザー活動」であり、全体のうち356大学（66.9%）が実施していた。次いで、情報収集提供活動が320大学（60.2%）、マッチング活動が249大学（46.9%）、災害支援活動が219大学（41.2%）となっている。反対に実施している大学機能が少ない活動は、調査研究活動が57大学（10.7%）、基盤強化活動が87大学（16.4%）となっている。情報収集提供や相談援助（アドバイス）の活動が多く大学の大学で行われている反面で、調査研究や基盤強化など、大学としてのボランティア活動支援の組織強化に関わる活動は、取り組まれにくい傾向にあることがわかる。アドバイザー機能は、大学のボランティア活動支援の根幹といえ、さまざまな学生あるいは教職員のボランティア活動のニーズに対応した相談・連絡調整機能であるため、実施率が相対的に高いことについては合理性がある結果といえる。同様にアドバイザー機能と連動する情報収集提供活動も約6割の担当部署が実施していることから、回答を得たボランティア担当部署の機能としての基幹的部分は、おおむね6割程度が機能しているとみることができる。他方で、こうした基幹的機能と関係するとみられる調査研究活動や基盤整備活動はいずれも実施率が20%に満たないことが示されており、大学のボランティア活動支援の漸進的向上に関しては活動の実態に即してみると必ずしも計画的にすすめられているとはいえない。特に基盤強化活動が低調であることは、各大学の学内政策全体でのボランティア活動支援の組織的基盤の脆弱性が示唆される結果といえ、この点についての世論喚起の重要性が示されている。

2. ボランティア活動支援活動の実態について

調査票C票の回答に同意したボランティア担当部署を対象として、C票によってボランティア担当部署が現時点で行っているボランティア活動支援の実状について把握した。

1) 活動の概要について

ボランティア担当部署の開所日等については、月曜日から金曜日までのウィークデーにおける開所が圧倒的多数であり、土日の開所はきわめて少数であり、機動的なボランティア支援には課題が残っている。

2) 情報提供・収集活動について

情報提供活動や情報収集活動については、全体として情報提供はどちらかといえば従来型の紙ベースでの情報提供が主体であり、情報収集についてもいわば「持ち込み」型の対応が多く、ボランティアニーズへの対応もシステム化されている（必ず専門職員が内容を系統化して該当する学内のボランティアサークルなどに情報を提供し・調整する、データ化して活動の希望がある個人や団体が選択して連絡できるなど）ことよりも、多くが随時に担当職員の判断によって対応している状況にあるとみることができる。

3) アドバイザリー活動、マッチング活動について

アドバイザー活動に関連して、相談・対応記録に関しては半数以上が記録をとっておらず、ケース検討会は約8割が実施されていない。このことからみて、いわゆるボランティア相談に象徴されるアドバイザー活動については、全体の傾向としては随時の担当職員の応談が主となっているとみられ、相談のスキル

アップや事例検討による活動のレベル向上には大きな課題があるといえる。

ボランティア活動のマッチングを目的とした学生のボランティア登録制度は、7割の大学で実施していない。こんにち、地域のボランティアセンターでも個別ボランティアの登録制度をとっていないところが少なくないので、この点を一概に是非の議論の対象にはできないが、「掲示板等で情報を見た学生本人が希望の活動先へ直接連絡する」というコーディネーションの介在しない方法をとる大学が8割近い実態であり、活動のマッチング方法としての今後のあり方には一考を要する状況であるといえる。一方で18%強の大学でマッチングを前提とした学生のボランティア登録制度を実施していることを考えると、ボランティア担当部署の機能を考える時、学生のボランティア登録制度についてはコーディネーションのあり方も含めて議論の対象となりうるものと考えられる。

4) ボランティアに関する学習支援、ボランティア活動プログラムについて

学生のボランティアに関する学習支援活動やボランティア活動のプログラムについては、約3割程度の大学で啓発やきっかけづくりの講演・講習が行われており、活動のスタートにあたっての知識やスキルの講座・講習会が約2割の大学で行われている。また、ボランティア担当部署がデザインして提供しているボランティアプログラムを有していると回答した大学は、約4分の1であり、海外での活動プログラムを有している大学は、5分の1に満たない。このことからみて、学生のボランティアプログラム開発という視点から見た場合、現在のボランティア担当部署の活動には少なからぬ課題があるといえる。特に海外での活動プログラムは学生個人での開拓や参加が難しい領域であり、大学が主体的にプログラム開発をする必要があると考えられる。

5) 大学資源の提供について

大学が学生の登録ボランティア団体に対して提供している特定している資源に関しては、いずれも概して低率である。これはボランティア活動と他の学生活動を特段に区別していないという点に関連しているとみられる。一般学生のボランティア活動に対する資源の提供に関しては、スペースや図書でいずれも4割から5割の資源提供が行われていることからみて、多くの大学では登録団体と一般学生のボランティア活動とを特に区別していないことがわかる。

6) 広報や認知度アップの取り組みについて

ボランティア担当部署の広報や認知度アップの方法については、大学の学内メディア（大学新聞や方法、Webサイトなど）への掲載が約3割であり、それ以外はほとんどが10%台の実施率であり、独自のWebサイトの運営は5分の1に満たない。この現状をみる限り、ボランティア担当部署の存在や活動の周知には大きな課題があるといえることができる。また、広報誌・ニュースレター等の発行に関しても、C票回答大学中の10%程度であり、活動の周知体制について検討すべき課題が多い。

7) ボランティアサークル等との連絡関係

ボランティア担当部署と学内ボランティア団体、学内組織、地域のボランティア支援機関、地縁団体や企業等との関係については、日常的な問い合わせなどができる緊密な関係をつくることができている大学がおおむね半数程度であり、特に学内のボランティア団体とまったく関わりがない部署が約28%あり、他大学のボランティア担当部署とまったく関わりがないと回答した大学が約56%に上っていることで、大学のボラン

ティア活動の支援機関がボランティアに直接関係する組織や機関と連携関係にない大学が多くあるという実態が明らかになった。この点は、今後大学におけるボランティア活動が相互に連携しながら多様かつユニークな活動展開をしていくうえで大きな障壁となることが考えられ、今後、学内における学生ボランティア団体との連絡調整の恒常化や他大学のボランティア担当部署との連携強化がもとめられるところである。

8) 学生への関心喚起や大学の授業への関わりについて

ボランティア担当部署が一般の大学生に対して、ボランティア担当部署やボランティア活動への関心を喚起する方法に関しては、オリエンテーションや冊子の配布という方法が主体であり、オープンキャンパスでのPRなど新たな人材の確保につながる機会においては検討の余地がある。

また、大学の正規の授業でボランティア関連の授業を担当したり、ボランティアに関連する授業を分担したりしている割合は概して低く、ボランティア担当部署が大学授業に関わることは未だ少ないといえる。教育課程の運営は教授会を中心とする教育事項であり、事業・管理部門に位置づけられることが多いボランティア担当部署が主体的に関与しにくい内容といえる。一方で大学生のサービスラーニングやシティズンシップ教育、あるいはインターンシップの重要性が指摘されている今日において、こうした活動はより積極的に取り組まれてよいと考えられる。

9) 自然災害ボランティアへの送り出し

この活動については、東日本大震災をはじめとする自然災害の救援や復興におけるボランティア活動の重要性が認識されているために、比較的多くの大学が取り組んでいる活動である。後掲の自由記述でもみることができるよう、自然災害救援ボランティアからまちおこし・まちづくりへの参加、そして日常的なボランティア活動へと展開していく上で、自然災害ボランティアへの取り組みは、大学でのボランティア活動支援の重要な部分であるといえる。

10) ボランティア担当部署職員の雇用環境

ボランティア担当部署の職員の雇用環境は、担当部署の職員数が多くなるほど有期雇用や嘱託の比率が高くなる傾向がみられる。また、専任・兼任の別では、雇用人数に関係なく兼任の比率が高く、大学のボランティア支援業務が他の業務との兼務で行われている実態が示されている。採用の経緯では、一般公募や何らかの形での公募を取る場合と、紹介あるいはその他公募によらない場合とがほぼ半数ずつであり、公募が基本となっていない。これは専門職員がボランティアコーディネーションに関する知識や経験を要するところから公募に馴染みにくい面があることは否めないが、広く有為な専門職員を採用していくためにも公募方式が取り入れられることは積極的に検討していく余地がある。

一方、職員の研修に関しては、主として学外の研修機会に依存しており、大学独自での研修はあまりなされていない。

11) ボランティア担当部署の設立について

ボランティア担当部署の設立については、大学当局による経営的判断からの設立が優位であり、学生や教職員の主体的発意で設立にいたったケースは少ない。設立にあたって参考にした大学があると回答した大学はほぼ半数である。

また、ボランティア担当部署の学内組織としての位置づけについては、約53%が学生支援系組織として位

置づけられており、ボランティア支援を学生支援事項としてとらえる傾向が強い。一方で自由記述においてもみられるように、近年の傾向として、ボランティア活動支援を社会連携事業の一環としてとらえ、社会連携センターでボランティア支援業務も担っている例がみられている。この点は一つの考え方であり、今後社会連携とボランティア支援との関連を検討する必要があるだろう。

12) 学生スタッフについて

ボランティア担当部署においてその運営に関わる学生スタッフの実態に関しては、担当部署運営に関わる学生スタッフがいる大学は約17%であり、多くの大学では学生スタッフを置いていない。学生スタッフを置いている大学においては、大学資源の提供は、学生ボランティア団体や一般学生に比して高い率で実施されている。活動経費や研修の参加費など費用面でも一定の配慮がなされているケースが少なくないため、学生スタッフを置いている大学においては支援の努力がされているといえる。

3. クロス集計の結果から

B票で質問した事業内容やC票における主要項目について、専門部署がある大学とそうでない大学の2群に分けてクロス集計を行ったところ、実施したすべての項目において0.1%水準で有意な結果となった。特に情報収集提供活動、アドバイザリー活動やマッチング活動などはきわめて高率で専門部署をもつ大学の方が実施しているケースが多かった。一方で、学習支援活動やプログラム開発・運営活動は高い有意水準を示してはいるものの、実施率自体は、他の項目に比べて低い水準にあり、調査研究活動や授業支援活動、基盤強化活動はさらに実施率が低かった。これらの点は、今後の活動のあり方を検討する上で興味深い示唆に富んでいる。すなわち、大学にボランティア活動支援の専門部署を設けることは、学生に対してボランティア活動に関わる直接的な支援を行う上ではきわめて有効な対策として効果が上がることが考えられる。他方で、ボランティア支援に関わる基礎的なデータを分析したりニーズ把握のための調査を実施したりすることや、ボランティア活動支援を向上させる体制を整備することは、単にボランティアに関する専門部署を設置したことのみでは、ただちに効果がでるような活動ではなく、大学ボランティアセンター等の運営のあり方を発展的に検討する不断の改善努力が重要であることを示している。この点で、ボランティアに関する専門部署を置いている大学の方が学生スタッフをその運営に加えている率が有意に高いことが明らかになっている点からみて、当事者である学生の運営参加がこれらの点で好影響をあたえることが考えられる。

以上のように、大学において、ボランティア活動支援のための専門部署（ボランティアセンター等）を設置することが、大学におけるボランティア活動の活性化にとってきわめて重要な取り組みであることは明らかである。

4. 自由記述からみたボランティア担当部署の課題

自由記述においては、それぞれの大学のボランティア支援の取り組みについて、きわめて多彩な活動実態が報告された。

まず、プログラム開発に関して、具体的に開発・提供されている活動内容としては、東日本大震災支援を中心とした災害支援ボランティア、海外支援ボランティア（国内での活動を含む）、子ども支援ボランティア、まちづくり・地域活性化に関するボランティアなどが目立っている。大学生のサークル活動としてボランティア活動が取り組まれることが多いことを考えると、これらの活動が大学におけるボランティア活動としてプログラムを構成しやすいことが窺われる。

資源提供活動としては、スペースなどの提供が多く例示されているが、大学のロゴマーク入りのTシャツの提供や大学生での模擬店での売り上げの一部を活動資金とするなどユニークな資源提供の方法が挙げられている。こうしたイベントでの売り上げの一部を還元することは基盤強化活動においてもみられる。また認知度アップに関しては、大学生協食堂等での卓上ポップアップ広告を活用している例がユニークである。

啓発面や授業協力の活動では、ボランティアに関する授業としては「ボランティア論」「コミュニティデザイン」「シティズンシップスタディ」などボランティアに関する講義・演習や地域活動を主体とするサービスラーニングでの授業開講や協力がなされている。

また、設立にあたって参考にした大学としては、比較的早期から大学ボランティアセンターを設置した大学の当該部署が参考とされている傾向がみられた。

運営面での課題としては、最も顕著に挙げられた課題が、担当部署が組織的に独立していないこと、他の業務と兼務であるために、十分な人手がボランティアに関する業務に割けないこと、担当部署専用スペースが確保されていないことなどが目立った。

そして、中でも顕著に挙げられている内容が、独立した組織とスペース、そして専門職員としてコーディネーターが配置されていないため、積極的なアドバイザー活動やプログラム開発ができていないという点である。この点からみても、ボランティア活動支援の拠点としての大学ボランティアセンターの設置が今後の大学におけるボランティア活動支援の最も喫緊かつ有効な手段であることが示されている。

おわりに

調査が実施された2020年1月以降、日本や世界においてコロナ感染が新たに確認され、瞬く間に感染は拡大し、私たちの生活や活動にも大きな不安と変化をもたらした。

本調査はコロナ禍より前の支援状況をもとに回答いただいているため、コロナ禍が続いている現在において、各大学および大学全体をめぐる状況がかなり変わってしまっている。

本センターにおいても、感染拡大防止とコロナ禍でのボランティア・市民活動推進への対応などを優先するなかで、調査の集計および報告が大変遅くなってしまったことに謹んでお詫びを申し上げたい。

大学の講義やボランティアセンター等支援部署におけるプログラムも中止やオンラインへの切り替えを余儀なくされ、キャンパスや活動先の地域で人と人とがふれ合うことが困難になるなか、大学にとっても地域にとってもあらためてつながりの大切さが見直され、必要性が高まっている。また、困難な状況であるがゆえに「何かしたい」と発意する学生が限られた状況下のボランティアプログラムへ多数応募したり、生活の厳しい学生自身が助け合うためのボランティア活動も新たに生まれている。学生の気づきや想いがボランティア活動への参加につながり、そのつながりを学生の大切な生活と学びとして大学が支える基盤づくりへの取組みがコロナ後にかけてより高まっていくことを願いたい。

調査を振り返ると、対象とした全国の大学・短期大学の半数以上、6割近くから回答をいただき、そのうち他業務とも兼務担当する場合も含め、ボランティア活動支援を担当する部署があると回答を得た大学は8割近くに上った。このうち多くの大学から大学名・ボランティア推進担当部署を掲載可との回答もいただいた。また、担当する部署を設置していないと回答したうち86の大学では将来的な設置の検討や学生の自主的な動きなどの可能性があることもわかった。ご回答をいただいた各大学にあらためてお礼申し上げるとともに、社会福祉協議会などが運営する地域のボランティア・市民活動センターや、ボランティアグループ、NPO・NGOなどとの連携・協働により、大学でのボランティア活動支援が一層広がり、深まるよう引き続き機会づくりをすすめていきたい。

一方で、ボランティア活動支援を担当する部署があると回答を得た8割の大学の内訳は、6割379大学が他業務と兼務する担当、2割127大学がボランティア活動を専門に担当する部署であり、他業務と兼務する担当が多数のため、ボランティア支援実態を聞くC票の集計においては、このような割合による傾向がみられる。クロス集計により専門部署と兼務部署における回答に有意差が明らかになったが、ボランティア活動支援を活発にし質を高める取組みの状況を十分に明らかにするまでには至らなかった。今後は、大学ボランティアセンター等ボランティア活動を専門に担当する部署のみの分析を行い、歴史と特徴的な取組み、経験の蓄積や支援の深化について組織体制の状況とともに事例として調査したい。また、今回の調査を端緒として、大学生のつながりや学びの機会としてのプログラム提供の可能性について、海外の動向なども参考にしながら大学のボランティア活動支援関係者のみなさんと一緒に研究できればと考えている。

本調査を行うきっかけと、調査の内容、具体的な質問項目については、大学ボランティアセンターのコーディネーターのみなさんにご協力いただいた。心からお礼を申し上げたい。

東京ボランティア・市民活動センター

大学ボランティアに関する全国実態調査
【調査票A】

東京ボランティア・市民活動センター

1. 貴学には、学外からのボランティア活動に関する協力依頼等に対応したり、学生に対し、ボランティア情報の提供・ボランティア活動の相談等を担当する部署がありますか？

当てはまるところ一つに○印をご記入ください。		○印記入欄
①	ボランティア活動を専門に担当する部署がある (ボランティアセンター、ボランティア室、ボランティアビューロー、サービスラーニングセンター、地域連携センター等) →この回答に対応する部署名を2. にご記入ください。	
②	他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある (学生部、教務部、宗教部等) →この回答に対応する部署名を2. にご記入ください。	
③	その他 →この回答に対応する部署名を2. にご記入ください。	
④	上記に対応する部署はない	

2. 下記にご記入をお願いいたします。

大学名	
ボランティア担当部署名	※正式名称をお願いいたします。
電話番号	() —
FAX番号	() —
(ご回答者名)	

設問1で①②③とお答えがあったボランティア活動を担当する部署がある大学・短期大学を調査結果に掲載予定です。統計には、各校の回答内容、ご回答者名は公表いたしません。

掲載不可の場合に○	
-----------	--

3. 設問1で、②・③・④とお答えいただいた方

今後、ボランティアセンター等の設立を検討されていますか？

当てはまるところ一つに○印をご記入ください		○印記入欄
①	具体的に、設立に向けて検討している	
②	まだ具体的ではないが、将来的な設置を含めて検討している	
③	設立は検討していない、または、設立しない	
④	大学側は検討していないが、学生側に自主的な動きがある	

設問1で、①・②・③とお答えいただいた方

→お手数ですが、「調査票B」へお進みください。

設問1で、④とお答えいただいた方

→調査はこれで終了です。調査へのご協力ありがとうございました。

大学ボランティアに関する全国実態調査
【調査票B】

東京ボランティア・市民活動センター

1. 「調査票A」にて回答くださった担当部署の業務内容は、どのようなものですか？

各項目について「行っている」「行っていない」「検討中」のいずれか一つに、○をつけてください。

「検討中」とは、現在は行っていないが将来的に実施予定である、実施を検討している状態のことを指します。

大学名:		1つだけ○を		
		行っている	行っていない	検討中
①	情報収集提供活動 ボランティア募集情報や活動の成果を高めるための学習情報などを多様なツールを活用して提供する			
②	アドバイザー活動 ボランティア活動希望者やボランティア依頼者への相談・助言を行う			
③	マッチング活動 ボランティア活動を希望する学生のニーズと依頼者のニーズを的確に把握し、よりよい需給調整によって学生の力を社会に還元させる			
④	学習支援活動 ボランティア活動をはじめるために必要な基礎的講座、活動を高めるための技術や組織運営のためのマネジメント・トレーニングなどを企画し提供する			
⑤	プログラム開発・運営活動 ボランティア活動を組み込んだ実践活動プログラムを開発し、体験を通じた学びを提供する(学生スタッフの企画も含む。センターが実施している正課の授業とは関連しない事業)			
⑥	資源提供活動 学生のために利用しやすい拠点や備品、機材、助成金などを提供する			
⑦	調査研究活動 学生のボランティア活動の実態や社会のニーズなどを調査し、その動向を分析して、事業に活用したり、社会に提言したりする			
⑧	広報・認知度アップ活動 多様なツールを活用して、ボランティアセンターの存在や事業内容を伝える			
⑨	ネットワーキング活動 活動領域を同じくする学生や団体、地域の団体、他大学の団体等との交流、学内の関係機関との連携、相互学習・協力を促進し、その成果を個々の学生の活動の発展に寄与する			
⑩	一般啓発活動 ボランティア活動等に特に関心のない学生に対して、関心をもってもらえるような講演会やイベントなどを実施する			
⑪	基盤強化活動 センターの活動を活性化させるために必要な寄付金や、学内・外の助成金などに応募したり、経営主体に働きかける			
⑫	授業支援活動 大学での福祉、ボランティア活動、サービスマーケティングなどの授業実施に際して、情報提供したり、講義の際に支援したりする			
⑬	災害支援活動 大学の近辺または国内の遠隔地、海外で発生した災害に関する救助、復旧、復興、生活支援(精神的支援を含む)などに対して、物的、人的、情動的支援を行う活動			
⑭	その他(内容) _____			

調査はこれで終了です。調査へのご協力ありがとうございました。

大学ボランティアに関する全国実態調査

【調査票C】

東京ボランティア・市民活動センター

【フェースシート】

大学名														
キャンパス名 (あれば)														
ボランティア 部署・センター名														
ご回答者名														
ご回答者の役職														
電話	(		)		—									
FAX	(		)		—									
E-mail														
Webサイト														
設立年	年		月											
開室曜日・時間 (曜日はいずれかに○)		月		火		水		木		金		土		日
	時		分～		時		分							

※本調査の設問中、「大学ボランティアセンター」及び「センター」と表記のあるものについては、各大学の状況に応じて「ボランティア担当部署」と読み替えてご回答ください。

1. 情報収集提供活動の実施状況についておたずねします。

※情報収集提供活動：ボランティア募集情報や活動の成果を高めるための学習情報などを、多様なツールを活用して提供する活動

(1) 地域から寄せられるボランティア募集情報の提供手段について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 送られてきた（持ち込まれた）チラシをそのまま掲示板やラックに掲示したり、ファイリングして設置する	
② 送られてきた（持ち込まれた）チラシの情報を規定のフォームに当てはめてフォームを掲示板に掲示	
③ ボランティア依頼者に規定のフォームに記入してもらい、そのフォームを掲示板に掲示	
④ ホームページや学生ポータルサイト等に掲載	
⑤ メールで送信（メールマガジン、メーリングリスト等）	
⑥ SNS（LINE、Facebook、Twitter、ブログなど）で配信	
⑦ 自組織発行の機関誌・情報誌等に掲載	
⑧ ボランティア説明会等のイベントでの情報提供	
⑨ その他（ ）	

(2) ボランティア募集情報の収集方法について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 学外から送られてくる（持ち込まれる）	
② 学内の教職員や学生が持ってくる	
③ スタッフが自ら検索したり、連絡、訪問したりするなど開拓して集めている	
④ 地域の支援機関（ボランティアセンター等）と情報を共有している	
⑤ その他（ ）	

(3) ボランティア募集情報の受付基準、掲載基準について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① センターに登録している施設・団体の情報のみを受け付けている	
② 登録制度はとっていないが、センターで定めた規定をもっている	
③ 登録制度や規定は持っていないが、募集の際には、来室や電話等で必ずやりとりした上で、受け付けている	
④ 規定はもっていないが、地域の支援機関（ボランティアセンター等）に問い合わせ判断している	
⑤ 規定はもっていないが、都道府県・市町村等の後援がある活動については受け付けている	
⑥ 規定はもっていないが、本学の学生が関わっている活動については受け付けている	
⑦ 規定はもっていないが、本学の教職員からの紹介がある活動については受け付けている	
⑧ 規定はもっていないが、担当者・責任者の判断で受け付けている	
⑨ 特に基準はなく、すべて受け付けている	

(4) 下記の3つのボランティア募集情報についての受入状況について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 企業等の営利団体からのボランティア依頼にも対応している	
② 個人（例：障がい者当事者や家族など）からのボランティア依頼にも対応している	
③ 有償の活動（交通費・食費等の実費を除く）にも対応している	

2. アドバイザリー活動の実施状況についておたずねします。

※アドバイザリー活動：ボランティア活動希望者やボランティア依頼者への相談・助言を行う活動

(1) アドバイザリー活動の実施状況について、いずれか 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 行っている → 下記（2）へお進みください。	
② 行っていない → 3. マッチング活動へお進みください。	

(2) 相談・対応談記録の実施状況について、該当するもの 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 記録をつけていない	
② 記録をつけているが、特に活用できていない	
③ 記録をもとに分析やまとめを行い、発信している	
④ 記録をもとに分析やまとめを行い、発信し、かつ事業展開に活かしている	

(3) 相談ケースの検討会の実施状況について、該当するもの 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 開催していない	
② ケース検討会ではないが、随時、話をしている	
③ 定例会議の一部の時間を利用してケース検討を行っている	
④ 内部でケース検討会を随時行っている	
⑤ 内部でケース検討会を定期的に行っている	
⑥ 外部の専門家等の参加を得て、ケース検討会を定期的を開催している	

3. マッチング活動の実施状況についておたずねします。

※マッチング活動：ボランティア活動を希望する学生のニーズと依頼者のニーズを的確に掌握し、よりよい需給調整によって学生の力を社会に還元させる活動

(1) マッチングを目的とした、学生のボランティア登録について、該当するもの 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っている（登録制度を設けている）	
② マッチングを目的とした、学生のボランティア登録を行っていない（登録制度を設けていない）	
③ 現在は行っていないが、検討中である	

(2) 実施状況について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 掲示板等で情報を見た学生本人が希望の活動先へ直接連絡する	
② 掲示板等で情報を見た学生の申し出により、センタースタッフが受入先に連絡する	
③ 活動を行いたい学生の話聴いてニーズにあった活動先の紹介はするが、その後の連絡等は学生に任せる	
④ 活動を行いたい学生のニーズと、ボランティアを受け入れたい人や団体・施設のニーズを把握し、センタースタッフが両者をつなぐコーディネートを行う	

4. 学習支援活動の実施状況についておたずねします。

※学習支援活動：ボランティア活動をはじめるために必要な基礎的講座、活動を高めるための技術や組織運営のためのマネージメント・トレーニングなどを企画し提供する活動

(1) 学習支援活動の実施状況について該当するものすべてに○をつけてください。なお、大学ボランティアセンター学生スタッフに対するサポート活動は除きます。

○印記入欄

① 啓発、きっかけづくりのための講座、学習会	
② 活動スタートにあたっての知識やスキルを学ぶ講座、学習会	
③ スキルアップや継続のための講座、学習会	
④ 学内ボランティア団体等向けの組織運営のための講座、学習会	

5. プログラム開発・運営活動

※プログラム開発・運営活動：ボランティア活動を組み込んだ実践活動プログラムを開発し、体験を通じた学びを提供する活動（学生スタッフの企画も含む。センターが実施している正課の授業とは関連しない事業）

(1) ボランティア活動を含んだプログラムの実施状況について、いずれか 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 実施している → 下記 (2) へお進みください。	
② 実施していない → 6. 資源提供活動の実施状況へお進みください。	

(2) 実施しているプログラムのなかに、海外での活動はありますか。いずれか 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 海外での活動を実施している	
② 海外での活動を実施していない	

(3) 貴センターが実施しているプログラムのうち、特徴的なものについて、プログラム名を正式名で 2 つご記入ください。国内・海外等活動場所は問いません。

プログラム 1	
プログラム 2	

(4) 上記(3)のプログラムの「位置づけ」「事前事後学習の有無」「活動期間」をご記入ください。

	事前事後学習の有無 (どちらか一方に○を)		活動期間 記入例：○日間、○か月
	ある	ない	
プログラム 1			
プログラム 2			

(5) プログラムを実施するにあたっての、受入先との協定書、委託仕様書、覚書や取り決めなどの書類の有無について、いずれかに○をつけてください。

○印記入欄

① ある	
② ない	

6. 資源提供活動の実施状況についておたずねします。

※資源提供活動：学生のために利用しやすい拠点や備品、機材、助成金などを提供する活動

(1) 資源提供活動の実施状況について、下記それぞれの対象者にあてはまるものすべてに○をつけてください。「Cその他」についてはご記入をお願いします。なお、大学ボランティアセンター学生スタッフへの提供は除きます。

		A 学内の登録団体 に対して提供	B 本学の学生なら だれでも提供	C その他
場 所	① ミーティングスペース			
	② 作業スペース			
	③ 印刷スペース（印刷機、紙折機など）			
	④ ロッカー等の荷物置き場			
も の	⑤ センター内に設置されたパソコン			
	⑥ 図書、雑誌、資料			
	⑦ 文房具			
	⑧ 機材の貸出 (プロジェクター、デジタルカメラ、パソコンなど)			
お 金	⑨ 学内の助成金			
	⑩ 学外の助成金情報			
	⑪ ボランティア保険の保険料助成			
	⑫ その他 ()			

7. 調査研究活動の実施状況について、おたずねします。

※調査研究活動：学生のボランティア活動の実態や社会のニーズなどを調査し、その動向を分析して、事業に活用したり、社会に提言する活動

（１）調査研究活動の実施状況について、定期的に実施している、結果を公表しているものすべてに○をつけるください。

○印記入欄 ○印記入欄

	実施 しているか	結果を公表 しているか
① 学生のボランティア活動実態調査		
② 学生のボランティア意識調査		
③ 学内サークルの実態やニーズ調査・把握		
④ 教職員のボランティア活動実態調査		
⑤ 教職員のボランティア意識調査		
⑥ 地域の団体等のニーズ調査		
⑦ マッチングした学生への追跡調査		
⑧ マッチングした団体への追跡調査		
⑨ その他（ ）		

8. 広報・認知度アップ活動の実施状況について、おたずねします。

※広報・認知度アップ活動：多様なツールを活用して、ボランティアセンターの存在や事業内容を伝える活動

（１）広報・認知度アップ活動の実施状況について、該当するものすべてに○をつけるください。また、①・②については、カッコ内に数字をご記入ください。）

○印記入欄

① 通信（ニュースレター等）の発行→ 年（ ）回（ ）部発行	
② 年次報告書の発行 → （ ）部発行	
③ Webサイトの運営	
④ マスメディアへの露出・プレスリリース（新聞、テレビ、ラジオなど）	
⑤ 地域の機関・行政などの広報誌、Webなどへの掲載	
⑥ 学内のメディア（新聞、放送、全学Web）への掲載	
⑦ 教職員へのメールリストへの発信	
⑧ 全学生用メールリストへの発信	
⑨ SNS（LINE、Facebook、Twitterなど）による発信	
⑩ その他（ ）	

9. ネットワーキング活動の実施状況についておたずねします。

※ネットワーキング活動：活動領域を同じくする学生や団体、地域の団体、他大学の団体等との交流、学内の関係機関との連携、相互学習・協力を促進し、その成果を個々の学生の活動の発展に寄与する活動

(1) 学内のボランティアサークル、団体との関わりについて、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 情報交換や課題などを話し合える関係がある	
② 学内外での講座、セミナー、プログラム等の共同企画・運営を行っている	
③ まったく関わりがない	
④ その他 ()	

(2) 学内の他部署(社会連携センター等)との関わりについて、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 情報交換や課題などを話し合える関係がある	
② 学内外での講座、セミナー、プログラム等の共同企画・運営を行っている	
③ まったく関わりがない	
④ その他 ()	

(3) 学内の他団体・組織(大学生協・同窓会等)との関わりについて、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 情報交換や課題などを話し合える関係がある	
② 学内外での講座、セミナー、プログラム等の共同企画・運営を行っている	
③ まったく関わりがない	
④ その他 ()	

(4) 他大学のボランティアセンターとの関わりについて、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 情報交換や課題などを話し合える関係がある	
② 学内外での講座、セミナー、プログラム等の共同企画・運営を行っている	
③ まったく関わりがない	
④ その他 ()	

(5) 地域の支援機関(社会福祉協議会、ボランティアセンター等)との関わりについて、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① ボランティア情報や団体について互いに問い合わせできる関係がある	
② 講座やセミナー、フェスティバル等のイベントや正課の授業に対して、ゲストや講師として協力を得ている	
③ 講座やセミナー、フェスティバル等の共同企画・運営をおこなっている	
④ 正課の授業の共同企画・運営をおこなっている	
⑤ まったく関わりがない	
⑥ その他 ()	

(6) 地域の組織（ボランティアセンター等の支援機関以外）との関わりについて、下記それぞれの対象者別に該当するものすべてに○をつけてください。

	地縁団体	地元の商店	企業	小中高校	施設・NPO・NGO	行政
① 学生ボランティアを受け入れてもらっている、送り出している						
② 会合や委員会等への教職員派遣						
③ イベント等の協力や共同開催						
④ 授業やプログラム実施において、講師、ゲストスピーカーとして協力を得ている						
⑤ お金や物品の提供						

10. 一般啓発活動の実施状況についておたずねします。

※一般啓発活動：ボランティア活動等に特に関心のない学生に対して、関心をもってもらえるような講演会やイベントなどを実施する活動

(1) 学生に対して関心をもってもらえるために行っているもので、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 講演会	
② イベント	
③ ワンデープログラムなどのプログラム	
④ 冊子の配布	
⑤ オリエンテーション	
⑥ カフェ	
⑦ オープンキャンパスでのPR	
⑧ その他 ()	

11. 基盤強化活動

※基盤強化活動：センターの活動を活性化させるために必要な寄付金や、学内・外の助成金などに応募したり、経営主体に働きかける活動

(1) 特に行っている場合、具体的な活動内容を記入してください。

12. 授業支援活動

※授業支援活動：大学での福祉・ボランティア・サービスマーケティングなどの授業実施に際して、情報提供したり、講義の際に支援したりする活動

(1) センターとして開講している授業はありますか、いずれか1つに○をつけてください。

○印記入欄

① ある 授業名→ ()	
② ない	

(2) センターとして正課の授業の補助や分担をしている授業はありますか、いずれか 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

ある	
① 授業名→ ()	
センターとの関わり→ ()	
② ない	

1 3. 災害支援活動

※災害支援活動：大学の近辺または国内の遠隔地、海外で発生した災害に関する救助、復旧、復興、生活支援（精神的支援を含む）などに対して、物的、人的、情動的支援を行う活動

(1) 自然災害におけるボランティアの送り出しについて、いずれか 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 実施している	→ 下記 (2) へお進みください。	
② 実施していない	→ 1 4. 【事業面】で課題へお進みください。	

(2) 貴センターが実施しているプログラムのうち、該当するものをご記入ください。

センターと被災地の連携による直接支援	
支援機関（地域のボランティアセンター等）を通じた間接支援	

1 4. 【事業面】で課題に思うことがあればご記入ください。

--

【運営面】

※複数のキャンパスにボランティアセンターがある場合は、下記設問の1と2は、いずれか1つのキャンパスのご担当者が代表してご回答ください。3以降は、キャンパスごとにご回答ください。

1. 「スタッフ体制：教職員」についておたずねします。

(1) これまでおながいした事業面の設問の事業執行や予算管理等の事務運営に直接携わっている人の「職種」「雇用形態」「業務割合」の3点について、それぞれ一人ひとりの状況をご記入ください。

	職種 (いずれかに○)				雇用形態 (いずれかに○)						専任か兼任か (いずれかに○)	
	教員	事務職員	専門職員 (コーディネーター)		無期正規 雇用	有期正規 雇用	嘱託契約	派遣	アルバイト		専任	兼任
1人目				→						→		
2人目				→						→		
3人目				→						→		
4人目				→						→		
5人目				→						→		
6人目				→						→		
7人目				→						→		
8人目				→						→		
9人目				→						→		
10人目				→						→		

(2) 上記(1)で「専門職員（コーディネーター）」に該当する方の採用着任経緯について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 一般公募	
② 学内の教職員の推薦による公募	
③ 学内の教職員からの紹介（募集を公開していない）	
④ その他 （ ）	

(3) 上記担当者への研修、サポート体制について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

① 学内で研修を行っている	
② 学外の研修・セミナーへの参加を奨励している	
③ その他 （ ）	

2. 組織体制についておたずねします。

(1) 貴センターの設立経緯について、該当するもの 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 大学当局が提案し、設立した	
② 一部の教職員や学生が設立に向けての動きをつくり、大学当局が認め、大学組織として設立した	
③ その他 ()	

(2) 設立の際に、訪問や資料収集など参考にした大学について、該当するもの 1 つに○をつけてください。②は、カッコ内にご記入ください。

○印記入欄

① 設立にあたって参考にした大学はない	
② 設立にあたって参考にした大学がある →大学名を教えてください。(主な大学を2つ) () ()	

(3) 学内の組織・機構における貴センターの位置づけについて、該当するもの 1 つに○をつけてください。

○印記入欄

① 学長直結型	
② 学生部・学生課系	
③ 教務部・教学課系	
④ 総務部系	
⑤ 宗教部系	
⑥ 特定の学部・学科系	
⑦ その他 ()	

(4) ボランティアセンターとしての意志決定を行う機関(運営委員会等)についておたずねします。

i. 委員構成について、該当する人数をご記入ください。0名は「0」をご記入ください。

① 教員		名
② 事務職員		名
③ 専門職員(コーディネーター)		名
④ 学生		名
⑤ 学外のボランティア受け入れ団体の方		名
⑥ 学外の中間支援組織の方		名
⑦ 地域の町内会・自治会の方		名
⑧ 企業の方		名
⑨ 行政の方		名
⑩ 学外の専門家		名

ii. 開催回数について、右欄にご記入ください。

年 回程度

3. 「スタッフ体制：学生スタッフ」についておたずねします。

※学生スタッフ：大学ボランティアセンターの事業や運営に継続的に参画している学生

(1) 学生スタッフの有無について、いずれか一方に○をつけてください。なお、②については、カッコ内に人数をご記入ください。

○印記入欄

① 学生スタッフはいない	→ 4. ボランティアセンターの場所についてへお進みください。	
② 学生スタッフがいる	→ 常時人数 () 名程度 → 下記 (2) へお進みください。	

(2) 加入時期について、いずれか一方に○をつけてください。

○印記入欄

① いつでも加入できる	
② 定まった募集期間がある	

(3) 加入条件・加入方法について、「必須」「できれば」「問わない」のいずれか一つに○をつけてください。

	必須	できれば	問わない
① 志望理由書を提出する			
② オリエンテーション（事前説明）を受ける			
③ 面接を受ける			
④ 研修を受ける			
⑤ 学年を限定している			
⑥ ボランティア経験の有無を条件に入れている			

(4) 学生スタッフへの活動環境整備やサポート内容について、該当するものすべてに○をつけてください。

○印記入欄

場 所	① ミーティングスペース	
	② 作業スペース	
	③ 印刷スペース（印刷機、紙折機など）	
	④ ロッカー等の荷物置き場	
も の	⑤ センター内に設置されたパソコン	
	⑥ 図書、雑誌、資料	
	⑦ 文房具	
	⑧ 機材の貸出（プロジェクター、デジタルカメラ、パソコンなど）	
お 金	⑨ 活動経費	
	⑩ 学外の研修等の参加費（全額／一部は問わない）	
	⑪ 交通費（学外の研修や受入先訪問、調査など）（全額／一部は問わない）	
ス キ ル ・ 知 識	⑫ 学内での研修の場	
	⑬ 活動上の相談・助言	
	⑭ その他 ()	

4. ボランティアセンターの場所についておたずねします。

(1) ボランティアセンターの場所について、いずれか一方に○をつけてください。②については、共用している部署名をご記入ください。

○印記入欄

① 専用スペース	
② 他部署との共用スペース →どんな部署との共用ですか？（ ）	

5. 【運営面】で課題に思うことがあればご記入ください。

--

6. 今後、貴センターの事業・運営をより良くするために、他大学のセンターに聞いてみたいこと・相談したいことがあればご記入ください。

--

調査はこれで終了です。調査へのご協力ありがとうございました。

大学ボランティア活動を担当する部署がある大学・短期大学リスト

1 ボランティア活動を専門に担当する部署がある大学・短大

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
名寄市立大学	名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター	01654-8-7661	01654-2-0070
北翔大学	地域連携センター	011-387-3939	011-387-3746
国立大学法人弘前大学	弘前大学ボランティアセンター	0172-39-3268	0172-34-5251
青森公立大学	地域連携センター	017-764-1589	017-764-1593
富士大学	福祉・ボランティア研究センター	0198-23-6221	0198-23-5818
東北大学	高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター	022-195-4948	
東北学院大学	学長室地域共生推進課	022-264-6521	022-264-6522
東北福祉大学	学生生活支援センター ボランティア支援課	022-717-3321	022-207-1804
東北文化学園大学	大学事務局 地域連携センター	022-233-3451	022-233-6298
宮城学院女子大学	リエゾン・アクション・センター	022-279-1340	022-279-5876
茨城キリスト教大学	地域・国際交流センター	0294-52-3215 (代)	0294-53-9403
国際医療福祉大学	IUHWボランティアセンター（大田原キャンパス）	0287-24-3719	0287-24-3627
高崎経済大学	学生ボランティア活動支援室	027-329-6714	027-344-7509
共愛学園前橋国際大学	地域共生研究センター	027-266-9060	027-266-7576
高崎健康福祉大学	ボランティア・市民活動支援センター	027-352-1108	027-352-1187
十文字学園女子大学	ボランティアセンター	048-477-0555	048-489-1273
聖学院大学	ボランティア活動支援センター	048-780-1705	048-781-0094
西武文理大学	ヒューマンサービスセンター	04-2952-9871	04-2954-7733
川村学園女子大学	川村学園女子大学ボランティアセンター	04-7183-8143	04-7183-8143
神田外語大学	ボランティアセンター	043-273-1337	043-273-5461
敬愛大学	地域連携センター	043-251-6363	043-251-6407
国際武道大学	社会活動支援課	0470-73-4111	0470-73-4302
千葉経済大学	千葉経済学園ボランティアセンター	043-253-9115	043-253-9901
千葉商科大学		047-320-8667	047-373-9958
東京基督教大学	東京キリスト教学園 ボランティアセンター	0476-46-1131	0476-46-1405
明海大学	学生支援課（学生支援担当）	047-350-4994	047-355-5117
東京外国語大学	ボランティア活動スペース	042-330-5428	
東京都立大学	ボランティアセンター	042-677-1354	042-677-1812
青山学院大学	ボランティアセンター	03-3409-6154	03-3409-6028
桜美林大学	桜美林大学サービスラーニングセンター	042-797-9217	042-797-9218
上智大学	上智大学ボランティア・ビューロー	03-3238-3525	03-3238-4131
昭和女子大学	コミュニティサービスラーニングセンター	03-3411-5243	03-3411-5171
成蹊大学	ボランティア支援センター	0422-37-3448	0422-37-3449
聖心女子大学	マグダレナ・ソフィアセンター ボランティアルーム	03-3407-5853	03-3407-5687
中央大学	中央大学ボランティアセンター	042-674-3487	042-674-3469
東洋大学	ボランティア支援室	03-3945-7927	03-3945-7601
日本社会事業大学	ボランティアセンター	042-496-3059	042-496-3199
日本体育大学	スポーツプロモーション・オフィス	03-5706-0911	03-5706-0981

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
法政大学	学生センターボランティアセンター事務課	03-3264-9480	03-3264-9598
明治大学	ボランティアセンター	03-3296-4221	03-3296-4363
明治学院大学	ボランティアセンター	03-5421-5131	03-5421-5144
明星大学	ボランティアセンター	042-591-6231	042-591-6261
立教大学	ボランティアセンター（社会連携教育課）	03-3985-4651	03-3985-4657
立正大学	ボランティア活動推進センター	048-539-1386	048-539-1386
ルーテル学院大学	コミュニティ人材養成センター	0422-31-7920	0422-33-6405
早稲田大学	記念ボランティアセンター	03-3203-4192	03-3203-6306
横浜市立大学	学生支援課 学生担当 ボランティア支援室	045-787-2444	045-787-2093
田園調布学園大学	地域交流センター	044-966-2780	044-966-4345
フェリス学院大学	コーディネーター	045-812-8462	045-812-8467
上越教育大学	学校実習・ボランティア支援室	025-521-3624	025-521-3255
敬和学園大学	ボランティアセンター係	0254-26-3664	0254-26-3740
新潟医療福祉大学	学生ボランティアセンター／地域連携推進センター	025-257-4455	025-257-4456
新潟青陵大学	新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンター	025-266-0189	025-230-7751
北陸大学	地域連携センター	076-229-6111	076-229-6112
健康科学大学	ボランティアセンター	0555-83-5224	0555-83-5100
静岡英和学院大学	ボランティアセンター	054-264-9484	054-261-4238
静岡福祉大学	地域交流センター	054-623-7013	054-623-9357
愛知淑徳大学	コミュニティ・コラボレーションセンター	052-781-1151	052-783-1549
愛知東邦大学	地域連携センター	052-782-1241	052-782-1943
京都産業大学	ボランティアセンター	075-705-1530	075-705-3191
同志社大学	学生支援センターボランティア支援室	075-251-3236	075-251-3099
立命館大学	サービスラーニングセンター	075-465-1952	075-465-1982
龍谷大学	ボランティア・NPO活動センター	075-645-2047	075-645-2064
大阪教育大学	大阪教育大学ボランティアデスク	072-978-3310	072-978-3980
追手門学院大学	学生支援課	072-641-9636	072-643-9785
関西大学	学生サービス事務局 ボランティア活動支援グループ	06-6368-1229	06-6330-3703
梅花女子大学	ボランティアルーム	072-643-8328	072-643-8643
神戸市外国語大学	研究所グループ ボランティアコーナー	078-794-8156	078-794-8156
関西学院大学	ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室	0798-54-6061	0798-54-6161
甲南大学	地域連携センター事務室	078-435-2276	078-435-2302
甲南女子大学	対外協力センター 社会貢献課 ボランティアセンター	078-413-3811	078-413-5217
神戸学院大学	ボランティア活動支援室	078-974-2413	078-974-2435
神戸親和女子大学	地域連携センター	078-591-2935	078-591-5243
神戸常盤大学	神戸常盤ボランティアセンター	078-611-1851	078-643-4361
奈良教育大学	次世代教員養成センター ボランティアサポートオフィス	0742-27-9366	0742-27-9366
畿央大学	ボランティアセンター	0745-54-1601	0745-54-1600
公立大学法人島根県立大学	地域連携推進センター	0855-24-2396	0855-23-7352

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
新見公立大学	地域共生推進センター	0867-72-0634	0867-72-1492
岡山短期大学		086-428-2651	086-429-0323
川崎医療福祉大学	ボランティアセンター	086-464-1543	086-464-1543
山陽学園大学	ボランティア支援・地域連携推進センター	086-272-6254	086-273-3226
広島文化学園大学	社会連携センター	082-884-1001	082-884-0600
広島国際大学	学生部ボランティアセンター	0823-70-4536	0823-70-4537
広島女学院大学	広島女学院大学 総合学生支援センター 学生課 ボランティアセンター	082-228-0410	082-228-1648
国立大学法人福岡教育大学	学生支援課 ボランティア担当	0940-35-1526	0940-35-1743
北九州市立大学	地域共生教育センター	093-964-4092	093-964-4088
福岡県立大学	社会貢献・ボランティア支援センター	0947-42-1305	0947-42-6171
西南学院大学	総務部キリスト教活動支援課ボランティアセンター	092-823-3662	092-823-3335
福岡歯科大学	福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学地 域連携センター	092-801-0419	092-801-4909
西九州大学	あすなろうセンター	0952-37-9282	0952-52-4194
長崎大学	キャリアセンター・やってみゅーでスク	095-819-2870	095-819-2871
熊本県立大学	学生支援課	096-383-7896	096-383-2364
九州ルーテル学院大学	ボランティアセンター	096-343-1638	096-343-1638
熊本学園大学	ボランティアセンター	096-347-5161	096-362-0209
尚綱大学	尚綱ボランティア支援センター	096-277-1072	096-363-2975
鹿児島大学	ボランティア支援センター	099-285-3147	099-285-3144
志学館大学	社会連携センター 産学官コミュニティ連携部門	099-812-8501	
沖縄県立看護大学	地域協働連携センター 運営委員会	098-833-8800	098-833-5133
桜の聖母短期大学	ボランティアセンター	024-535-2531	024-534-4571
愛国学園短期大学	ボランティアセンター	03-3658-4111	03-5693-4566
帝京短期大学	地域貢献推進室	03-3377-9212	03-3377-9212
新潟青陵大学短期大学部	新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティ アセンター	025-266-0189	025-230-7751
新潟中央短期大学	地域交流委員会	0256-52-2120	0256-53-2444
静岡英和学院大学短期大学部	ボランティアセンター	054-264-9484	054-261-4238
常葉大学	社会貢献・ボランティアセンター（HUVOC）	053-428-3532	053-428-2900
高田短期大学	ボランティア活動支援室	059-253-3205	059-253-3205
神戸常盤大学短期大学部	神戸常盤ボランティアセンター	078-611-1851	078-643-4361
湊川短期大学	地域連携センター	079-568-1858	
山陽学園短期大学	ボランティア支援・地域連携推進センター	086-272-6254	086-273-3226
広島文化学園短期大学	社会連携センター	082-239-5171	082-239-2863
山陽女子短期大学	ボランティア委員会	0829-32-0909	0829-32-0981
尚綱大学短期大学部	尚綱ボランティア支援センター	096-277-1072	096-363-2975

2 他業務と共にボランティア活動を担当する部署がある大学・短大

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
小樽商科大学	学生支援課 キャリア支援室	0134-27-5249	0134-27-5264
北見工業大学	学務課学生支援室学生支援担当	0157-26-9183	0157-26-9185
北海道大学	学務部学生支援課学生総合担当	011-706-7460	011-737-5173
北海道教育大学	学務部学生課	011-778-0269	011-778-0634
釧路公立大学	学生課 学生担当	0154-37-5091	0154-37-3287
札幌大学	交流推進部 国際・地域交流課	011-852-9138	011-856-8268
札幌国際大学	学生課	011-885-3365	011-885-5554
天使大学	学務課（学生担当）	011-792-9204	011-741-1077
藤女子大学	学生課	011-736-5720	011-736-5565
北海道科学大学	学務部 学生課	011-688-2379	011-676-8655
稚内北星学園大学	学生支援課	0162-32-7511	0162-32-7500
日本医療大学	学生・教員サポートグループ	011-885-7711	011-885-5757
北海道千歳リハビリテーション大学	学務課	0123-28-5331	0123-28-5335
青森県立保健大学	地域連携推進課	017-765-4085	017-765-2021
青森大学	学生課	017-738-2001	017-738-0143
青森中央学院大学	学習支援センター	017-728-8169	017-728-8175
東北女子大学	学生課	0172-33-2289	0172-33-2486
八戸工業大学	学務部学生課	0178-25-8027	0178-25-3827
弘前医療福祉大学	地域貢献室	0172-27-1001	0172-27-1023
岩手大学	学務部学生支援課	019-621-6056	019-621-6066
岩手保健医療大学	学務課	019-606-7030	019-606-7031
尚絅学院大学	学生生活課	022-381-3308	022-381-3325
仙台大学	学生支援センター	0224-55-1207	0224-55-1248
仙台白百合女子大学	学生課	022-374-5029	022-375-4343
東北工業大学	教務学生課	022-305-3124	022-305-3127
秋田県立大学	教育本部 学生チーム	018-872-1500	018-872-1670
秋田公立美術大学	事務局学生課	018-888-8105	018-888-8101
山形県立米沢栄養大学	教務学 生課	0238-22-7340	0238-22-7333
東北公益文科大学	地域共創センター	0234-41-1115	0234-31-2082
福島大学	学生・留学生課	024-548-8054	024-548-7681
東日本国際大学	ボランティアセンター	0246-35-0001	0246-35-0406
福島学院大学	学生支援課	024-553-5811	024-553-3222
筑波大学	つくばアクションプロジェクト推進室	029-853-2269	029-853-2269
筑波技術大学	聴覚障害系支援課学生係／視覚障害系支援課学生係	029-858-9326・9327／ 029-858-9506・9513	029-858-9335 ／9517
茨城県立医療大学	教務課 学生係	029-840-2839	029-840-2301
つくば国際大学	学生課	029-826-6000	029-826-6937
常磐大学	地域連携センター	029-232-2652	029-232-2861
流通経済大学	学生生活課	029-760-1157	029-764-9064

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
宇都宮大学	学務部学生支援課	028-649-5072	028-649-5115
白鷗大学	キャリアサポートセンター	0285-22-9722	0285-22-9721
群馬大学	学務部学生支援課	027-220-7138	027-220-7620
群馬県立県民健康科学大学	学生図書係	027-235-1211	027-235-2501
群馬県立女子大学	事務局 学生係	0270-65-8511	0270-65-9538
群馬医療福祉大学	地域連携センター	027-253-0294	027-254-1294
群馬パース大学	学生課	027-365-3366	027-365-3367
高崎商科大学	地域連携センター	027-347-3350	027-347-3386
育英大学	学生支援課	027-352-1981	027-353-8225
埼玉大学	学務部 学生支援課 学生生活支援担当	048-858-3029	048-858-3281
埼玉県立大学	事務局 学生・就職支援担当	048-973-4116	048-973-4808
浦和大学	福祉教育センター・こどもコミュニティセンター	048-878-6000	048-878-3558
埼玉工業大学	教学部 学生課	048-585-6812	048-585-5939
日本医療科学大学	地域・社会活動センター	049-294-9000	049-294-9009
日本薬科大学		048-721-6159	048-721-6489
ものつくり大学	学生課学生支援係	048-564-3817	048-564-3201
東都医療大学	地域連携委員会	048-574-2500	048-573-3840
植草学園大学	キャリア支援課	043-233-9080	043-239-2650
千葉科学大学	学務部学生課	0479-30-4504	0479-30-4507
了徳寺大学	学生支援課	047-382-2111	047-382-2017
和洋女子大学	学生課	047-371-1123	047-371-2532
亀田医療大学	管理部学務課	04-7099-1211	04-7099-1327
電気通信大学	社会連携センター	042-443-5069	042-443-5887
東京学芸大学	学務部キャリア支援課	042-329-7184	042-329-7181
東京工業大学	学生支援課	03-5734-3012	03-5734-3675
文教大学	学生課	048-974-8811	048-974-8993
目白大学	学生部学生課	03-5996-3123	03-5996-3050
帝京平成大学	教務課 学生係	03-5843-3155	03-5843-3156
東京成徳大学	キャンパスライフ支援課	03-3908-4569	03-3908-9700
東洋学園大学	学生支援センター 学生支援課	03-3811-1787	03-3811-1417
上野学園大学	大学事務部	03-3842-1020	03-3843-7548
大妻女子大学	学生支援センター 学生支援グループ	03-5275-6071	03-3275-6098
国立音楽大学	学生支援課	042-535-9509	042-537-6291
駒澤大学	学生部 学生課 学生係	03-3418-9064	03-3418-9053
駒沢女子大学	大学短大事務部 学生支援課	042-350-7111	042-350-7112
白梅学園大学	学生部キャリアサポート課	042-346-5620	042-346-5644
成城大学	学生部 学生課	03-3482-9081	03-3482-6360
創価大学	学生部 学生課	042-691-2205	042-691-9475
高千穂大学	学務部 学生課	03-3313-0145	03-3313-9034
拓殖大学	学生部 八王子学生支援室・学生支援室（麗澤会事務局）	042-665-1449	042-665-2644
多摩美術大学	学生部学生課	042-679-5606	042-679-5639

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
津田塾大学	学生生活課	042-342-5132	042-342-5112
東京純心大学	学務課	042-692-0326	042-692-5551
東京聖栄大学	学生支援センター 学生支援・就職支援課	03-3692-0211	03-3692-0215
東京電機大学	東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）	03-5284-5140	03-5284-5391
東京未来大学	キャリアセンター / 保育・教職センター / 地域連携センター	03-5813-2525	03-5813-2529
二松學舎大学	教務部 学生支援課	03-3261-7427	03-3261-1324
日本女子体育大学	学生支援課 学生生活支援担当	03-3300-2256	033308-7244
和光大学	学生支援室	044-989-7490	044-989-7491
こども教育宝仙大学	キャリアサポートセンター	03-3365-0267	03-3365-0181
東京医療学院大学	学生課	042-373-8118	042-373-8111
大学院大学至善館	学務チーム	03-6281-9011	03-6281-9013
神奈川工科大学	学生支援本部 学生課	046-241-9394	046-242-3529
鎌倉女子大学	学生センター 学生課	0467-44-2297	0467-44-2253
関東学院大学	学生支援室	045-786-8954	045-786-9368
聖マリアンナ医科大学	教学部 教学課	044-977-8111	044-977-2770
鶴見大学	学生支援事務部学生支援課	045-580-8208	045-580-8258
横浜創英大学	学務部学生支援課	045-922-5641	045-922-5642
長岡大学	学生課	0258-39-1600	0258-33-8792
長岡造形大学	学務課	0258-21-3381	0258-21-3343
新潟国際情報大学	学務課	025-239-3111 （代表）	025-239-3690
新潟産業大学	地域連携センター 事務室	0257-24-6402	0257-22-1300
新潟薬科大学	事務部学生支援課	0250-25-5000	0250-25-5021
新潟食料農業大学	事務局 学務部 学務課	0254-28-9855	0254-28-9856
富山県立大学	事務局教務課学生係	0766-56-7500	0766-56-6182
高岡法科大学	事務局 学生課	0766-63-3388	0766-63-6410
金沢大学	学生部 学生支援課 学生相談係	076-264-5167	076-234-4057
石川県立大学	教務学生課 就職支援室	076-227-7565	076-227-7410
敦賀市立看護大学	①教務学生課 ②地域・在宅ケア研究センター ③災害・救急看護研究センター	0770-20-5500	0770-20-5548
福井県立大学	就職・生活支援課	0776-61-6000	0776-61-6012
仁愛大学	学生支援センター	0778-27-2010	0778-27-8660
山梨県立大学	学務課	055-224-5260	055-224-5386
身延山大学	学修支援室	0556-62-0107	0556-62-0727
信州大学	学務部学生支援課（学生総合支援センター）	0263-37-2134	0263-37-3313
佐久大学	学生課	0267-68-6680	0267-68-6687
岐阜大学	学生ボラネット	058-293-3037	
岐阜薬科大学	事務局 教務厚生課	058-237-3931	058-236-0004
岐阜保健大学	学事課	058-274-5001	058-274-5260
学校法人静岡理工科大学	事務局 学生事務部 学務課	0538-45-0114	0538-45-0110
浜松学院大学	キャリア支援グループ	053-450-7002	053-450-7112

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
愛知教育大学	学生・国際課 課外教育係	(0566) 26-2177, 2706	(0566) 26-2170
名古屋市立大学	事務局学生課学生支援係	052-872-5056	052-872-5044
愛知大学	名古屋学生課	052-564-6113	052-564-6213
愛知工科大学	学務部学務課	0533-95-1131	0533-68-9320
愛知工業大学	学生サービスグループ	0565-48-8121	0565-48-4858
桜花学園大学	学務部 学生課	0562-97-5306	0562-98-1162
金城学院大学	学生生活支援センター	052-798-0180	052-799-0268
修文大学	学生支援センター	0586-45-2101	0586-45-4410
椙山女学園大学	学務部学生課	052-781-6475	052-781-7030
名古屋女子大学	学生支援センター・学生生活支援部門	052-852-9736	052-852-9438
名古屋文理大学	教学部教学課/地域連携センター	0587-23-2400	0587-23-2461
日本赤十字豊田看護大学	企画・地域交流課 , 学務課	0565-36-5111	0565-37-8558
藤田医科大学	大学事務局 総務部 学生支援課	0562-93-2636	062-93-4595
名城大学	学務センター学生活動	052-838-2029	052-833-5240
三重大学	学生総合支援センター、学務部学生支援チーム	059-231-9903	059-231-9903
四日市大学	教育・学習支援部 教学課	059-365-6599	059-365-6630
四日市看護医療大学	教育推進・学生支援センター教学課	059-340-0703	059-361-1401
滋賀大学	地域連携教育推進室	0749-27-7530	0749-27-1149
滋賀県立大学	学生・就職支援課 教務課	0749-28-8200	0749-28-8470
びわこ学院大学	学生支援課	0748-35-0001	0748-23-7202
京都先端科学大学	教務学生事務局 学生センター	075-406-9115	075-406-9130
福知山公立大学	学務・学生支援グループ	0773-24-7100	0773-24-7170
京都ノートルダム女子大学	教育支援部 学生課	075-706-3740	075-706-3770
同志社女子大学	ボランティア活動支援センター	0774-65-8812	0774-65-8473
佛教大学	研究推進部 社会連携課 社会連携センター	075-493-9002	075-493-9088
京都美術工芸大学	事務局	075-525-1515	075-533-6033
京都光華女子大学	女性キャリア開発研究センター	075-325-5315	075-314-4515
国立大学法人大阪大学	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課	06-6879-7120	06-6879-7167
大阪青山大学	学生支援センター	072-724-1836	072-722-4060
大阪工業大学	学生部 学生課	06-6954-4651	06-6951-7760
大阪商業大学	学生生活課	06-6782-2297	06-6785-6156
大阪体育大学	教職支援センター	072-479-3916	072-453-8571
大阪電気通信大学	学務部学務課	072-813-7588	072-824-5656
関西福祉科学大学	学生支援センター	072-977-9574	072-977-4653
近畿大学	学生部学生課	06-4307-3063	
四天王寺大学	学生支援センター	072-956-9956	072-956-9892
摂南大学	学生部学生課	072-839-9452	072-826-5470
相愛大学	学生部・就職部 学生支援センター	06-6612-5932	06-6612-7003
羽衣国際大学	教学センター学生・学習支援グループ	072-265-7127	072-265-7005
桃山学院教育大学	学生課	072-288-6655	072-288-6656
神戸市看護大学	教務学生課	078-794-8080	078-794-8086

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
関西国際大学	渉外部 社会連携課	0794-84-3505	0794-84-3562
姫路大学	教学部教務学生課	079-247-7357	079-247-7739
神戸海星女子学院大学	学生課・キャリアセンター	078-881-7541	078-801-5190
神戸国際大学	地域交流・生涯教育センター	078-845-3621	078-845-3691
神戸松蔭女子学院大学	学生課	078-882-6134	078-882-6132
神戸女学院大学	学生生活支援センター	0798-51-8539	0798-51-8535
神戸女子大学	学生課	078-303-4706	078-303-4703
神戸薬科大学	学生部 学生課	078-441-7510	078-441-7623
園田学園女子大学	社会連携推進センター 研究支援・地域連携ユニット	06-6429-1201	06-6422-8523
宝塚大学	大学事務局梅田事務部学務課／新宿事務部学務課	06-6376-0853/ 03-3367-3411	06-6373-4829/ 03-3367-6761
奈良女子大学	学生生活課 学生生活係	0742-20-3244	0742-20-3370
奈良県立大学	教務・学生課 地域交流室（兼）	0742-93-7022	0742-93-7369
和歌山信愛大学	キャリアセンター	073-488-6228	073-488-6260
公立鳥取環境大学	学務課	0857-38-6710	0857-38-6729
島根大学	教育・学生支援部学生支援課	0852-32-9764	0852-32-6069
就実大学	学生課	086-271-8130	086-271-8131
広島大学	教学課	082-251-9720	082-251-9181
尾道市立大学	学務課学生係	0848-22-8382	0848-22-5460
広島市立大学	学生支援室 学生支援グループ	082-830-1522	082-830-1529
福山市立大学	事務局学務課	084-999-1113	
日本赤十字広島看護大学	教務学生課	082-920-2850	082-920-2801
比治山大学	学生支援室	082-229-0122	082-229-8946
広島経済大学	学務センター学生課	082-871-1003	082-871-1666
安田女子大学	教学部学習支援課	082-878-9909	082-878-9944
山口大学	学生自主活動ルーム	083-933-5074	083-933-5040
下関市立大学	学務グループ学生支援班	083-252-0289	083-252-8099
徳島文理大学	学生部学生支援課	088-602-8300	088-822-2046
愛媛県立医療技術大学	事務局教務学生G／地域交流センター	089-958-2111	089-958-2177
松山東雲女子大学	学生支援課	089-931-6211	089-934-9055
九州国際大学	学生支援室	093-671-8915	093-671-8997
九州女子大学	キャリア支援課	093-693-3087	093-693-8203
聖マリア学院大学	カトリックセンター	0942-35-7271	0942-34-9125
第一薬科大学	学生課	092-541-0161	092-553-5698
中村学園大学	学生部	092-851-2593	092-851-6514
西日本工業大学	学生支援課	0930-23-1494	0930-24-7900
保健医療経営大学	事務室	0944-67-7007	0944-63-3003
福岡国際医療福祉大学	事務局 学務課学生係	092-832-1200	092-832-1167
佐賀大学	学務部 学生生活課 課外・生活支援主担当	0952-28-8167	0952-28-8948
活水女子大学	学生生活支援課	095-820-6027	095-820-6027
長崎外国語大学	学生支援課	095-840-2002	095-840-2001

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
長崎純心大学	学生支援課（ボランティアビューロー）	095-846-0084	095-849-1694
熊本保健科学大学	学務部 学務課	096-275-2128	096-245-3126
崇城大学	学生部 学生厚生課	096-326-3408	096-326-5105
大分大学	学生支援部学生支援課	097-554-6123	097-554-7459
別府大学	学生課	0977-66-9622	0977-66-3326
立命館アジア太平洋大学		0977-78-1104	
宮崎公立大学	学生・就職支援室 学生係	0985-20-4746	0985-20-4820
宮崎県立看護大学	総務課	0985-59-7700	0985-59-7771
九州保健福祉大学	九州保健福祉大学ボランティアセンター	0982-23-5576	0982-23-5570
鹿屋体育大学	学生課 スポーツ支援係	0994-46-4890	0994-46-2516
鹿児島国際大学	学生ボランティア支援センター	099-263-0709	099-263-0538
鹿児島純心女子大学	学生支援課 学生生活係	0996-23-5311	0996-23-5030
第一工業大学	教学課 学生係	0995-45-0640	0995-47-2083
国立大学法人琉球大学	学生部学生支援課 学生係	098-895-8127	098-895-8128
沖縄キリスト教学院大学	学生支援部 学生課	098-946-1234	098-946-2261
山形県立米沢女子短期大学	教務学生課	0238-22-7340	0238-22-7333
会津大学短期大学部	事務室学生係	0242-37-2301	0242-37-2412
静岡県立大学短期大学部	学生室	054-202-2603	054-202-2612
三重短期大学	学生部	059-232-2341	059-232-9647
島根県立大学短期大学部	地域連携課	0852-20-0251	0852-20-0267
倉敷市立短期大学	学生部	086-473-1860	086-473-1857
光塩学園女子短期大学	学生部	011-581-0121	011-583-6982
札幌国際大学短期大学部	学生課	011-885-3365	011-885-5554
札幌大学女子短期大学部	交流推進部 国際域交流課	011-852-9138	011-856-8268
帯広大谷短期大学	地域連携推進センター ボランティア室	0155-42-4444	0155-42-4499
函館短期大学	教務課	0138-57-1800	0138-59-5549
北海道武蔵女子短期大学	学務課 学生係	011-726-3141	011-726-3144
弘前医療福祉大学短期大学部	地域貢献室	0172-27-1001	0172-27-1023
青森中央短期大学	学習支援センター	017-728-8169	017-728-8175
青森明の星短期大学	学生課	017-741-0123	017-741-9876
修紅短期大学	教務学生課	0191-24-2211	0191-24-2213
仙台青葉学院短期大学	学生総合支援センター	022-369-8002	022-399-8655
聖園学園短期大学	厚生課及び社会貢献委員会	018-862-0337	018-862-0789
いわき短期大学	ボランティアセンター	0246-35-0001	0246-35-0406
茨城女子短期大学	学生委員会 ボランティア活動担当	029-298-0596	029-295-4868
常磐短期大学	地域連携センター	029-232-2652	029-232-2861
佐野日本大学短期大学	学生支援課	0283-21-0875	0283-21-0892
足利短期大学	学生委員会	0284-21-8242	0284-21-1270
育英短期大学	学生支援課	027-352-1981	027-353-8225
群馬医療福祉大学短期大学部	地域連携センター	027-253-0294	027-254-1294
高崎商科大学短期大学部	地域連携センター	027-347-3350	027-347-3386
明和学園短期大学	学生課	027-231-8286	027-231-8062

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
浦和大学短期大学部	福祉教育センター	048-878-6000	048-878-3558
植草学園短期大学	大学事務局 キャリア支援課	043-233-9080	043-239-2650
清和大学短期大学部	学務課 学生係	0438-30-5562	0438-30-5520
千葉敬愛短期大学	事務室 学生係	043-486-7111	043-486-2200
東京経営短期大学	学生支援部 学務課	047-328-6161	047-328-6163
ヤマザキ動物看護専門職短期大学	事務局事務部教務・学生課	03-3468-1101	03-3468-1102
駒沢女子短期大学	大学短大事務部 学生支援課	042-350-7111	042-350-7112
女子栄養大学短期大学部	短期大学部教務学生課	03-3576-3244	03-3576-2482
大妻女子大学短期大学部	学生支援センター 学生支援グループ	03-5275-6071	03-5275-6098
東京成徳短期大学	キャンパスライフ支援課	03-3908-4569	03-3908-9700
白梅学園短期大学	学生部キャリアサポート課	042-346-5620	042-346-5644
目白大学短期大学部	学生部学生課	03-5996-3123	03-5996-3050
有明教育芸術短期大学	キャリアサポートセンター	03-5579-6211	03-5579-6212
鎌倉女子大学短期大学部	学生センター 学生課	0467-44-2297	0467-44-2253
小田原短期大学	学習・実習サポートセンター	0465-22-0285	0465-23-4090
湘北短期大学	学生課	046-250-8924	046-247-3667
洗足こども短期大学	実習・進路サポート室	044-856-2982	044-856-2765
鶴見大学短期大学部	学生支援課	045-580-8217	045-580-8258
富山短期大学	教務部・学生部 学務課 地域連携センター	076-436-5457	076-436-0133
金城大学短期大学部	教学支援部	076-276-4411	076-275-4183
上田女子短期大学	地域連携センター	0268-39-7061	0268-39-7062
佐久大学信州短期大学部	学生課	0267-68-6680	0267-68-6687
信州豊南短期大学		0266-41-4411	0266-41-4420
飯田女子短期大学	学生部学生課	0265-22-4460	0265-22-4474
高山自動車短期大学	厚生課	0577-32-4440	0577-32-4081
正眼短期大学	ボランティアセンター	0574-29-1372	0574-29-1320
大垣女子短期大学	学生支援課	0584-81-6820	0584-81-6818
中日本自動車短期大学	学生部	0574-26-7121	0574-26-0840
浜松学院大学短期大学部		053-473-6100	053-473-6196
愛知みずほ大学短期大学部	学生・厚生委員会	052-882-1815	052-882-5700
愛知工科大学自動車短期大学	学務課	0533-95-1131	0533-68-9320
愛知文教女子短期大学	学生支援部	0587-32-5169	0587-34-2870
修文大学短期大学部	学生支援センター	0586-45-2101	0586-45-4410
名古屋女子大学短期大学部	学生支援センター・学生生活支援部門	052-852-9736	052-852-9438
名古屋短期大学	学務部 学生課	0562-97-1306	0562-98-1162
名古屋文化短期大学	学生委員会、学生会	052-981-7112	052-931-7117
ユマニテク短期大学	教学課	059-356-8170	059-356-0036
びわこ学院大学短期大学部	学生支援課	0748-35-0001	0748-23-7202
京都経済短期大学	学生支援課	075-331-3159	075-331-3330
京都光華女子大学短期大学部	女性キャリア開発研究センター	075-325-5315	075-314-4515
堺女子短期大学	キャリア支援センター	072-227-8814	072-227-4187

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
四條畷学園短期大学	(授業担当者が相談対応)	072-879-7231	072-879-7237
大阪健康福祉短期大学	キャリア支援センター	072-226-6625	072-223-1301
大阪千代田短期大学	学務課	0721-52-4141	0721-52-4747
藍野大学短期大学部	事務部 学生課	072-626-2361	072-621-1901
園田学園女子大学短期大学部	社会連携推進センター 研究支援・地域連携ユニット	06-6429-1201	06-6422-8523
神戸教育短期大学	学務部	078-611-3351	078-611-3356
神戸女子短期大学	学生課	078-303-4706	078-303-4703
姫路日ノ本短期大学	キャリアセンター	079-232-4140	079-232-8309
頌栄短期大学	進路支援室	078-842-2541	078-851-2154
就実短期大学	学生課	086-271-8130	086-271-8131
安田女子短期大学	教学部学習支援課	082-878-9909	082-878-9944
比治山大学短期大学部	学生支援室	082-229-0122	082-229-8946
下関短期大学	学生課	083-223-0339	083-228-2179
香川短期大学	学生支援部	0877-49-8030	0877-49-5252
今治明德短期大学	学生委員会	0898-22-7279	0898-22-7857
松山東雲短期大学	学生支援課	089-931-6211	089-934-9055
九州女子短期大学	キャリア支援課	093-693-3087	093-693-8203
九州大谷短期大学	学生支援課	0942-53-9900	0942-53-9901
西日本短期大学	社会福祉実習指導室、保育実習指導室、緑地環境学科、健康スポーツコミュニケーション学科、社会福祉会サークル、手話サークル	092-721-1183	092-721-1536
中村学園大学短期大学部	学生部	092-851-2593	092-851-6514
福岡医療短期大学	短大事務課	092-801-0923	092-801-4473
福岡女子短期大学	学生支援課	092-922-4034	092-922-6453
九州龍谷短期大学	地域交流センター及び学務課	0942-85-1121	0942-82-8411
長崎女子短期大学	ボランティア部	095-826-5344	
東九州短期大学	学生支援センター	0979-22-2425	0979-25-3935
宮崎学園短期大学	地域連携・実習指導室	0985-85-0146	0985-85-0101
鹿児島女子短期大学	学生支援課	099-254-9191	099-254-9197
沖縄キリスト教短期大学	学生支援部 学生課	098-946-1234	098-946-2261

3 その他の大学・短大

大学名	ボランティア担当部署名	電話番号	FAX番号
秋田大学	学生支援・就職課 課外活動担当	018-889-2255	018-832-5364
会津大学	学生課学生支援係	0242-37-2515	0242-37-2526
東京家政大学	学生支援センター 学生支援課	03-3961-2079	03-3961-5273
日本女子大学	大学改革推進室（社会連携担当）	03-5981-3770	03-5981-3774
国立大学法人新潟大学	新潟大学学生ボランティア本部「ボランち」	025-262-7530	025-262-7530
岐阜協立大学	ボランティア・ラーニングセンター	0584-77-3505	0584-77-3506
静岡県立大学	学生部 学生室	054-264-5009	054-264-5299
愛知産業大学	教務・学生部 学生課	0564-48-4802	0564-48-3190
天理大学	学生部 学生支援課 等	0743-63-8248	0743-63-7886
岡山県立大学	正課外・ボランティア活動支援部門、COC+推進室、教学課学生支援班	0866-94-9164	0866-94-2196
國學院大學北海道短期大学部	コミュニティカレッジセンター	0125-23-4111	0125-23-5590
武蔵丘短期大学		0493-54-5101	0493-54-6756
東京家政大学短期大学部	学生支援センター 学生支援課	03-3961-2079	03-3961-5273
横浜女子短期大学	学務部学生課、キャリア支援室	045-835-8103	045-832-7246
富山福祉短期大学	ボランティアセンター	0766-55-5567	0766-55-5570
北陸学院大学短期大学部	教学・学生支援センター 学生支援係（大学短大部共通）	076-280-3850	076-280-3851
愛知学泉短期大学	学生課	0564-34-1214	0564-34-1216

ご協力いただいたみなさん

◆特定非営利活動法人ユースビジョン

2009年に特定非営利活動法人ユースビジョンのみなさんによって実施された「全国大学ボランティアセンター実態調査」の調査内容を参考にさせていただきました。

◆大学ボランティアセンターのコーディネーターのみなさん

本調査の実施にあたり、調査票の作成にご協力いただきました。

青山学院大学ボランティアセンター	佐藤 亜希さん
聖学院大学ボランティアセンター	川田 虎男さん
東京都立大学ボランティアセンター	齋藤 元気さん
元東京都立大学ボランティアセンター	足立 陽子さん
明治学院大学ボランティアセンター	菅沼 彰宏さん
明星大学ボランティアセンター	畑野 理美さん

大学ボランティアに関する全国実態調査報告書

発行日：2021年3月

発 行：社会福祉法人東京都社会福祉協議会

東京ボランティア・市民活動センター

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL:03-3235-1171 FAX:03-3235-0050



(センター管理用)

